

---

# Atrust Device Manager 2.08.049

## ユーザーズガイド

第 1 章 概 要

第 2 章 ADM のインストールとアップグレード

第 3 章 ADM の使用

第 4 章 クライアント設定の指定

第 5 章 ADM の応用的な使い方

第 6 章 注意・制限事項

# 目次

第1章	概要 .....	6
1.1.	はじめに .....	7
1.2.	新機能 .....	8
1.3.	主な機能 .....	9
1.4.	システム要件 .....	10
1.4.1.	サポートされるエンドポイントデバイス .....	10
1.4.2.	サポートされるオペレーティングシステム .....	11
1.4.3.	ハードウェア要件 .....	11
1.4.4.	使用するポート .....	12
1.4.5.	ネットワーク環境の設定 .....	13
第2章	ADM のインストールとアップグレード .....	15
2.1.	ADM のインストール .....	16
2.2.	初期設定 .....	21
2.3.	ADM のアップグレード .....	22
2.4.	ADM のアンインストール .....	23
第3章	ADM の使用 .....	24
3.1.	ADM のインターフェース .....	25
3.1.1.	インターフェースの概要 .....	25
3.1.2.	使用可能なタスク一覧 .....	26
3.2.	基本的な管理環境の整備 .....	28
3.2.1.	「システム」タブの概要 .....	28
3.2.2.	使用可能なタスク一覧 .....	29
3.2.3.	管理用アカウントの管理 .....	30
3.2.4.	シンクライアントのファームウェアファイルの管理 .....	33
3.2.5.	WES パッケージファイルの管理 .....	36
3.2.6.	クライアントスナップショットの管理 .....	39
3.2.7.	証明書の管理 .....	42
3.2.8.	配置サーバーの指定 .....	44
3.2.9.	サービス IP の選択 .....	46
3.2.10.	自動ログアウトの設定 .....	47
3.2.11.	自動登録の設定 .....	48
3.2.12.	管理対象デバイスのパスワード保護の設定 .....	57
3.2.13.	データベースソースの設定 .....	61
3.2.14.	インターフェース言語の選択 .....	63
3.2.15.	管理データベースのバックアップ .....	64
3.2.16.	データベースアーカイブファイルの管理 .....	65

3.2.17. データベースアーカイブファイルの復元 .....	67
3.2.18. タスク スケジュール .....	68
3.3. 管理対象グループへのクライアントの追加 .....	72
3.3.1. 「スキャン」タブの概要 .....	72
3.3.2. 使用可能なタスク一覧 .....	72
3.3.3. クライアントの検出と管理 .....	73
3.3.4. ローカルネットワークをスキャン .....	74
3.3.5. IP 範囲でスキャン .....	75
3.3.6. IP 範囲一覧の作成と管理 .....	76
3.3.7. IP 範囲のリストでスキャン .....	78
3.3.8. パスワード保護されたデバイスを含むスキャン .....	79
3.4. すべてのクライアントの管理 .....	80
3.4.1. 「シンクライアント」タブの概要 .....	80
3.4.2. 使用可能なタスク一覧 .....	81
3.4.3. クライアントグループの作成 .....	82
3.4.4. クライアントグループの管理 .....	83
3.4.5. クライアントの別のグループへの移動 .....	84
3.4.6. グループからのクライアントの削除 .....	85
3.4.7. クライアントステータスアイコン .....	86
3.4.8. クライアント設定 .....	87
3.4.9. プロファイルグループの作成 .....	89
3.4.10. プロファイルグループの管理 .....	90
3.4.11. プロファイル設定の作成 .....	92
3.4.12. プロファイル設定の管理 .....	96
3.4.13. 個別クライアント設定の使用 .....	104
3.4.14. ハイブリッドクライアント設定の使用 .....	106
3.4.15. ローカルネットワークを介してクライアントに設定を配信適用する .....	108
3.4.16. ローカルネットワークを介してクライアントから設定を取得する .....	115
3.4.17. 証明書の反映 .....	120
3.4.18. クライアントへのメッセージの送信 .....	122
3.4.19. クライアントの基本情報の編集または表示 .....	124
3.4.20. ローカルネットワークを介してクライアントを再起動する .....	125
3.4.21. ローカルネットワークを介してクライアントをシャットダウンする .....	128
3.4.22. ローカルネットワークを介してクライアントを起動する .....	131
3.4.23. クライアントファームウェアの更新 .....	136
3.4.24. ソフトウェアパッケージのインストールとアンインストール .....	140
3.4.25. クライアントスナップショットの取得 .....	142
3.4.26. クライアントスナップショットのインストール .....	144
3.4.27. シャドウ機能を使用する .....	146
3.4.28. クライアントデータのエクスポート .....	149

3.4.29.	クイックサーチを使用したプロファイル、シンクライアント、ログの検出 .....	150
3.4.30.	フィルターを使用したクライアントの検出 .....	152
3.4.31.	フィルターの管理 .....	155
3.5.	イベントログの表示と管理 .....	157
3.5.1.	「ログ」タブの概要 .....	157
3.5.2.	使用可能なタスク一覧 .....	157
3.5.3.	イベントログの表示 .....	158
3.5.4.	イベントログのエクスポート .....	159
3.5.5.	イベントログの消去 .....	161
3.6.	ソフトウェア情報の表示 .....	163
3.6.1.	「アバウト」タブの概要 .....	163
3.6.2.	使用可能なタスク一覧 .....	163
3.6.3.	ADM に関する情報の表示 .....	164
3.6.4.	Atrust への問い合わせに関する情報の表示 .....	164
3.6.5.	Atrust ソフトウェアライセンス契約の表示 .....	164
第 4 章	クライアント設定の指定 .....	165
4.1.	デスクトップ仮想化とクライアント設定 .....	166
4.2.	クライアント設定一覧 .....	167
4.2.1.	US310e .....	167
4.2.2.	US120f .....	168
4.3.	グループ設定の編集 .....	170
4.4.	個別設定の編集 .....	174
4.5.	ADM を使用したクライアントへのカスタム壁紙の使用法 .....	176
4.6.	ACS を使用したクライアント設定の指定 .....	181
第 5 章	ADM の応用的な使い方 .....	182
5.1.	オートセットアップのファイルサーバーとして利用する .....	183
第 6 章	注意・制限事項 .....	187
6.1.	ADM と ACS 設定の同期 .....	188
6.2.	管理登録とその解除 .....	189
6.3.	スナップショット取得およびインストールの注意事項 .....	191
6.3.1.	スナップショットの種類 .....	191
6.3.2.	スナップショットインストール時のデフォルトユーザーアカウント別動作 .....	191
6.3.3.	ドメイン参加について .....	192
6.4.	ファームウェアアップデート/スナップショットインストールの注意事項 .....	193
6.4.1.	ACS 設定の保持 .....	193
6.4.2.	アクティベーション(ライセンス認証)の解除 (US310e のみ) .....	193
6.5.	ADM 管理コンソールへのアクセスの注意事項 .....	194
6.6.	VNC(リモートシャドウ)の注意事項 .....	195
6.7.	ADM サーバーのバックアップと復元に関する注意事項 .....	196
6.7.1.	データベースバックアップとファームウェアイメージおよびパッケージのバックアップ .....	196

6.7.2.	ADM サーバーの復元 .....	196
6.8.	制限事項 .....	197
6.8.1.	ADM の制限事項 .....	197
6.8.2.	US310e の制限事項.....	198
6.8.3.	US120f の制限事項 .....	199

# 第1章 概要

本章では、Atrust Device Manager (以降 ADM と表記) の概要とシステム要件を示します。

## 1.1 はじめに

ADM の紹介

## 1.2 新機能

この製品リリースにおける新機能および強化された機能

## 1.3 主な機能

ADM の主な機能

## 1.4 システム要件

ADM をインストールして操作するための要件

## 1.1. はじめに

デスクトップの仮想化は、IT インフラストラクチャーの設計と実装を再考するための新しい視点を提供します。デスクトップ仮想化インフラストラクチャーでは、クライアントは煩雑なデスクトップではなく、サーバーから提供される配信サービスにユーザーがアクセスするための単なるエンドポイントデバイスとなります。

デスクトップ仮想化テクノロジーの導入には、以下の利点があります。

- アプリケーション/デスクトップへのオンデマンドアクセス
- 作業環境の集中管理
- エンドポイントソフトウェア/ハードウェアの問題の大幅な減少
- システム保守の簡素化
- システムセキュリティの向上
- 低コストのエンドポイントデバイスを使用したスケーラビリティの向上

デスクトップ仮想化テクノロジーを導入した場合、デスクトップ仮想化インフラストラクチャー内の多数のエンドポイントデバイスを管理するための強力なソフトウェアが必要です。ADM コンソールは、このニーズを満たすように設計されています。ADM コンソールを使用すると、クライアントをリモートから展開、管理、更新できます。また、1 台のコンピューターから複数のユーザーを支援できます。さらに、柔軟でセキュアな仕組みにより、グループ単位で簡単にすばやくクライアントを管理および更新できます。加えて、ユーザーによる問題の解決またはローカル設定の指定をリモートから支援できます。

## 1.2. 新機能



ADM と US310e 旧ファームウェアバージョンの組み合わせで使用した場合、ADM の一部機能に対応できません。US310e のファームウェアを 1.30-INTL にアップグレードするか、1.20-INTL に US310e WE8S 1.20-INTL アップデートパッケージ Ver.1.3 for ADM を適用することを推奨します。

この製品リリースでの新機能、および強化された機能は以下のとおりです。

### US120f をサポート

ADM の管理デバイスに US120f をサポートしました。

### デバイスの「パスワード保護」機能の追加

ADM のデバイスのスキャンにパスワード保護機能を追加しました(US120f のみ)。

### デバイスの自動登録機能の追加

ADM にデバイスを自動登録する機能を追加しました。

### カスタム壁紙の設定

管理デバイスにカスタム壁紙の設定機能を追加しました。



## 1.3. 主な機能

ADM の主な機能は次の通りです。

- 多数のクライアントへのカスタム設定のプッシュ送信
- クライアントのファームウェアの更新とソフトウェアパッケージのインストール
- 一括展開用のクライアントスナップショットの作成およびシステムのバックアップと復元
- ローカルネットワークを介したクライアントの再起動、電源遮断、およびスリープモードの解除
- 自動実行タスクのスケジューリング
- ユーザーによるトラブルシューティングのリモート支援
- 自動的に取得したクライアント情報によるクライアントの識別と IT 資産の管理
- ゼロクライアント管理の支援



ゼロクライアントは、オペレーティングシステムがプリインストールされていないエンドポイントデバイスです。US310e/US120f はゼロクライアントではないため、ゼロクライアントの管理は非サポートです。

## 1.4. システム要件

ADM をインストールして操作するためのシステム要件は、以下のとおりです。

### 1.4.1. サポートされるエンドポイントデバイス

ADM は、以下のエンドポイントデバイスをサポートしています。

#### モデル：

- US310e
- US120f

#### ファームウェア：

##### US310e

- 1.10-INTL
- 1.20-INTL
- 1.30-INTL

##### US120f

- 8.43-FAKC



- 上の一覧は、サポートされているクライアントすべてを網羅しているわけではありません。今後、新しく開発されたモデルが追加されることもあります。
- 各種モデルの詳細な仕様について詳しくは、弊社の Web サイト (<http://jpn.nec.com/thinclient/support/index.html>) を参照してください。

### 1.4.2. サポートされるオペレーティングシステム

- Windows 7 SP1
- Windows 8 / 8.1
- Windows 10
- Windows Server 2008 / 2008R2
- Windows Server 2012 / 2012 R2
- Windows Server 2016



ADM をインストールするサーバーは、サービスを ADM の専用にする必要があります。追加の機能(ドメインコントローラー、バックアップコントローラー、メールサーバー、Web サーバー、DHCP サーバー、MSMQ サーバー、またはアプリケーションサーバーなど)を実行するサーバーにインストールしないでください。

### 1.4.3. ハードウェア要件

- Pentium 4、1.0 GHz プロセッサーまたは同等のプロセッサー
- 512 MB の空きシステムメモリ容量
- 2 GB の空きディスク容量(インストール用) / 100 GB 以上の空きディスク容量(ファームウェアとスナップショットの管理用)
- 100 Mb の Ethernet ネットワークアダプター / ネットワークインターフェースカード

## 1.4.4. 使用するポート

ADM のバックグラウンドサービスと使用されるポート			
サービス名	説明	プロトコル	ポート
Atrust - Apache2.2	<b>Atrust Apache HTTP Server</b> Atrust の Web ベースのユーザーインターフェースとファームウェアアップデートに使用されます。	TCP	10443 10080
Atrust - Multicast	<b>Atrust Multicast Service</b> 1 対多ファームウェアアップデートのサービスに使用されます。	TCP	10081
Atrust - NBD	<b>Atrust NBD Service</b> ゼロイメージをダウンロードするために、ゼロクライアントのネットワークブロックデバイスを提供するために使用されます。	TCP	10010~ 10030
Atrust - PostgreSQL	<b>Atrust PostgreSQL Database Server</b> Atrust Device Manager のデータベースに使用されます。	TCP	5432 (ローカルのみ)
Atrust - PXE	<b>Atrust PXE Service</b> ゼロクライアントがネットワークブートするために使用されます。	UDP	4011 67
Atrust - TFTP	<b>Atrust TFTP Service</b> ゼロクライアントが PXE ブート時にカーネルとブートローダーをダウンロードするために使用します。	UDP	69
Atrust Device Manager	<b>Atrust Device Manager Agent</b> クライアントにビルトインされている ACS との通信およびクライアント設定の管理に使用されます。	TCP UDP	10005 10007 10006



サービス名は Windows サービスの管理コンソールで確認できます。



- ADM の使用するポートは ADM インストール時に Windows ファイアウォールの例外に自動登録されます。手動で登録する必要はありません。
- 使用するポートの変更はサポートされません。

### 1.4.5. ネットワーク環境の設定

#### DHCP サーバーの導入

ADM でシンククライアントのファームウェアアップデートおよびスナップショットの取得、インストールを行うには DHCP サーバーの導入が必要になります。DHCP サーバーを導入しない場合は前述の機能は使用できません。ファームウェアアップデートおよびスナップショットのイメージファイルをサーバーから取得するために、シンククライアントは UEFI ブート時にネットワークリンクを確立する必要があり、その情報は DHCP サーバーから供給されます。

#### Wake on LAN

ADM と異なるセグメントに所属するシンククライアントに対して、Wake on LAN を送信することはできません。Wake on LAN の使用するマジック・パケットはレイヤー2 ブロードキャストのため、異なるセグメントに配置した PC に対して送信できないためです。



Wake on LAN は有線 LAN の機能です。無線 LAN クライアントには使用できません。



US120f では、Wake on LAN によるサスペンドからの復帰はサポートされません。

#### VPN

シンククライアント上の VPN ソフトウェアを使用して、ネットワークアドレス変換(NAT)を実装するリモートアクセス VPN 環境において、ADM の使用は非サポートです。



クライアント上でネットワークアドレス変換(NAT)を行わない、VPN ソフトウェアを実装したルータ同士で構成されたサイト間 VPN の場合はサポートされます。



リモートアクセス VPN 環境では ADM のすべての機能が非サポートであることに注意してください。

#### 無線 LAN

無線 LAN 環境において、ファームウェアアップデートおよびスナップショットの取得、インストールを行うことはできません。



無線 LAN 環境下で、ファームウェアアップデートおよびスナップショットの取得、インストール以外の機能については使用可能です。

**IEEE802.1x 認証**

有線/無線 LAN で IEEE802.1x(EAP-PEAP、EAP-TLS 等)ユーザー認証を行う環境において、ファームウェアアップデートおよびスナップショットの取得、インストールを行うことはできません。ファームウェアアップデートおよびスナップショットのイメージファイルをサーバーから取得するために、シンクライアントは UEFI ブート時にネットワークリンクを確立する必要がありますが、IEEE802.1x 認証には対応していません。

## 第2章 ADM のインストールとアップグレード

本章では、ADM の詳細なインストールおよびアップグレード手順を示します。

### 2.1 ADM のインストール

ADM のインストール

### 2.2 初期設定

ADM の初期設定

### 2.3 ADM のアップグレード

ADM のアップグレード

### 2.4 ADM のアンインストール

ADM のアンインストール

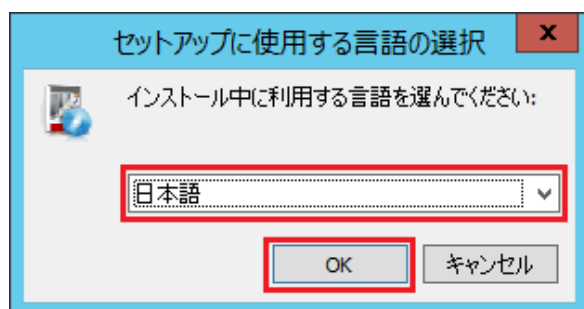
## 2.1. ADM のインストール

コンピューターに ADM をインストールするには、以下の手順を実行してください。



- サポートされているオペレーティングシステムを使用していることを確認してください。サポートされているオペレーティングシステムについては本書の「第1章 1.4.2 サポートされているオペレーティングシステム」を参照してください。
- コンピューターがシステム要件を満たしていることを確認してください。システム要件については本書の「第1章 1.4 システム要件」を参照してください。
- 新しいバージョンの ADM をインストールする場合は、現在の ADM をアンインストールしないでアップグレードインストールすることをお勧めします。ADM のアップグレード手順については本書の「第2章 2.3 ADM のアップグレード」を参照してください。
- ADM をインストールするコンピューターに固定 IP アドレスを割り当てます。

1. ADM のインストーラーをダウンロードし、コンピューター内の任意の場所に格納します。
2. 管理者アカウントでコンピューターにサインインし、ADM のインストーラーをダブルクリックします。
3. インストール時に使用する言語を選択します。





4. 「セットアップウィザード」が表示されます。「次へ(N) >」をクリックして続行します。



ウィザードが ADM のインストールを準備しながら次のページ/ステップに移るまでに数秒かかる場合があります。

5. 必要なプログラムをインストールするために再起動を求めるメッセージが表示されます。「すぐに再起動(Y)」チェックボックスをクリックしてオンにし、「完了(F)」をクリックします。



6. 再起動後、「セットアップウィザード」が再度表示されます。「次へ(N) >」をクリックして続行します。



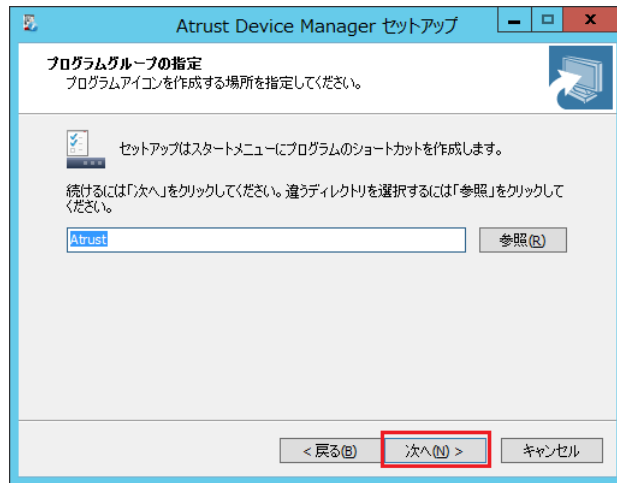
7. 「使用許諾契約書の同意」ページが表示されます。この契約を読み、同意する場合は「同意する(A)」チェックボックスをクリックしてオンにし、「次へ(N) >」をクリックして続行します。



8. デフォルトのインストールディレクトリを使用するか、「参照(R)」をクリックして適切なディレクトリを指定し、「次へ(N) >」をクリックして続行します。



9. デフォルトの「スタートメニュー」フォルダーを使用するか、プログラムのショートカット用に新しいフォルダーを入力して作成します。または、「参照」をクリックし、既存のフォルダーを選択します。「次へ(N) >」をクリックして続行します。



10. 「デスクトップ上にアイコンを作成する」チェックボックスをクリックしてオンまたはオフにし、「次へ(N) >」をクリックして続行します。

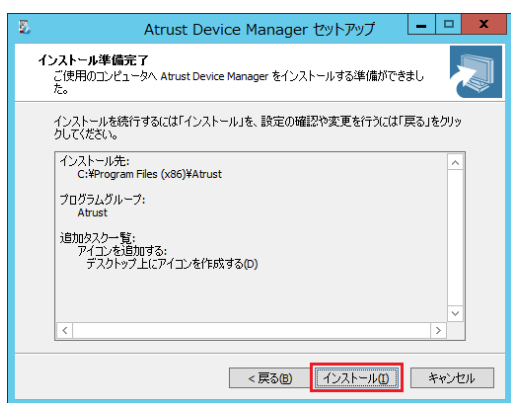


11. スーパーユーザーのデフォルトのデータベースパスワードを変更するか、デフォルトを使用します。完了後、「次へ(N) >」をクリックして続行します。



- スーパーユーザーは、ADM のデータベースにフルアクセスできるユーザーです。
- デフォルトのパスワードは「secret」です。

12. 「インストール(I)」をクリックし、コンピューターへの ADM のインストールを開始します。



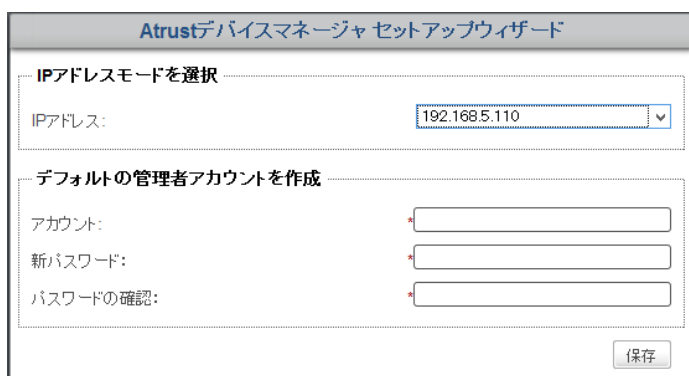
13. 完了後、「完了(F)」をクリックして終了します。



## 2.2. 初期設定

初めて ADM を起動する場合は、初期設定を完了する必要があります。以下の指示に従い必要な設定を行ってください。

1. コンピューターで ADM を起動します。
2. サービス IP アドレスの選択と管理者アカウントの作成を求めるウィンドウが表示されます。ドロップダウンメニューをクリックして使用可能な IP アドレスの一覧から適切な IP アドレスを選択し、適切なアカウント名とパスワードを入力し、「保存」をクリックして続行します。

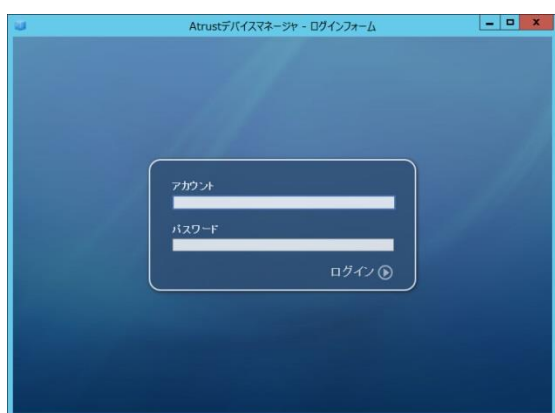


The image shows the 'Atrust Device Manager Setup Wizard' window. It has two main sections. The first section, 'IPアドレスモードを選択' (Select IP Address Mode), contains an 'IPアドレス:' label and a dropdown menu showing '192.168.5.110'. The second section, 'デフォルトの管理者アカウントを作成' (Create default administrator account), contains three input fields: 'アカウント:' (Account), '新パスワード:' (New Password), and 'パスワードの確認:' (Confirm Password). Each field has a red asterisk to its right. At the bottom right of the window is a '保存' (Save) button.



- 未接続の LAN ポートは、使用可能な IP アドレスの一覧でアドレス値 0.0.0.0 を使用して表示されることがあります。
- ADM のサービス IP には固定 IP アドレスを使用することを強くお勧めします。サービス IP を変更すると、すべての管理対象クライアントが管理不能になる場合があります。

3. アカウント情報(アカウント名とパスワード)で ADM にサインインするための「ログイン」画面が表示されます。



The image shows the 'Atrust Device Manager - ログインフォーム' (Login Form) window. It has a blue background. In the center, there is a white rounded rectangle containing two input fields: 'アカウント' (Account) and 'パスワード' (Password). Below these fields is a 'ログイン' (Login) button with a right-pointing arrow.

4. Atrust Device Manager の管理インターフェースが表示されます。



次章では、ADM の機能と使用について詳しく説明します。

## 2.3. ADM のアップグレード

ADM は、古いバージョンをアンインストールしないで新しいプログラムをインストールするだけで、より新しいバージョンにアップグレードできます。ADM のインストール手順について詳しくは、本書の「第2章 2.1 ADM のインストール」を参照してください。



古いバージョンをアンインストールすることなく ADM をアップグレードすることを強くお勧めします。コンピューターから現在の ADM をアンインストールすると、すべての設定およびクライアント CA (Certificate Authority) ファイルが削除されます。このコンピューターでは、ADM を新しくインストールしても、元々管理下にあったクライアントを管理できず、これらのクライアントは管理不能になります。



ADM をアップグレードする前に、必ず ADM コンソールからログアウトし、コンソールを終了してください。

## 2.4. ADM のアンインストール

コンピューターから ADM をアンインストールするには、以下の手順を実行してください。



- ADM をアップグレードする場合は、現在の ADM をアンインストールしないことをお勧めします。詳しくは、本書の「第 2 章 2.3 ADM のアップグレード」を参照してください。
- 作業を進める前に、ADM の重要なデータをバックアップしてください。



**ADM をアンインストールする前に、必ず ADM コンソールからログアウトし、コンソールを終了してください。**

1. 「コントロールパネル」で Atrust Device Manager をアンインストールします。
2. 画面に表示される指示に従い、アンインストールを完了します。

## 第3章 ADM の使用

本章では、ADM でクライアントを管理する手順を示します。

### 3.1 ADM のインターフェース

インターフェースの概要

### 3.2 基本的な管理環境の整備

「システム」タブの概要

使用可能なタスク一覧

### 3.3 管理対象グループへのクライアントの追加

「スキャン」タブの概要

使用可能なタスク一覧

### 3.4 すべてのクライアントの管理

「シンクライアント」タブの概要

使用可能なタスク一覧

### 3.5 イベントログの表示と管理

「ログ」タブの概要使用可能なタスク一覧

### 3.6 ソフトウェア情報の表示

「アバウト」タブの概要使用可能なタスク一覧



## 3.1. ADM のインターフェース

ADM を使用すると、クライアントをリモートから展開、管理、更新できます。また、1 台のコンピューターから複数のユーザーを支援できます。さらに、柔軟でセキュアな仕組みにより、グループ単位で簡単にすばやくクライアントを管理できます。加えて、ユーザーによる問題の解決またはローカル設定の指定をリモートから支援できます。

### 3.1.1. インターフェースの概要

ADM にアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. コンピューターで ADM を起動します。
2. アカウント情報を入力し、「Enter」キーを押すか「ログイン」をクリックします。「Atrust Device Manager」ウィンドウが表示されます。

図 1 インターフェースの概要



#### インターフェース要素

番号	名称	説明
1	「シンククライアント」タブ	クライアント管理にアクセスする場合にクリックします。
2	「スキャン」タブ	管理対象になっていないシンククライアントをローカルネットワークで検索する場合にクリックします。
3	「システム」タブ	基本的な管理環境の整備と設定を行う場合にクリックします。
4	「ログ」タブ	イベントログを表示する場合にクリックします。
5	「アバウト」タブ	ADM の情報を表示する場合にクリックします。

インターフェース要素		
番号	名称	説明
6	「ログアウト」ボタン	ADM からログアウトする場合にクリックします。
7	管理 / 情報エリア	必要なタスクを実行する、適切な設定を指定する、または選択したタブで入手できる関連情報を表示する場合に選択します。
8	ナビゲーションエリア	タブの下にある特定の項目、オプション、またはタスクを選択する場合にクリックします。
9	メッセージエリア	管理活動についてのメッセージを表示する場合にクリックします。

### 3.1.2. 使用可能なタスク一覧

以下の表に、各タブで提供される機能を示します。詳しくは、対応する以下の参照先を参照してください。

タブ	機能一覧	参照先
システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理アカウントの作成</li> <li>・シンクライアントのファームウェアファイルの管理</li> <li>・WES パッケージファイルの管理</li> <li>・クライアントスナップショットの管理</li> <li>・リモートコンピューターの証明書の管理</li> <li>・配置サーバーの指定</li> <li>・ADM の設定の指定</li> <li>・管理データベースのバックアップ</li> <li>・データベースアーカイブファイルの管理</li> <li>・管理データベースの復元</li> <li>・タスクスケジュール</li> </ul>	第 3 章 3.2 基本的な管理環境の整備
スキャン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローカルネットワーク全範囲におけるクライアントの検索</li> <li>・指定範囲の IP アドレスにあるクライアントの検索</li> <li>・あらかじめ設定されている IP 範囲一覧を使用したクライアントの検索</li> <li>・「パスワード保護」されたクライアントを含むクライアントの検出</li> </ul>	第 3 章 3.3 管理対象グループへのクライアントの追加

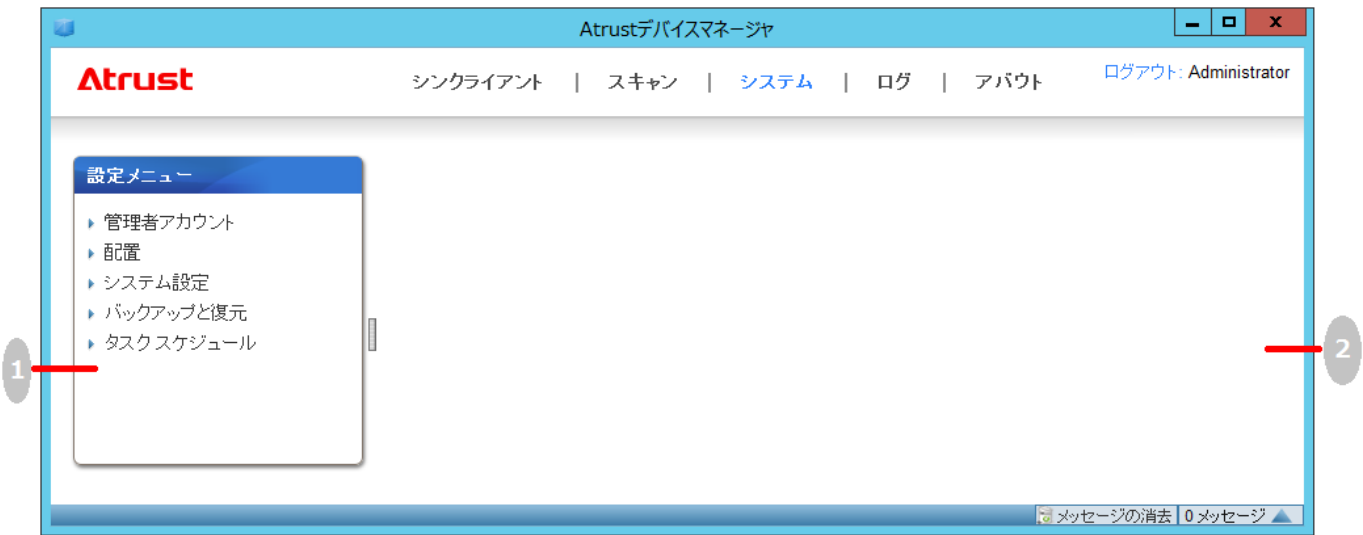
タブ	機能一覧	参照先
シンクライアント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クライアントグループの作成および管理</li> <li>・クライアントステータスアイコン</li> <li>・プロファイルグループの作成および管理</li> <li>・クライアントの個別設定の使用</li> <li>・クライアントのハイブリッド設定の使用</li> <li>・クライアントに設定を配信</li> <li>・クライアントから設定を取得</li> <li>・クライアントに証明書を反映</li> <li>・クライアントにメッセージを送信</li> <li>・クライアントのリモート再起動</li> <li>・クライアントのリモートシャットダウン</li> <li>・クライアントの Wake-On-LAN</li> <li>・クライアントファームウェアの更新</li> <li>・ソフトウェアパッケージのインストールとアンインストール</li> <li>・スナップショットの取得</li> <li>・スナップショットのインストール</li> <li>・シャドウ機能を使用する</li> <li>・クライアントのリモート制御</li> <li>・クライアントデータのエクスポート</li> <li>・クイックサーチを使用したプロファイル/クライアント/ログの検出</li> <li>・フィルターの管理</li> </ul>	第 3 章 3.4 すべてのクライアントの管理
ログ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントログの表示</li> <li>・イベントログのエクスポート</li> <li>・イベントログの消去</li> </ul>	第 3 章 3.5 イベントログの表示と管理
アバウト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ADM に関する情報の表示</li> <li>・Atrust への問い合わせに関する情報の表示</li> <li>・ソフトウェアライセンス契約の表示</li> </ul>	第 3 章 3.6 ソフトウェア情報の表示

3.2. 基本的な管理環境の整備

3.2.1. 「システム」タブの概要

「システム」タブでは、基本的な管理環境を整備できます。「システム」タブの機能にアクセスするには、ADM でこのタブをクリックします。

図 1 「システム」タブの概要



インターフェース要素		
番号	名称	説明
1	ナビゲーションエリア	適切な設定項目にアクセスする場合にクリックします。
2	管理エリア	必要なタスクを実行する、適切な設定を指定する、または選択した項目で入手できる関連情報を表示する場合に選択します。

## 3.2.2. 使用可能なタスク一覧

番号	使用可能なタスク	参照先
1	管理用アカウントの作成	第3章 3.2.3 管理者用アカウントの管理
2	アカウントの削除	
3	アカウントの編集	
4	シンクライアントのファームウェアファイルのインポート	第3章 3.2.4 シンクライアントのファームウェアファイルの管理
5	シンクライアントのファームウェアファイルの削除	
6	シンクライアントのファームウェアファイルのスキャン	
7	WES パッケージファイルのインポート	第3章 3.2.5 WES パッケージファイルの管理
8	WES パッケージファイルの削除	
9	WES パッケージファイルのスキャン	
10	クライアントスナップショットのエクスポート	第3章 3.2.6 クライアントスナップショットの管理
11	クライアントスナップショットのインポート	
12	クライアントスナップショットの削除	
13	クライアントスナップショットのスキャン	
14	証明書のインポート	第3章 3.2.7 証明書の管理
15	証明書の削除	
16	配置サーバーの指定	第3章 3.2.8 配置サーバーの指定
17	サービス IP アドレスの選択	第3章 3.2.9 サービス IP の選択
18	自動ログアウトの設定	第3章 3.2.10 自動ログアウトの設定
19	自動登録の設定	第3章 3.2.11 自動登録の設定
20	管理対象デバイスのパスワード保護の設定	第3章 3.2.12 管理対象デバイスのパスワード保護の設定
21	データベースソースの設定	第3章 3.2.13 データベースソースの設定
22	インターフェース言語の選択	第3章 3.2.14 インターフェース言語の選択
23	管理データベースのバックアップ	第3章 3.2.15 管理データベースのバックアップ
24	データベースアーカイブファイルのダウンロード	第3章 3.2.16 データベースアーカイブファイルの管理
25	データベースアーカイブファイルのアップロード	
26	データベースアーカイブファイルの削除	
27	データベースアーカイブファイルの復元	第3章 3.2.17 データベースアーカイブファイルの復元
28	自動実行タスクのスケジューリング	3.2.18 自動実行タスクのスケジューリング

### 3.2.3. 管理用アカウントの管理

#### アカウントの作成

管理用アカウントを作成するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「管理者アカウント」をクリックします。
2. 管理エリアにアカウント一覧が表示されます。

+ 追加 - 削除 ✎ 編集			
ユーザ名	コメント	最終ログイン	権限
Administrator		2017-02-27 09:04:34	Admin



初めて ADM にログインする場合は、クライアント管理用管理者アカウントの作成を求められます。このアカウントはアカウント一覧で指定します。

3. 「追加」をクリックして、「追加」ウィンドウを開きます。
4. 適切なユーザー/アカウント名とパスワードを入力します。

追加

ユーザ名:

\*

新パスワード:

\*

パスワードを確認:

\*

コメント:

権限:

Admin

\* パスワードには、英字、数字、および特殊文字を含めることができます。

\* パスワードは最長40です。

追加

キャンセル



「権限」ドロップダウンメニューをクリックすると、Admin(管理者ユーザー)または User(一般ユーザー)のどちらかのユーザータイプを選択できます。管理者ユーザーは ADM にフルアクセスできるのに対し、一般ユーザーは「シンクライアント」および「ログ」タブだけを表示することができます。

5. 「追加」をクリックして適用します。

- 新しく追加したアカウントがアカウント一覧に表示されます。

+ 追加   - 削除   編集

ユーザ名	コメント	最終ログイン	権限
Administrator		2017-02-27 09:04:34	Admin
TestUser	テストユーザー		Admin

### アカウントの削除

アカウントを削除するには、以下の手順を実行してください。

- 「システム」タブで「管理者アカウント」をクリックします。
- 管理エリアにアカウント一覧が表示されます。
- 適切なアカウントを選択します。



複数のアカウントを削除するには、「Ctrl」を押しながら複数のアカウントを選択します。

- アカウント一覧の上にある「削除」をクリックします。
- 確認のための「削除」ウィンドウが表示されます。
- 「はい」をクリックして確定します。
- 選択したアカウントがアカウント一覧から削除されます。

### アカウントの編集

既存のアカウントを編集するには、以下の手順を実行してください。

- 「システム」タブで「管理者アカウント」をクリックします。
- 管理エリアにアカウント一覧が表示されます。
- 適切なアカウントを選択します。
- 「編集」をクリックして、「編集」ウィンドウを開きます。

5. 「インフォメーション」フィールドでパスワードまたはコメントを編集します。



「インフォメーション」フィールドでコメントを追加または編集するだけの場合は、選択したアカウントの現在のパスワードを入力する必要があります。

6. 「修正」をクリックして適用します。



### 3.2.4. シンクライアントのファームウェアファイルの管理

ADM を使用すると、クライアントのファームウェアをリモートから更新できます。作業を進める前に、ADM に合ったバージョンのファームウェアファイルをインポートする必要があります。



クライアントファームウェアのリモート更新手順について詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.23 クライアントファームウェアの更新」を参照してください。

#### シンクライアントのファームウェアファイルのインポート

シンクライアントのファームウェアファイルをインポートするには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「ファームウェア」をクリックします。
2. ファームウェア一覧が表示されます。

<a href="#">ファームウェアのスキャン</a> <a href="#">ファームウェアを削除</a> <a href="#">ファームウェアのインポート</a>			
名前	プラットフォーム	バージョン	モデル
ARM LINUX 8.43-FAKC	ARM Linux	8.43	US120f



ADM にファームウェアファイルをインポートしたことがない場合、ファームウェア一覧は空です。

3. ファームウェア一覧の上にある「ファームウェアのインポート」をクリックします。
4. 「ファームウェアのインポート」ウィンドウが表示されます。

ファームウェアのインポート

ファームウェアファイル:

Browse...

タイプ:

バージョン:

プラットフォーム:

ブートローダのバージョン:

モデル:

必要なディスク容量 (MB):

インポート

キャンセル

5. 「Browse…」をクリックして適切なファームウェアファイルを指定し、「開く」をクリックして確定します。



ADM はファイルチェックを自動的に実行し、ファイルがシンククライアントにとって有効なファームウェアファイルであり、ファームウェア一覧に重複がないことを確認します。

6. 「インポート」をクリックし、選択したファームウェアファイルのインポートを開始します。



7. 完了後、インポートしたファームウェアファイルがファームウェア一覧のエントリーとして表示されます。

ファームウェアのスキャン
 ファームウェアを削除
 ファームウェアのインポート

名前	プラットフォーム	バージョン	モデル
ARM LINUX 8.43-FAKC	ARM Linux	8.43	US120f
WE8S 1.30-INTL	Windows Embedded 8 Standard	1.30	US310e

### シンククライアントのファームウェアファイルの削除

シンククライアントのファームウェアファイルを削除するには、以下の手順を実行してください。

- 「システム」タブで「配置」 > 「ファームウェア」をクリックします。
- ファームウェア一覧が表示されます。
- クリックして適切なファームウェアファイルを選択し、ファームウェア一覧の上にある「ファームウェアを削除」をクリックします。



複数のファームウェアファイルを削除するには、「Ctrl」を押しながら複数のファイルを選択します。

4. 確認のための「ファームウェアを削除」ウィンドウが表示されます。
5. 「削除」をクリックして確定します。
6. 完了後、選択したファームウェアファイルがファームウェア一覧から削除されます。

#### シンクライアントのファームウェアファイルのスキャン

ファームウェアスキャン機能は、ローカルまたはリモートファームウェアファイルの検索に役立ちます。この機能が必要なシナリオは 2 つあります。最初のシナリオは、インポートしたローカルファームウェアファイルではなく、リモートファームウェアファイルでクライアントを更新することを選択した場合です。このシナリオでは、ADM の使用可能なファームウェアのローカル一覧が、ファームウェアファイルを取得することを選択した別のコンピューター上にあるファームウェアファイルのリモート一覧と同期していない場合があります。ファームウェアスキャン機能は、ローカル一覧をリモート一覧と同期できます。



クライアント管理用の別のコンピューター上にあるリモートファームウェアファイルを使用するための ADM の設定手順については、本書の「第 3 章 3.2.8 配置サーバーの指定」を参照してください。

もう 1 つのシナリオとして、別の ADM のインストールディレクトリから、使用している ADM の同じインストールディレクトリに、インポートしたファームウェアファイルのファイルセットをコピーする場合、コピーしたファームウェアファイルがファームウェア一覧のエントリーとして表示されない場合があります。



ADM のデフォルトのインストールディレクトリは、C:\Program Files (x86)\Atrust です。インポートしたファームウェアファイルのファイルセットは、C:\Program Files (x86)\Atrust\firmware の最上位の専用フォルダーに保存されます。

どちらのシナリオでも、ファームウェア一覧のエントリーをローカルまたはリモートファームウェアファイルに同期するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「ファームウェア」をクリックします。
2. ファームウェア一覧が表示されます。
3. ファームウェア一覧の上にある「ファームウェアのスキャン」をクリックします。
4. 完了後、ファームウェア一覧がローカルまたはリモートファームウェアファイルと同期されます。

### 3.2.5. WES パッケージファイルの管理

Windows Embedded Standard(以降 WES と表記)パッケージファイルを使用すると、WES ベースのシンクライアントに対してアプリケーションまたは言語パックを配信することができます。



- 使用しているクライアントの WES バージョンが、複数のユーザーインターフェースパックをサポートしていない場合もあります。この場合、クライアントに対して言語パックをインストールすると、表示(ユーザーインターフェース)言語が新しい言語に変更されます。
- クライアントに WES パッケージを配信する手順については、本書の「第 3 章 3.4.24 WES パッケージを配信する」を参照してください。

#### WES パッケージファイルのインポート

WES パッケージファイルをインポートするには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「WES パッケージ」をクリックします。
2. パッケージ一覧が表示されます。

🔍 パッケージをスキャン    - パッケージを削除する    📁 パッケージのインポート

名前	カテゴリ	バージョン	必須ファームウェア	プラットフォーム
VMware Horizon Client 3.5.2	Application	1.1	1.20-INTL	Windows Embedded 8 Standard



ADM に WES パッケージファイルをインポートしたことがない場合、パッケージ一覧は空です。

3. 一覧の上にある「パッケージのインポート」をクリックします。
4. 「パッケージのインポート」ウィンドウが表示されます。

- 「Browse…」をクリックして適切なパッケージファイルを指定し、「開く」をクリックして確定します。



ADM はファイルチェックを自動的に実行し、WES ベースのクライアントにとって有効なパッケージファイルであり、パッケージ一覧に重複がないことを確認します。

- 「インポート」をクリックし、適切なパッケージファイルのインポートを開始します。



- 完了後、インポートしたパッケージファイルがパッケージ一覧のエントリーとして表示されます。

🔍 パッケージをスキャン    -    🗑️ パッケージを削除する    📁 パッケージのインポート

名前	カテゴリ	バージョン	必須ファームウェア	プラットフォーム
VMware Horizon Client 3.5.2	Application	1.1	1.20-INTL	Windows Embedded 8 Standard
Citrix Receiver 4.4 with SSON	Application	1.2	1.20-INTL	Windows Embedded 8 Standard

### WES パッケージの削除

WES パッケージファイルを削除するには、以下の手順を実行してください。

- 「システム」タブで「配置」 > 「WES パッケージ」をクリックします。
- パッケージ一覧が表示されます。
- クリックして適切なパッケージファイルを選択し、「パッケージを削除する」をクリックします。
- 確認のための「パッケージを削除する」ウィンドウが表示されます。
- 「削除」をクリックして確定します。
- 選択したパッケージファイルがパッケージ一覧から削除されます。

### WES パッケージのスキャン

パッケージスキャン機能は、ローカルまたはリモート WES パッケージファイルの検索に役立ちます。この機能が必要なシナリオは 2 つあります。最初のシナリオは、インポートしたローカルパッケージファイルではなく、リモートパッケージファイルでクライアントを更新することを選択した場合です。このシナリオでは、ADM の使用可能なパッケージのローカラー一覧が、パッケージファイルを取得することを選択した別のコンピューター上にあるパッケージのリモート一覧と同期していない場合があります。パッケージスキャン機能は、ローカラー一覧をリモート一覧と同期できます。



クライアント管理用の別のコンピューター上にあるリモートパッケージファイルを使用するための ADM の設定手順について詳しくは、本書の「第 3 章 3.2.8 配置サーバーの指定」を参照してください。

もう 1 つのシナリオとして、別の ADM のインストールディレクトリから、使用している ADM の同じインストールディレクトリに、インポートしたパッケージファイルのファイルセットをコピーする場合、コピーしたパッケージファイルがパッケージ一覧のエントリーとして表示されない場合があります。



ADM のデフォルトのインストールディレクトリは、C:\Program Files (x86)\Atrust です。インポートしたパッケージファイルのファイルセットは、C:\Program Files (x86)\Atrust\packages の最上位の専用フォルダーに保存されます。

パッケージ一覧のエントリーをローカルまたはリモートパッケージファイルに同期するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「WES パッケージ」をクリックします。
2. パッケージ一覧が表示されます。
3. 一覧の上にある「パッケージをスキャン」をクリックします。
4. 完了後、パッケージ一覧のエントリーとしてパッケージファイルが追加されます。

### 3.2.6. クライアントスナップショットの管理

スナップショットは特定の時点におけるクライアントのシステムコピーで、一括展開およびシステムのバックアップと復元に使用できます。



US120f はスナップショットに対応していません。



クライアントのスナップショットを作成する手順については、本書の「第3章 3.4.25 クライアントスナップショットの取得」を参照してください。

#### クライアントスナップショットのエクスポート

クライアントスナップショットをエクスポートするには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「スナップショット」をクリックします。
2. 管理エリアにスナップショット一覧が表示されます。



クライアントスナップショットを作成またはインポートしたことがない場合、スナップショット一覧は空です。

3. 適切なクライアントスナップショットをクリックして選択し、一覧の上にある「スナップショットをエクスポート」をクリックします。
4. 確認のための「スナップショットをエクスポート」ウィンドウが表示されます。
5. 「エクスポート」をクリックして確定します。
6. エクスポートしたファイルを開くか保存するかを選択を求めるウィンドウが表示されます。
7. 「Save File」をクリックして選択した後、「OK」をクリックして確定します。
8. 開かれたウィンドウで、エクスポートしたファイルの保存場所を選択し、「保存」をクリックして確定します。

### クライアントスナップショットのインポート

クライアントスナップショットをインポートするには、以下の手順を実行してください。



そのコンピューターまたは別のコンピューター上の ADM で作成してからエクスポートした適切なクライアントスナップショット(.zip 形式)があることを確認します。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「スナップショット」をクリックします。
2. 管理エリアにスナップショット一覧が表示されます。
3. スナップショット一覧の上にある「スナップショットをインポート」をクリックします。
4. 「スナップショットをインポート」ウィンドウが表示されます。
5. 「Browse…」をクリックして適切なクライアントスナップショットを指定し、「Open」をクリックして確定します。



ADM はファイルチェックを自動的に実行し、ファイルが有効なスナップショットであり、スナップショット一覧に重複がないことを確認します。

6. 「インポート」をクリックし、適切なスナップショットのインポートを開始します。
7. 完了後、スナップショット一覧のエントリーとしてスナップショットが表示されます。

### クライアントスナップショットの削除

クライアントスナップショットを削除するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「スナップショット」をクリックします。
2. 管理エリアにスナップショット一覧が表示されます。
3. クリックして適切なスナップショットを選択し、一覧の上にある「スナップショットの削除」をクリックします。
4. 確認のための「スナップショットの削除」ウィンドウが表示されます。



複数のスナップショットを削除するには、「Ctrl」を押しながら複数のファイルを選択します。

5. 「削除」をクリックして確定します。



6. 選択したスナップショットがスナップショット一覧から削除されます。

### クライアントスナップショットのスキャン

スナップショットスキャン機能は、ローカルまたはリモートクライアントスナップショットの検索に役立ちます。この機能が必要なシナリオは 2 つあります。最初のシナリオは、インポートしたローカルスナップショットではなく、リモートスナップショットでクライアントを復元することを選択した場合です。このシナリオでは、ADM の使用可能なスナップショットのローカル一覧が、スナップショットを取得することを選択した別のコンピューター上にあるスナップショットのリモート一覧と同期していない場合があります。

スナップショットスキャン機能は、ローカル一覧をリモート一覧と同期できます。



クライアント管理用の別のコンピューター上にあるリモートスナップショットを使用するための ADM の設定手順について詳しくは、本書の「第 3 章 3.2.8 配置サーバーの指定」を参照してください。

もう 1 つのシナリオとして、別の ADM のインストールディレクトリから、使用している ADM の同じインストールディレクトリに、スナップショットファイルセットをコピーする場合、コピーしたスナップショットがスナップショット一覧のエントリーとして表示されない場合があります。



ADM のデフォルトのインストールディレクトリは、C:¥Program Files (x86)¥Atrust です。ADM を使用して作成またはインポートしたすべてのスナップショットは、C:¥Program Files (x86)¥Atrust¥snapshot の最上位の専用フォルダーに保存されます。

スナップショット一覧のエントリーをローカルまたはリモートスナップショットに同期するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「スナップショット」をクリックします。
2. 管理エリアにスナップショット一覧が表示されます。
3. 一覧の上にある「スナップショットをスキャン」をクリックします。
4. 完了後、スナップショット一覧のエントリーとしてスナップショットが追加されます。

## 3.2.7. 証明書の管理



証明書の反映は US120f のみでサポートされる機能です。US310e ではサポートされません。証明書の反映については、本書の「第3章 3.4.17 証明書の反映」を参照してください。

## 証明書をインポートする

クライアントに反映させる証明書を ADM にインポートするには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「証明書」をクリックします。
2. 管理エリアに証明書一覧が表示されます。

証明書削除
証明書インポート

発行先	発行元	有効期限	有効
		2020-09-15	Valid



証明書をインポートしたことがない場合、証明書一覧は空です。

3. 一覧の上にある「証明書をインポート」をクリックします。
4. 「証明書をインポート」ウィンドウが表示されます。

証明書インポート

ファイル名:  Browse...

発行先:

発行元:

有効期限:

注意: PEMまたはDERフォーマット証明書を選択してください。(証明書の上限は16です)

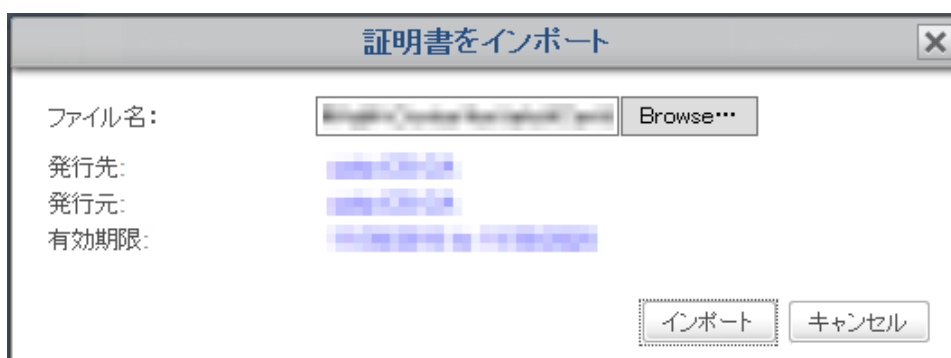
キャンセル

5. 「Browse…」をクリックしてインポートする証明書ファイルを指定し、「開く」をクリックして確定します。



PEM または DER 形式の証明書ファイルを選択することができます。

- 「インポート」をクリックし、適切なパッケージファイルのインポートを開始します。



証明書インポートダイアログボックスのスクリーンショット。タイトルは「証明書をインポート」。フィールドには「ファイル名:」で「Certificate Manager.pfx」が入力されており、「Browse...」ボタンがあります。「発行先:」、「発行元:」、「有効期限:」のラベルがあり、それぞれに値が入力されています。右下には「インポート」と「キャンセル」のボタンがあります。

- 完了後、インポートした証明書ファイルが証明書一覧のエントリーとして表示されます。

証明書を削除 証明書をインポート

発行先	発行元	有効期限	有効
Example Certificate Authority	Example Certificate Authority	2020-09-15	Valid
Example Certificate Authority	Example Certificate Authority	2025-11-30	Valid

### 証明書を削除する

ADM にインポートした証明書ファイルを削除するには、以下の手順を実行してください。

- 「システム」タブで「配置」 > 「証明書」をクリックします。
- 証明書一覧が表示されます。
- 削除する証明書ファイルを選択し、「証明書を削除」をクリックします。



複数の証明書を選択するには、「Ctrl」を押しながら選択します。

- 確認のための「証明書を削除」ウィンドウが表示されます。
- 「削除」をクリックして確定します。
- 選択した証明書ファイルが証明書一覧から削除されます。

### 3.2.8. 配置サーバーの指定

ADMを使用すると、リモートコンピューターからシンクライアントの展開、保守、およびアップグレードを実行できます。すべての必要なファイル(ファームウェア、スナップショット、パッケージファイル)の格納先(配置サーバー)はADMがインストールされているコンピューター内、または必要なファイルが格納されている別のコンピューターも利用することができます。

配置サーバーの指定		
オプション	説明	注記
内部サーバを使用	ADMがインストールされているコンピューター内に必要なファイルをすべてインポートまたは作成する場合に選択します。	デフォルト ADMがインストールされている同じコンピューターにすべての必要なファイルをインポートまたはコピーします。
外部サーバを使用	別のコンピューターから必要なファイルをすべて取得する場合に選択します。	ADMがインストールされた別のコンピューターにすべての必要なファイルをインポートまたはコピーします。



ADMでは、デフォルトの場合、内部サーバを使用が設定されます。

#### 内部サーバを使用

内部のサーバを使用するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「配置サーバー」をクリックします。
2. 管理エリアに「配置サーバー」ペインが表示されます。



3. 各セクション(ファームウェア、スナップショット、WES パッケージ)でドロップダウンメニューをクリックし、「内部サーバーを使用」を選択し、「保存」をクリックして適用します。

### 外部サーバを使用

外部サーバーを使用するには、以下の手順を実行してください。



外部サーバーとして設定するには、外部サーバーとして利用するサーバー側に ADM が構築されている必要があります。

1. 「システム」タブで「配置」 > 「配置サーバー」をクリックします。
2. 管理エリアに「配置サーバー」ペインが表示されます。
3. 1つのセクション(ファームウェア、スナップショット、WES パッケージ)でドロップダウンメニューをクリックし、「外部サーバーを使用」を選択します。新しい設定フィールドが表示されます。本書では例として「ファームウェア」を設定します。

ファームウェア

サーバの種類: 外部サーバを使用

ファームウェアのURL: \*http://YourServerIP:10080/firmware

ユーザ名: \*

パスワード: \*

保存

4. 「ファームウェア」/「スナップショット」/「WES パッケージ」URL フィールドで、元の URL の“YourServerIP”を、利用する外部サーバーの IP アドレスに置き換え、デフォルトアカウント情報(ユーザー名「user」、パスワード「secret」)を入力し、「保存」をクリックして適用します。

ファームウェア

サーバの種類: 外部サーバを使用

ファームウェアのURL: \*http://192.168.11.114:10080/firmware

ユーザ名: \*user

パスワード: \*●●●●●●

保存

### 3.2.9. サービス IP の選択

ADM のサービス IP アドレスを選択するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「システム設定」 > 「一般設定」をクリックします。
2. 使用可能なサービス IP アドレスのドロップダウンリストをクリックし、適切な IP アドレスを選択します。



3. 「保存」をクリックして適用します。



- ADM のサービス IP には固定 IP アドレスを使用することを強くお勧めします。サービス IP を変更すると、すべての管理対象クライアントが管理不能になる場合があります。ADM がインストールされているコンピューターの IP アドレスを変更する場合は、ここのサービス IP 設定が新しい IP アドレスと矛盾しないことを確認してください。
- サービス IP を変更すると、管理コンソールへのログイン時に新しいサービス IP の選択を促されます。

### 3.2.10. 自動ログアウトの設定

ADM では、自動ログアウトを設定して管理コンソールのセキュリティを強化することができます。自動ログアウトを設定すると、特定の時間アイドル状態になった場合、管理コンソールが自動的に終了します。



デフォルトでは、自動ログアウトは設定されていません。

ADM の自動ログアウトを設定するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「システム設定」 > 「一般設定」をクリックします。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、適切なアイドル時間を選択します。

**自動ログアウト**  
指定時間後に自動ログアウト: 設定しない ▼  
保存

3. 「保存」をクリックして適用します。

### 3.2.11. 自動登録の設定

本機能を使用すると、クライアントがオンラインのときに ADM でクライアントを管理端末として自動的に登録することができます。



US310e は自動登録に対応していません。



- デフォルトでは、自動登録は設定されていません。
- 本機能を使用するには、クライアント側 ACS の「システム」-「詳細」-「自動登録を有効にする」の設定も有効に設定されている必要があります。ADM 側だけの設定では、本機能は動作しません。

自動登録を設定するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「システム設定」 > 「一般設定」をクリックします。
2. 「自動登録を有効にする」にチェックを入れます。

**自動登録**

☒ 自動登録を有効にする

保存

3. 「保存」をクリックして適用します。

**自動登録**

☒ 自動登録を有効にする

自動登録設定は成功しました。

保存



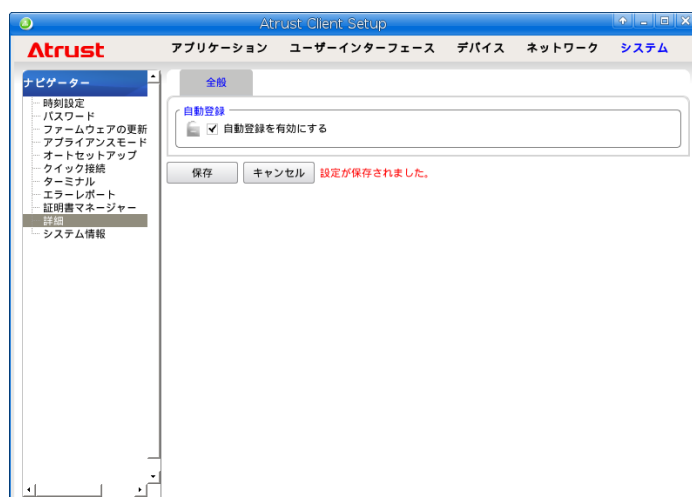
4. ADM 側の設定は以上で完了です。本機能を利用するにはクライアント側にも設定が必要となりますので、続いてクライアントの ACS を起動します。



5. 「システム」 - 「詳細」 - 「自動登録を有効にする」にチェック入れます。



6. 「保存」をクリックして適用します。



7. ACSを終了します。以上でクライアント側の設定も完了です。
8. 次回クライアント起動時、ADMに管理端末として自動登録されます。自動登録されたクライアントは「シンクライアント」 - <Ungrouped>グループに登録されます。自動登録されたクライアントは「説明」に「Auto-registered」という値が設定されます。

削除	編集	設定の編集	コマンド	すべてを選択	すべての選択を解除	エクスポート
名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル	説明
Atrust-033EB2	192.168.7.111	00:1F:D8:03:3E:B2	US120f	ARM Linux 8.43-FAKC	N/A	Auto-registered

自動登録機能を使用するには DHCP サーバーまたは DNS サーバーいずれか一方の設定を行う必要があります。

自動登録のために DHCP サーバーの設定を行うには、以下の手順を実施してください。

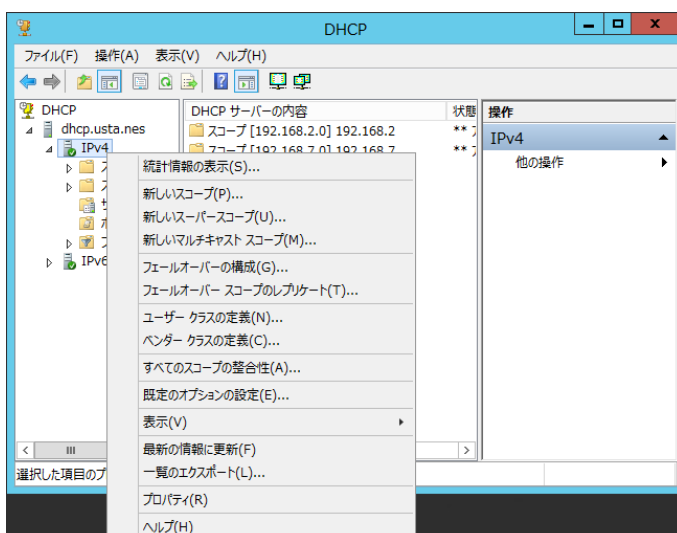


本書では、例として Windows Server 2012 R2 で構築された DHCP サーバーに対して設定を行う手順を記載しています。OS やエディションなどが異なると、設定手順に違いがある場合があります。

1. 管理者アカウントで DHCP サーバーにサインインします。
2. 「スタート」 - 「すべてのアプリ」 - 「管理ツール」 - 「DHCP」を起動します。



3. 「DHCP」ウィンドウの左ペイン内の「IPv4」を選択し、右クリックメニュー内の「既定のオプションの設定」をクリックします。



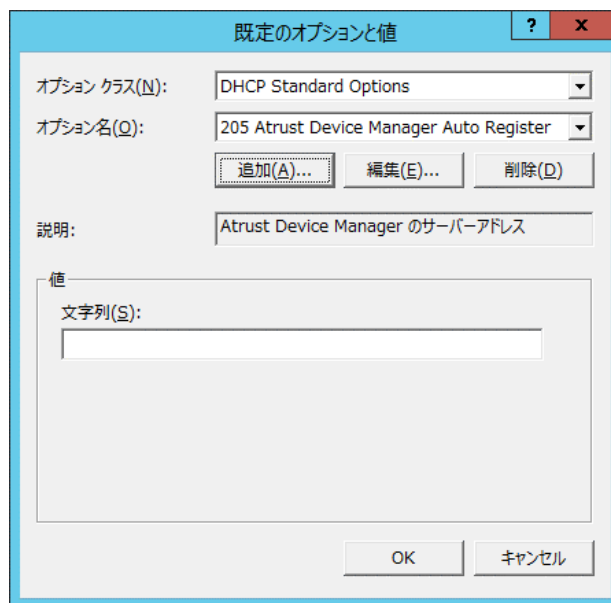
4. 「追加」をクリックします。

5. 「オプションの種類」ウィンドウで、以下の情報を入力します。

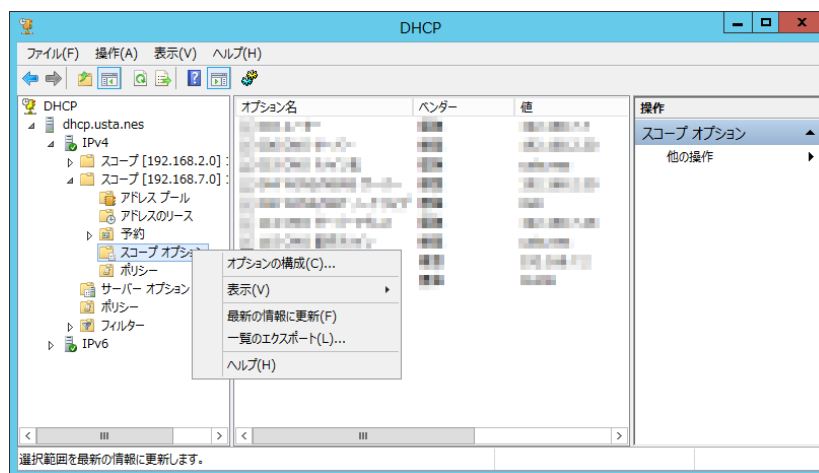
- 名前 : <任意の名前>
- データ型 : 文字列
- コード : 205
- 説明 : <任意>

6. 「OK」をクリックします。

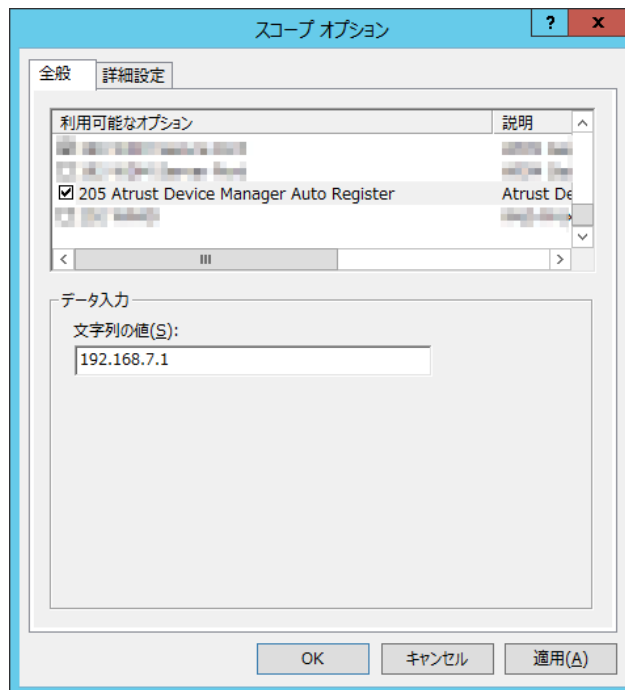
7. 「既定のオプションと値」ウィンドウで「OK」をクリックします。



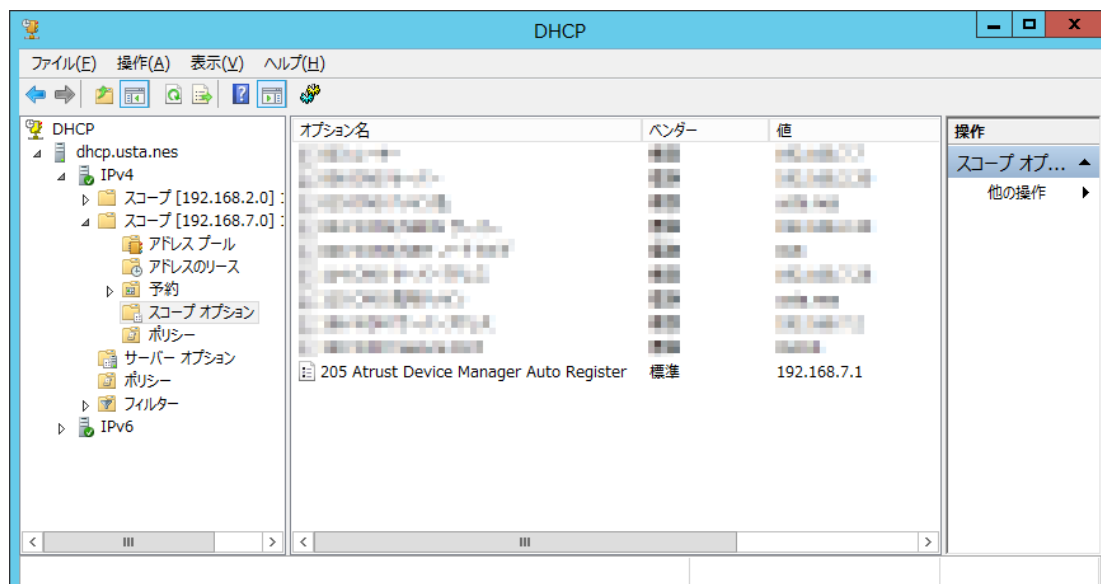
8. 「DHCP」ウィンドウの左ペイン内の「スコープ」 - 「スコープオプション」を選択し、右クリックメニュー内の「オプションの構成」をクリックします。



9. 「全般」タブ - 「利用可能なオプション」の一覧から、手順 3.~7.で登録した「205」にチェックを入れ、データ (文字列の値)に ADM の IP アドレスを入力します。



10. 「適用」をクリック後、「OK」をクリックします。
11. 中央ペインのスコープオプションの登録一覧に表示されることを確認します。



自動登録のための DNS サーバーの設定を行うには、以下の手順を実施してください。

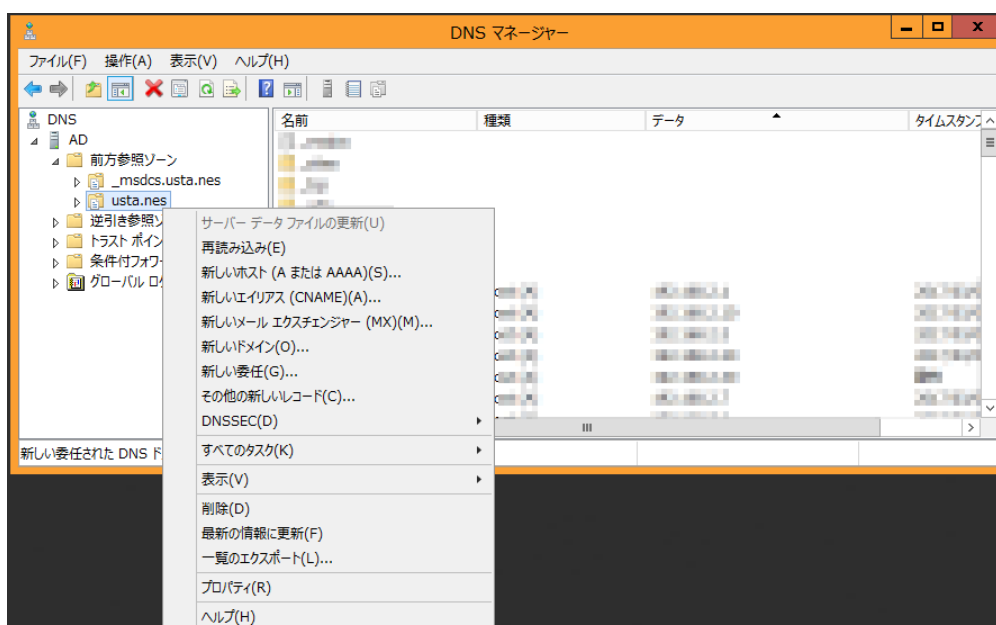


本書では、例として Windows Server 2012 R2 で構築された DNS サーバーに対して設定を行う手順を記載しています。OS やエディションなどが異なると、設定手順に違いがある場合があります。

1. 管理者アカウントで DNS サーバーにサインインします。
2. 「スタート」 - 「すべてのアプリ」 - 「管理ツール」 - 「DNS」を起動します。




3. 「DNS マネージャー」ウィンドウの左ペイン内の「前方参照ゾーン」 - <ドメインノード>を選択し、「新しいホスト (A または AAAA)」をクリックします。



4. 「新しいホスト」ウィンドウで、以下の情報を入力します。

- 名前 : dm-hostserver
- IP アドレス : <ADM サーバーの IP アドレス>



5. 「ホストの追加」をクリックします。

6. ホストレコードが正しく作成されたという旨のメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



7. 「新しいホスト」ウィンドウの「完了」をクリックします。

新しいホスト

名前 (空欄の場合は親ドメインを使用)(N):

完全修飾ドメイン名 (FQDN):

IP アドレス(P):

☒ 関連付けられたポインター (PTR) レコードを作成する(C)

☐ 同じ所有者名の DNS レコードの更新を認証されたユーザーに許可する(Q)

ホストの追加(H) 完了

8. ホスト一覧に、手順 3.~7.で追加したホストが表示されていることを確認します。

名前	種類	データ	タイムスタンプ
dm-hostserver	Host (A)	192.168.7.1	



### 3.2.12. 管理対象デバイスのパスワード保護の設定

ADMによりパスワード保護されたデバイスは、ADMサーバーからパスワードの入力なしにスキャンできなくなります。

また、通常他のADMサーバーで管理されている端末は、別のADMサーバーへ追加登録することは不可能ですが、パスワードで保護されたデバイスは、ADMサーバーでパスワードを入力してスキャンすることで管理デバイスとして登録が可能になります。パスワード保護された端末のスキャンおよび登録については、本書の「第3章 3.3.8. パスワード保護されたデバイスを含むスキャン」を参照してください。



- 本機能は US120f のみでサポートされます。US310e はパスワード保護を設定することはできません。
- 本機能を使用するには、US120f を ADM に管理端末として事前に登録しておく必要があります。
- 「パスワード保護」を設定後に、新しく管理登録されたデバイスは「パスワード保護」が自動的に適用されます。

パスワード保護を設定するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「システム設定」 > 「一般設定」をクリックします。
2. 「パスワード保護を有効にする」にチェックを入れます。

管理端末でのパスワード保護

☐ パスワード保護を有効にする

保存

3. パスワードの設定ダイアログが自動で起動されるので、設定するパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

パスワードを設定してください

パスワード:

パスワードの確認:

\*パスワードには、英字、数字、および特殊文字を含めることができます。

\*4~20文字でなければなりません。

OK キャンセル

4. [保存]をクリックします。

管理端末でのパスワード保護

☒ パスワード保護を有効にする

パスワードの変更

保存

5. 「パスワード保護の適用」ダイアログが表示されるので、[はい]をクリックします。

パスワード保護の適用

この変更を適用しますか？

はい いいえ

6. 適用結果のダイアログが表示されるので、結果を確認後に[閉じる]をクリックしてダイアログを終了させます。

パスワード保護の適用

ステータス：

2クライアントは成功しました  
1クライアントは失敗しました！

閉じる



ADM に登録されている管理端末全て(US310e 含む)に対しパスワード保護の設定が送信されるため、管理端末にパスワード保護を適用できない US310e が含まれている場合は、パスワードの適用に失敗しますが問題ありません。

7. “パスワードの設定が完了しました”というメッセージが表示されていることを確認します。

管理端末でのパスワード保護

☒ パスワード保護を有効にする

パスワードの変更

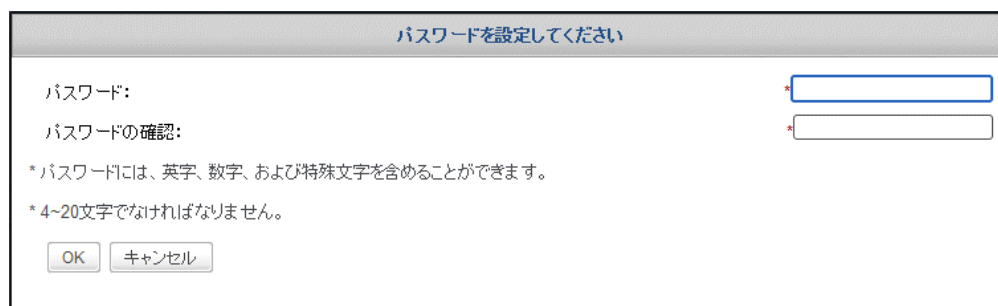
パスワードの設定が完了しました。 保存

既にパスワード保護を設定済みの管理端末のパスワードを変更するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「システム設定」 > 「一般設定」をクリックします。
2. 「パスワードの変更」をクリックします。



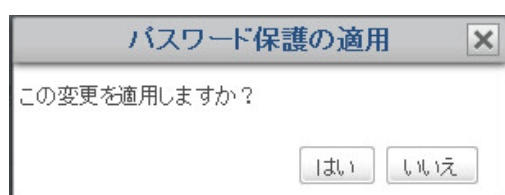
3. パスワードの設定ダイアログが自動で起動されるので、変更するパスワードを入力し、[OK]をクリックします。



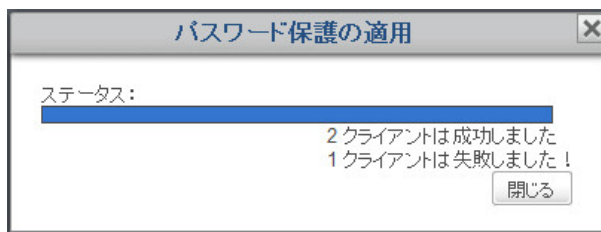
4. [保存]をクリックします。



5. 「パスワード保護の適用」ダイアログが表示されるので、[はい]をクリックします。



6. 適用結果のダイアログが表示されるので、結果を確認後に[閉じる]をクリックしてダイアログを終了させます。



ADM に登録されている管理端末全て(US310e 含む)に対しパスワード保護の設定が送信されるため、管理端末にパスワード保護を適用できない US310e が含まれている場合は、パスワードの適用に失敗しますが問題ありません。

7. “パスワードの設定が完了しました”というメッセージが表示されていることを確認します。



### 3.2.13. データベースソースの設定

ADM で管理データベースを格納する場合は、ADM がインストールされているコンピューター、または別のコンピューターにデータベースを格納する 2 通りの方法があります。管理データベースは、デフォルトでは、ADM がインストールされているコンピューターに格納されます。

#### ローカル管理データベースの使用

ローカル管理データベースを使用するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「システム設定」 > 「外部データベース」をクリックします。
2. 管理エリアに「外部データベース」ペインが表示されます。
3. ドロップダウンメニューをクリックして、「いいえ」を選択します。



The screenshot shows a web interface for database settings. At the top, there's a tab labeled 'データベース' (Database). Below it, the text '外部データベースを使用:' (Use external database:) is followed by a dropdown menu. The dropdown menu currently shows 'いいえ' (No). At the bottom right of the form, there is a '保存' (Save) button.

#### 外部データベースの使用

外部データベースを使用するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「システム設定」 > 「外部データベース」をクリックします。
2. 管理エリアに「外部データベース」ペインが表示されます。
3. 「データベース」セクションでドロップダウンメニューをクリックして、「はい」を選択します。

4. 新しいフィールドを含む新しいセクションが、設定用に表示されます。



- サポートする外部データベースは、MsSQL(Microsoft SQL Server)です。その他のデータベース(PostgreSQL、MySQL、Oracle)は事前に検証して頂き問題がないことを確認したのちにご利用ください。
- 適切なデータベース管理システムを設定していることを確認してください。

5. 「設定」セクションでドロップダウンメニューをクリックしてデータベース管理システムの種類を選択し、データベースサーバーの IP アドレス、ポート番号、およびデータベースの名前を入力します。
6. 「認証」セクションで、データベースにアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力します。
7. 「データベースのチェック」をクリックし、リモートデータベースに接続します。

#### 3.2.14. インターフェース言語の選択

ADM のインターフェース言語を選択するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「システム設定」 > 「言語」をクリックします。
2. 管理エリアに「システム言語」ペインが表示されます。
3. 使用可能な言語のドロップダウンリストをクリックし、適切なインターフェース言語を選択します。
4. 「保存」をクリックして適用します。

### 3.2.15. 管理データベースのバックアップ

ADM の管理データベースをバックアップするには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「バックアップと復元」をクリックします。
2. 「データベースバックアップ」セクションで、適切なファイル名プリフィックスを入力します。



データベースバックアップ

ディレクトリ: C:\Program Files (x86)\Atrust\dbarchive\

ファイル名: \*ADM

バックアップ



「ディレクトリ」フィールドに示されているとおり、バックアップファイルはデフォルトディレクトリに格納されます。バックアップファイルの名前を変更する場合は、ファイルを指定して名前を変更します。

3. 「バックアップ」をクリックし、管理データベースとクライアント証明書のコピーを格納します。
4. 完了後、「データベースアーカイブ管理」セクションの「アーカイブファイルを選択」ドロップダウンメニューの一番上にバックアップファイルが表示されます。



データベースアーカイブ管理

アーカイブファイルを選択: test1\_2014-11-25.zip

ダウンロード アップロード 削除 復元

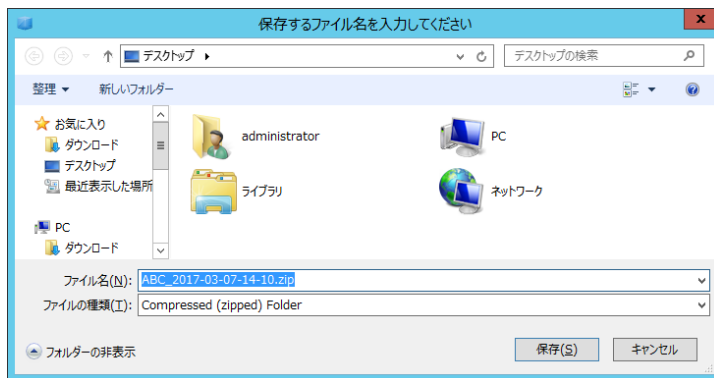


### 3.2.16. データベースアーカイブファイルの管理

#### データベースアーカイブファイルのダウンロード

データベースアーカイブファイルをダウンロードするには、以下の手順を実行してください。

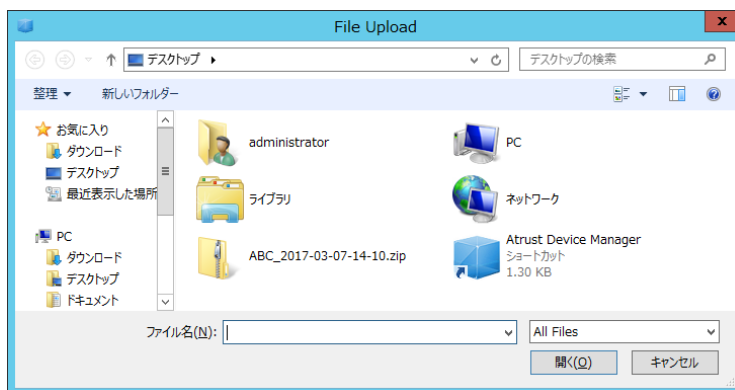
1. 「システム」タブで「バックアップと復元」をクリックします。
2. 「データベースアーカイブ管理」セクションで「アーカイブファイルを選択」ドロップダウンメニューをクリックし、適切なデータベースアーカイブファイルを選択して、「ダウンロード」をクリックします。
3. ダウンロードされたデータベースアーカイブファイルの保存先を選択するウィンドウが表示されるので、任意の場所にデータベースアーカイブファイルを保存します。



#### データベースアーカイブファイルのアップロード

データベースアーカイブファイルをアップロードするには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「バックアップと復元」をクリックします。
2. 「データベースアーカイブ管理」セクションで「アップロード」をクリックし、「ファイルアップロード」ウィンドウを開きます。



3. アップロードするデータベースアーカイブファイルを指定した後、「OK」をクリックします。
4. 「アーカイブファイルを選択」ドロップダウンメニューにファイルが追加されます。

### データベースアーカイブファイルの削除

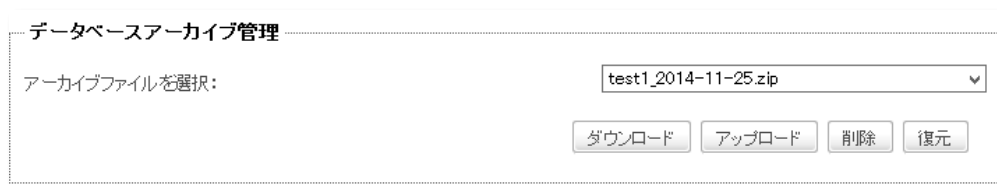
データベースアーカイブファイルを削除するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「バックアップと復元」をクリックします。
2. 「データベースアーカイブ管理」セクションでドロップダウンメニューをクリックし、削除するアーカイブファイルを選択します。
3. 「削除」をクリックし、選択したファイルを削除します。

### 3.2.17. データベースアーカイブファイルの復元

データベースアーカイブファイルを復元するには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「バックアップと復元」をクリックします。
2. 「データベースアーカイブ管理」セクションでドロップダウンメニューをクリックし、復元するアーカイブファイルを選択します。



データベースアーカイブ管理

アーカイブファイルを選択: test1\_2014-11-25.zip ▼

ダウンロード アップロード 削除 復元

3. 「復元」をクリックして ADM の管理データベースを適切な状態に戻します。

### 3.2.18. タスク スケジュール

ADM では、特定の時点でタスクを自動実行するスケジュールを作成し、管理対象 US310e/US120f の保守タスクをスケジュールリングして自動的に実行できます。

自動実行タスクをスケジュールリングするには、以下の手順を実行してください。

1. 「システム」タブで「タスクスケジュール」をクリックします。
2. 管理エリアにタスク一覧が表示されます。

+ 追加    ✎ 編集    - 削除    🔍 ログの表示

	スケジュール	コメント	次のスケジュール	前のスケジュール	ステータス
✓	一回	test	2014-12-04 10:15	2014-12-04 10:15	Send Finish
✓	一回	test2	2014-11-25 11:40	2014-11-25 11:40	Send Finish



自動実行タスクを作成したことがない場合、タスク一覧は空です。

3. タスク一覧の上にある「追加」をクリックします。
4. 管理エリアに「タスクスケジュールを追加」ペインが表示されます。

タスクスケジュールを追加

☒ タスクスケジュールを有効にする

スケジュール

詳細

実行: 日単位 ▼  
 実行間隔 1 日  
 開始日: 2015-1-28 選択  
 開始時刻: 00 : 00

コメント:   
 前回:  
 次回:  
 前回の結果:

保存

キャンセル

5. 「スケジュール」タブで、開始日時、繰り返し方法、タスクコメントなどを入力するか、クリックして選択します。

**タスクスケジュールを追加**

☒タスクスケジュールを有効にする

スケジュール 詳細

実行: 日単位 ▼

実行間隔 1 日

開始日: 2015-1-28 選択

開始時刻: 00 : 00

コメント: End Session and Refresh Endpoints before Afternoon Opening Time

前回:

次回:

前回の結果:

保存 キャンセル

6. 「詳細」タブで「追加」をクリックし、処理を指定します。

**タスクスケジュールを追加**

☒タスクスケジュールを有効にする

スケジュール 詳細

+ 追加 / 編集 / 削除

モジュール	アクション	コメント	オーダ

コメント: End Session and Refresh Endpoints before Afternoon Opening Time

前回:

次回:

前回の結果:

保存 キャンセル



1つのタスクは1つ以上の処理で構成されます。

7. 「追加」ウィンドウで、処理の順序、種類、実行済みの処理、処理コメントなどを入力するか、クリックして選択し、「OK」をクリックして確定します。

**追加**

有効にする: ☒

オーダー:

モジュール: クライアント:制御 ▼

アクション: メッセージ送信 ▼

メッセージ

待機時間:  秒.

メッセージ:

クライアント

☐ グループ

☒ クライアント

<input checked="" type="checkbox"/>	atrust-013E11	US310e
<input checked="" type="checkbox"/>	atrust-013DC4	US310e
<input type="checkbox"/>	atrust-013E19	US310e
<input type="checkbox"/>	atrust-013DD0	US310e
<input type="checkbox"/>	atrust-013E22	US310e

コメント:

**追加**

有効にする: ☒

オーダー:

モジュール: タスク:ウェイト ▼

ウェイト  分.

コメント:

**追加**

有効にする: ☒

オーダー:

モジュール: クライアント:制御 ▼

アクション: シャットダウン ▼

クライアント

☐ グループ

☒ クライアント

<input checked="" type="checkbox"/>	atrust-013E11	US310e
<input checked="" type="checkbox"/>	atrust-013DC4	US310e
<input type="checkbox"/>	atrust-013E19	US310e
<input type="checkbox"/>	atrust-013DD0	US310e
<input type="checkbox"/>	atrust-013E22	US310e

コメント:

8. 完了後、処理一覧に処理が追加されます。

タスクスケジュールを追加

☒タスクスケジュールを有効にする

スケジュール

詳細

+ 追加

✎ 編集

- 削除

	モジュール	アクション	コメント	オーダ
✓	制御	メッセージ送信	Notify endpoints users	1

コメント:

End Sessions and Refresh Endpoints before Afternoon Opening Time

前回:

次回:

前回の結果:

保存

キャンセル

9. 「保存」をクリックして確定します。タスク一覧にタスクエントリーが追加されます。

+ 追加

✎ 編集

- 削除

🔍 ログの表示

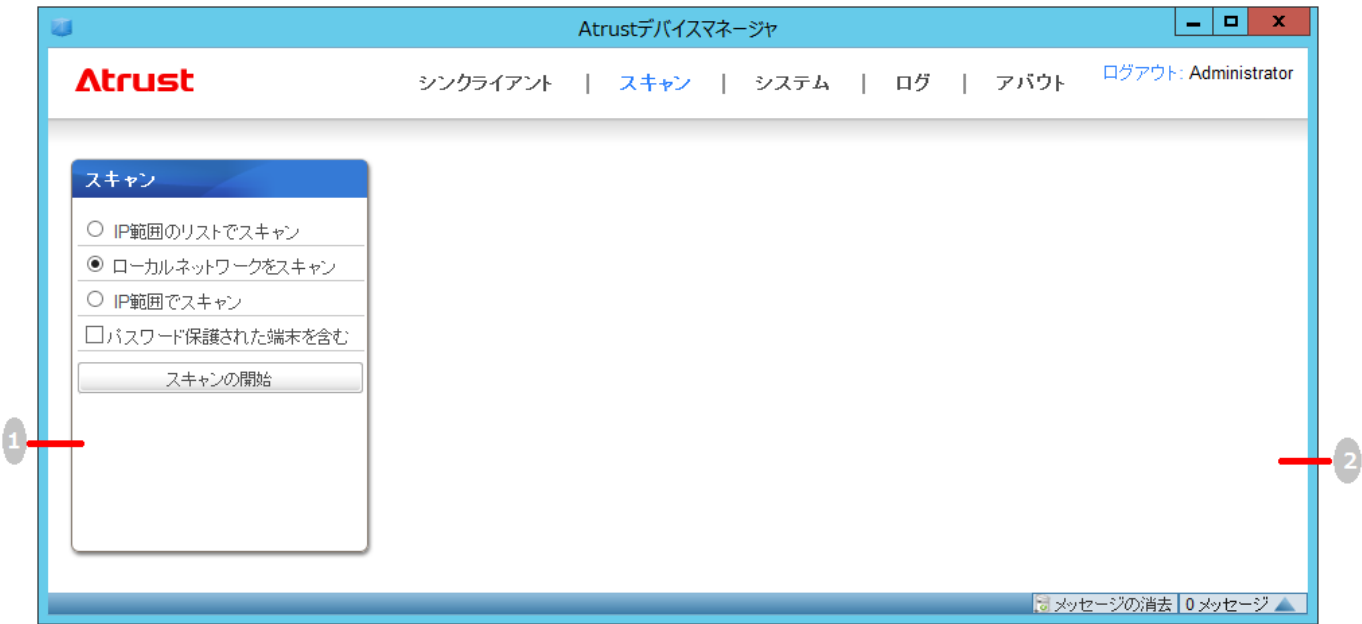
	スケジュール	コメント	次のスケジュール	前のスケジュール	ステータス
✓	一回	test	2014-12-04 10:15	2014-12-04 10:15	Send Finish
✓	一回	test2	2014-11-25 11:40	2014-11-25 11:40	Send Finish

3.3. 管理対象グループへのクライアントの追加

3.3.1. 「スキャン」タブの概要

「スキャン」タブでは、現在の ADM インスタンスが管理していないクライアントを含め、ローカルネットワークで管理対象になっていないクライアントを検出できます。「スキャン」タブの機能にアクセスするには、ADM でこのタブをクリックします。

図 2 「スキャン」タブの概要



インターフェース要素		
番号	名称	説明
1	ナビゲーションエリア	適切なクライアント検出方法を確認する場合にクリックします。
2	管理エリア	IP 範囲一覧または検出されたクライアントを管理します。

3.3.2. 使用可能なタスク一覧

番号	使用可能なタスク	参照先
1	ローカルネットワークをスキャン	第 3 章 3.3.4 ローカルネットワークをスキャン
2	IP 範囲でスキャン	第 3 章 3.3.5 IP 範囲でスキャン
3	IP 範囲のリストでスキャン	第 3 章 3.3.6 IP 範囲一覧の作成と管理 第 3 章 3.3.7 IP 範囲のリストでスキャン
4	パスワード保護された端末を含む	第 3 章 3.3.8 パスワード保護された端末を含む



### 3.3.3. クライアントの検出と管理

出荷時のデフォルトでは、クライアントは ADM によって管理されていません。ADM でクライアントを管理するには、管理対象になっていないクライアントをローカルネットワークで検出し、ADM の管理対象グループに追加する必要があります。



デフォルトでは、シンクライアントは電源を ON するだけで、自動検出されるわけではありません。かならず ADM 上で手動スキャンを実行する必要があります。



シンクライアント、ADM、それぞれで自動登録の設定を有効にすることで、ADM にクライアントを自動登録させることもできます。詳細は本書の「第 3 章 3.2.11 自動登録の設定」を参照してください。

ローカルネットワークでシンクライアントを検索する場合、「スキャン」タブで提供されている複数のクライアント検出オプションを使用できます。

下の表は、ローカルネットワークでクライアントを検出するための必要条件と方法を示しています。

モデル	必要条件	方法
US310e	・クライアントがローカルネットワークに接続されていること ・クライアントの電源が投入されていること	手動スキャン
US120f	・クライアントがローカルネットワークに接続されていること ・クライアントの電源が投入されていること	手動スキャン



ADM の管理対象グループにクライアントを追加した後は、クライアントのリモート管理を開始できます。クライアントのリモート管理手順について詳しくは、本書の「第 3 章 3.4 すべてのクライアントの管理」を参照してください。

### 3.3.4. ローカルネットワークをスキャン

管理対象になっていないクライアントをローカルネットワークの全範囲でスキャンして、必要なクライアントを ADM の管理対象グループに追加するには、以下の手順を実行してください。

1. 「スキャン」タブで「ローカルネットワークをスキャン」チェックボックスをクリックしてオンにします。

2. 「スキャンの開始」をクリックします。
3. 完了後、検出されたクライアントが管理エリアに一覧表示されます。

グループに追加
 Ungrouped ▼
 すべての選択を解除
 すべての選択

名前	IP	Macアドレス	モデル	ファームウェア	管理登録
Atrust-033EB2	192.168.7.117	00:1F:D8:03:3E:B2	US120f	ARM Linux 8.43-FAKC	No
atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.20-INTL	No

4. クライアント一覧の上にあるドロップダウンメニューから適切なクライアント、追加先のクライアントグループを選択し、「グループに追加」をクリックします。



- デフォルトのクライアントグループは、Ungrouped です。クライアントのグループは、後で変更できます。新しいクライアントグループを作成するには、本書の「第 3 章 3.4.3 クライアントグループの作成」を参照してください。
- 複数のクライアントは、各クライアントをクリックして選択するだけで選択できます。クライアント一覧の上にある「すべてを選択」および「すべての選択を解除」を使用して、クライアントの選択または選択解除を実行することもできます。

5. 完了後、クライアントは Atrust Device Manager によって管理されます。



グループ(Ungrouped を含む)にクライアントを追加すると、クライアントは ADM によって管理されます。

### 3.3.5. IP 範囲でスキャン

指定した範囲の IP アドレスで管理対象になっていないクライアントをスキャンして、必要なクライアントを ADM の管理対象グループに追加するには、以下の手順を実行してください。

1. 「スキャン」タブで「IP 範囲でスキャン」チェックボックスをクリックしてオンにします。
2. IP 範囲フィールドが表示されます。

3. 適切な IP 範囲を入力し、「スキャンの開始」をクリックします。
4. 完了後、検出されたクライアントが管理エリアに一覧表示されます。

名前	IP	Macアドレス	モデル	ファームウェア	管理登録
Atrust-033EB2	192.168.7.117	00:1F:D8:03:3E:B2	US120f	ARM Linux 8.43-FAKC	No
atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.20-INTL	No

- クライアント一覧の上にあるドロップダウンメニューから適切なクライアント、追加先のクライアントグループを選択し、「グループに追加」をクリックします。



- デフォルトのクライアントグループは、Ungrouped です。クライアントのグループは、後で変更できます。新しいクライアントグループを作成するには、本書の「第3章 3.4.3 クライアントグループの作成」を参照してください。
- 複数のクライアントは、各クライアントをクリックして選択するだけで選択できます。クライアント一覧の上にある「すべてを選択」および「すべての選択を解除」を使用して、クライアントの選択または選択解除を実行することもできます。

- 完了後、クライアントはADMによって管理されます。



グループ(Ungrouped を含む)にクライアントを追加すると、クライアントはADMによって管理されます。

### 3.3.6. IP 範囲一覧の作成と管理

ローカルネットワークに対して複数のIP範囲を定義し、必要に応じて特定のIPアドレス範囲内で管理対象になっていないクライアントを検出することができます。

#### IP 範囲一覧の作成

IP 範囲一覧を作成するには、以下の手順を実行してください。

- 「スキャン」タブで「IP 範囲のリストでスキャン」チェックボックスをクリックしてオンにします。
- IP 範囲一覧の上にある「追加」をクリックします。



3. 「追加」ウィンドウが表示されます。
4. この IP 範囲エントリーの名前を入力し、「開始」および「終了」フィールドを使用して適切な IP 範囲を指定します。



追加

名前: \*US120f\_range

開始: 192 . 168 . 7 . 115

終了: 192 . 168 . 7 . 120

保存 キャンセル

5. 「保存」をクリックして、この範囲エントリーを追加します。
6. 手順 2～5 を繰り返し、IP 範囲一覧に他の範囲エントリーを追加します。

### IP 範囲一覧の管理

IP 範囲一覧を管理するには、以下の手順を実行してください。

1. 「スキャン」タブで「IP 範囲のリストでスキャン」チェックボックスをクリックしてオンにします。
2. 管理エリアに IP 範囲一覧が表示されます。
3. 「追加」、「編集」、または「削除」をクリックし、IP 範囲一覧に変更を加えます。

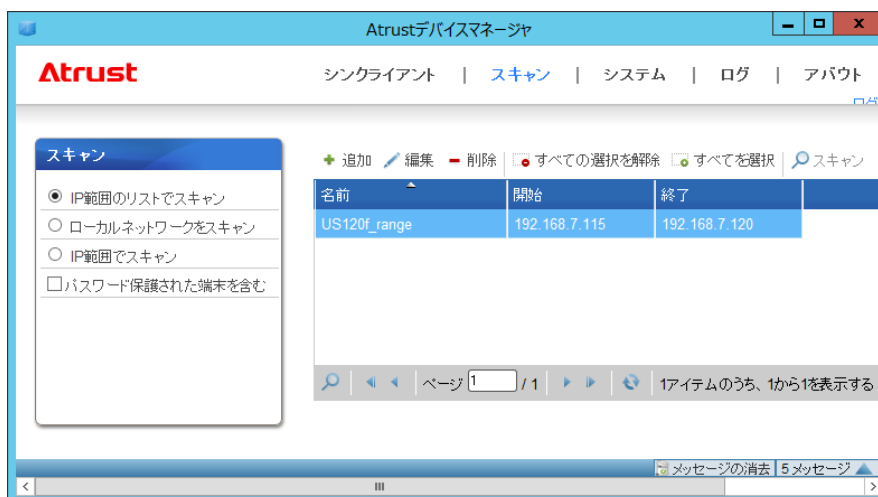
### 3.3.7. IP 範囲のリストでスキャン

あらかじめ設定されている IP 範囲一覧を使用して管理対象になっていないクライアントを検出し、必要なクライアントを ADM の管理対象グループに追加するには、以下の手順を実行してください。

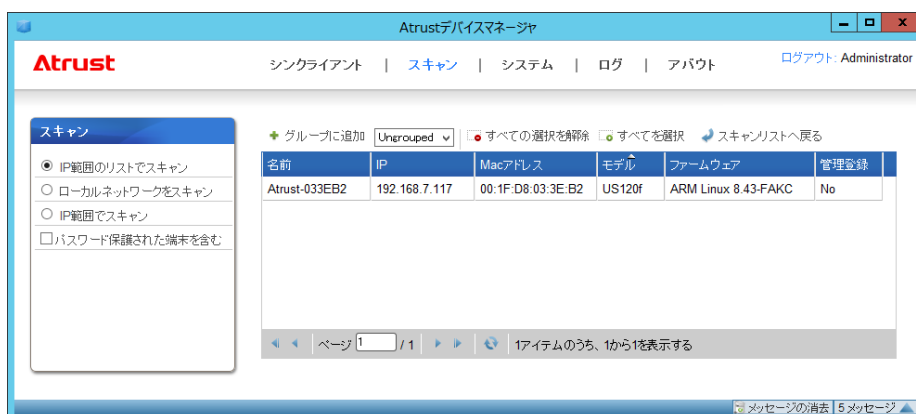


IP 範囲一覧を作成していない場合は、本書の「第3章 3.3.6 IP 範囲一覧の作成と管理」の手順を参照してください。

1. 「スキャン」タブで「IP 範囲のリストでスキャン」チェックボックスをクリックしてオンにします。
2. 管理エリアに IP 範囲一覧が表示されます。
3. 適切な IP 範囲をクリックして選択した後、「スキャン」をクリックして管理対象になっていないクライアントを範囲内で検索します。



4. 完了後、検出されたクライアントが管理エリアに一覧表示されます。



5. クライアント一覧の上にあるドロップダウンメニューから適切なクライアント、追加先のクライアントグループを選択し、「グループに追加」をクリックします。



チェック

- デフォルトのクライアントグループは、Ungrouped です。クライアントのグループは、後で変更できます。新しいクライアントグループを作成するには、本書の「第3章 3.4.3 クライアントグループの作成」を参照してください。
- 複数のクライアントは、各クライアントをクリックして選択するだけで選択できます。クライアント一覧の上にある「すべてを選択」および「すべての選択を解除」を使用して、クライアントの選択または選択解除を実行することもできます。

6. 完了後、クライアントは ADM によって管理されます。



チェック

グループ(Ungrouped を含む)にクライアントを追加すると、クライアントは ADM によって管理されます。

### 3.3.8. パスワード保護されたデバイスを含むスキャン

パスワード保護された端末を含んでスキャンを実行する場合にチェックを入れます。

チェックを入れると、パスワードの入力エリアが表示されるので、端末に設定しているパスワードを入力します。



チェック

- 「パスワード保護された端末を含む」オプションは、各スキャンタスクと組み合わせることができます。
- パスワード保護については本書の「第3章 3.2.12 管理対象デバイスのパスワード保護の設定」を参照してください。

パスワード入力後、[スキャンの開始]を実行します。

3.4. すべてのクライアントの管理

3.4.1. 「シンククライアント」タブの概要

「シンククライアント」タブは、すべてのクライアントを管理するために役立ちます。「シンククライアント」タブの機能にアクセスするには、ADM でこのタブをクリックします。

図 3 「シンククライアント」タブの概要



インターフェース要素		
番号	名称	説明
1	ナビゲーションエリア	適切な管理項目にアクセスする場合にクリックします。
2	管理エリア	必要なタスクを実行する、適切な設定を指定する、または選択した項目で入手できる関連情報を表示する場合に選択します。



## 3.4.2. 使用可能なタスク一覧

番号	使用可能なタスク	参照先
1	クライアントグループの作成	第3章 3.4.3 クライアントグループの作成
2	クライアントグループの管理	第3章 3.4.4 クライアントグループの管理
3	グループ内のクライアントの管理	第3章 3.4.5 クライアントの別のグループへの移動 第3章 3.4.6 グループからのクライアントの削除
4	プロファイルグループの作成	第3章 3.4.9 プロファイルグループの作成
5	プロファイルグループの管理	第3章 3.4.10 プロファイルグループの管理
6	プロファイル設定の作成	第3章 3.4.11 プロファイル設定の作成
7	プロファイル設定の管理	第3章 3.4.12 プロファイル設定の管理
8	個別クライアント設定の使用	第3章 3.4.13 個別クライアント設定の仕様
9	ハイブリッドクライアント設定の使用	第3章 3.4.14 ハイブリッドクライアント設定の使用
10	ローカルネットワークを介してクライアントに設定を配信適用する	第3章 3.4.15 ローカルネットワークを介してクライアントに設定を配信適用する
11	ローカルネットワークを介してクライアントから設定を取得する	第3章 3.4.16 ローカルネットワークを介してクライアントから設定を取得する
12	証明書の反映	第3章 3.4.17 証明書の反映
13	クライアントへのメッセージの送信	第3章 3.4.18 クライアントへのメッセージの送信
14	クライアントの基本情報の編集または表示	第3章 3.4.19 クライアントの基本情報の編集または表示
15	ローカルネットワークを介してクライアントを再起動する	第3章 3.4.20 ローカルネットワークを介してクライアントを再起動する
16	ローカルネットワークを介してクライアントをシャットダウンする	第3章 3.4.21 ローカルネットワークを介してクライアントをシャットダウンする
17	ローカルネットワークを介してクライアントのスリープモードを解除する	第3章 3.4.22 ローカルネットワークを介してクライアントのスリープモードを解除する
18	クライアントファームウェアの更新	第3章 3.4.23 クライアントファームウェアの更新
19	WES パッケージを配信する	第3章 3.4.24 WES パッケージを配信する
20	クライアントスナップショットの取得	第3章 3.4.25 クライアントスナップショットの取得
21	クライアントスナップショットの配信	第3章 3.4.26 クライアントスナップショットの配信
22	シャドウ機能を使用する	第3章 3.4.27 シャドウ機能を使用する
23	クライアントデータのエクスポート	第3章 3.4.28 クライアントデータのエクスポート
24	クイックサーチを使用したプロファイル、シンクライアント、イベントログの検出	第3章 3.4.29 クイックサーチを使用したプロファイル、シンクライアント、イベントログの検出
25	フィルターを使用した管理対象クライアントの検出	第3章 3.4.30 フィルターを使用した管理対象クライアントの検出
26	クライアントフィルターの管理	第3章 3.4.31 クライアントフィルターの管理

### 3.4.3. クライアントグループの作成

管理しやすいようにクライアントをまとめるためのクライアントグループを作成できます。



デフォルトのクライアントグループは、Ungrouped です。クライアントのグループは、必要に応じて変更できます。

クライアントグループを作成するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブのナビゲーションエリアで「シンククライアント」をクリックします。
2. 管理エリアの上にある「グループの追加」をクリックします。



3. グループ名を求める「シンククライアントグループの追加」ウィンドウが表示されます。



4. 任意の名前を入力し、「OK」をクリックして確定します。

5. 新しく作成したグループがクライアントグループ一覧に表示されます。



#### 3.4.4. クライアントグループの管理

##### クライアントグループ名の変更

クライアントグループの名前を変更するには、以下の手順を実行してください。

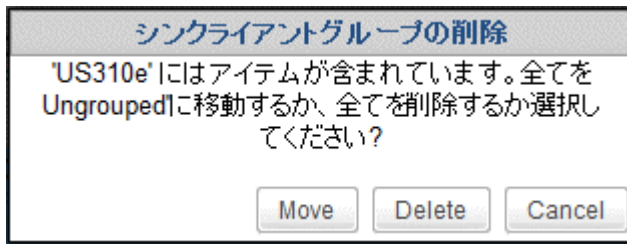
1. 「シンククライアント」タブのナビゲーションエリアで「シンククライアント」をクリックします。
2. クライアントグループ一覧で適切なクライアントグループをクリックして選択し、クライアントグループ一覧の上にある「名前の変更」をクリックします。
3. 選択したクライアントグループの新しい名前を求める「名前の変更」ウィンドウが表示されます。
4. グループの新しい名前を入力し、「OK」をクリックして確定します。

##### クライアントグループの削除

クライアントグループを削除するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブのナビゲーションエリアで「シンククライアント」をクリックします。
2. クライアントグループ一覧で適切なクライアントグループをクリックして選択し、クライアントグループ一覧の上にある「削除」をクリックします。

3. 確認のための「削除」ウィンドウが表示されます。



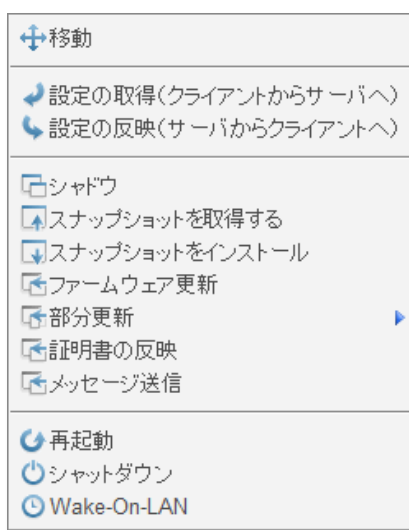
- グループ内に登録されている管理端末を“Ungrouped”に移動させる場合は、[Move]ボタンをクリックします。
- グループ内に登録されている管理端末も含めて削除する場合は、[Delete]ボタンをクリックします。
- ADM から管理端末を削除すると、端末は ADM の管理から外れます。

4. クライアントグループが削除されます。

### 3.4.5. クライアントの別のグループへの移動

クライアントを別のグループに移動するには、以下の手順を実行してください。

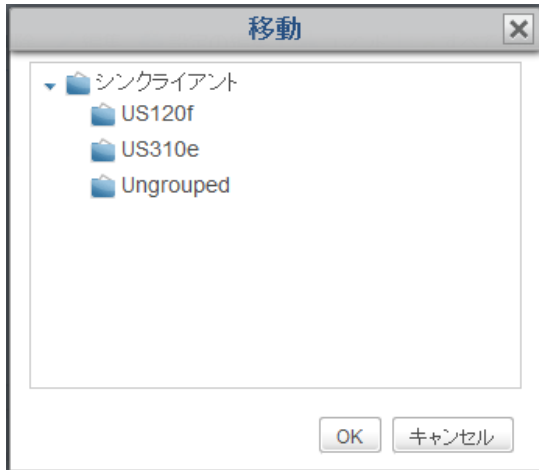
1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、移動させたいクライアントが登録されているクライアントグループをクリックします。
2. 移動させたいクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックして、「コマンド」メニューを開きます。





複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながら複数のクライアントをクリックするか、「すべてを選択」を使用します。

3. 「移動」をクリックして、「移動」ウィンドウを開きます。



4. クライアントを移動させるグループを選択し、「OK」をクリックして確定します。

#### 3.4.6. グループからのクライアントの削除

グループからクライアントを削除するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブで「シンククライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、削除するクライアントが登録されているクライアントグループをクリックします。
2. 削除したいクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「削除」をクリックします。



複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながら複数のクライアントをクリックするか、「すべてを選択」を使用します。

3. 確認のためのメッセージが表示されます。
4. 「OK」をクリックして確定します。



ADM から管理端末を削除すると、端末は ADM の管理から外れます。

### 3.4.7. クライアントステータスアイコン

クライアントグループまたはフィルターのクライアント一覧では、クライアントの現在の状態を示すクライアントステータスアイコンが、各クライアントの前に表示されています。

名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロフィール	
Atrust-033EB2	192.168.7.117	00:1F:D8:03:3E:B2	US120f	ARM Linux 8.43-FAKC	N/A	
atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A	



フィルターを使用すると、ADM で特定のクライアントにアクセスし、これらを管理できます。フィルターについて詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.30 フィルターを使用したクライアントの検出」を参照してください。

ステータスアイコンは、クライアントの状態に応じて変化します。以下の 6 種類のアイコンが提供されています。

クライアントステータスアイコンの理解		
状態	アイコン	説明
オンライン		クライアントがオン状態であることを示します。
オフライン		クライアントがオフ状態であることを示します。
要再起動		変更内容の反映のためにクライアントを再起動する必要があることを示します。
変更あり		ADM でクライアント設定が変更されており、クライアントに設定内容を反映する必要があることを示します。
設定配信済み		ADM が設定内容をクライアントに配信したことを示します。
不明		以前管理されていたクライアントが現在管理されていないことを示します。



- Linux ベースのクライアントの場合、アイコンは L の文字のアイコンで示されます。( ) ( )
- Windows Embedded ベースのクライアントの場合、アイコンは W の文字のアイコンで示されます。( ) ( )
- 設定配信済みアイコン( )は、ADM からクライアントに設定を配信したことを示すものであって、適用の成功/失敗を示すものではありません。
- アイコンの上にマウスポインターを重ねると、ヒントがポップアップ表示されます。
- アイコンは、成功の有無にかかわらず、ADM が設定変更をクライアントに送信したことを示します。ポップアップメッセージは、そのタスクが成功か失敗かを知らせます。そのタスクがシンクライアント側で行われた場合には、シンクライアントは次の状態に移行し、別のステータスアイコンを表示します。

### 3.4.8. クライアント設定

デスクトップ仮想化ソリューションは、ユーザー状態の仮想化、アプリケーションの仮想化、セッションベースの仮想化、仮想マシンベースの仮想化、さらにはハイブリッドアプローチとさまざまな形で提供されています。NEC シンクライアントは、さまざまな形式とニーズに対応しています。ただし、IT インフラストラクチャー内でクライアントデバイスの使用準備を整えるには、クライアント設定をカスタマイズして、デスクトップ仮想化プランの固有のニーズを満たす必要がある場合もあります。

さらに、異なる部署、部門、または地域のシンクライアントデバイスについて、コンピューターリソースとアクセス権限を変更したい場合もあります。コンピューターリソースとアクセス権限に関する特定の種類のポリシーを満たすために、クライアント設定のカスタマイズが必要な場合もあります。



使用可能なタブと設定項目は、クライアントモデル、ファームウェアバージョン、および使用オペレーティングシステムによって異なる場合があります。詳しくは、本書の「第4章 クライアント設定の指定」を参照してください。

#### クライアント設定のリモートおよびローカル管理

クライアント設定は、ローカルまたはリモートで指定できます。ADM を使用すると、ローカルネットワークを介してリモートからクライアント設定を指定できます。ACS を使用すると、特定のクライアントでクライアント設定をローカルで指定できます。



ACS コンソールは、US310e/US120f に組み込まれているツールです。このツールを使用すると、クライアントのローカルでクライアント設定を指定できます。

クライアントのローカルでのみ設定可能なクライアント設定があります。ACS コンソールを使用することで、これらの設定をローカルで指定できます。ローカルでのみ設定可能なクライアント設定については、本書の「第4章 4.6 ACS を使用したクライアント設定の指定」を参照してください。

#### グループ設定と個別設定

ADM では、クライアントにグループ設定(プロファイル)、個別設定、またはこの両方を組み合わせた設定を適用し、動作環境を設定することができます。ACS を使用すると、クライアント向けに適切な個別設定も作成できます。

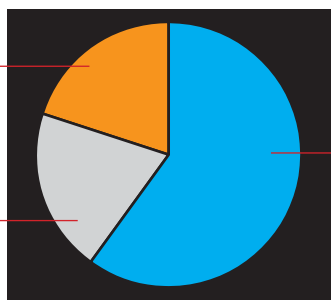


- グループ設定(プロファイル)は、プロファイルグループに共有されるクライアント設定です。
- 個別設定は、1 台のクライアントにだけ適用されるクライアント設定です。
- ハイブリッド設定は、グループ設定と個別設定を組み合わせたものです。

図 4 クライアント設定

ADM または ACS を使用してク  
ライアントに適用されるシンク  
ライアント個別設定

ACS を使用してクライアントに  
適用されるローカル設定








ADM を使用してクライアント  
に適用されるプロファイル設定

方法	設定の種類	コンソール	参照先
ローカル	ローカル設定	ACS	第 4 章 4.2 クライアント設定一覧 第 4 章 4.6 ACS を使用したクライアント設定の設定
	個別設定	ACS	第 4 章 4.2 クライアント設定一覧 第 4 章 4.6 ACS を使用したクライアント設定の設定
リモート	プロファイル設定	ADM	第 3 章 3.4.11 プロファイル設定の作成
	シンククライアント 個別設定	ADM	第 3 章 3.4.13 個別クライアント設定の使用

クライアント設定の詳細な手順については、上記の関連セクションを参照してください。

### 設定値のロック

ADM では、設定値をロックすることもできます。設定値をロックした設定をシンククライアントに反映させると、シンククライアント側の ACS の設定値の横に表示されているグレーの鍵アイコン(  )が、鍵のかかった青の鍵アイコン(  )またはオレンジの鍵アイコン(  )に変化します。

青の鍵アイコン(  )はプロファイル設定でロックされた設定値であることを示し、オレンジの鍵アイコン(  )はシンククライアント個別設定でロックされた設定値であることを示します。

クライアント設定をクライアントローカルの ACS で管理している場合は、設定値をロックすることはありません。



### 3.4.9. プロファイルグループの作成

プロファイルを利用すると、複数のクライアントに対してクライアント設定をまとめて指定することができます。



プロファイルを利用するには、プロファイルグループを選択または作成する必要があります。Ungrouped(システムデフォルトグループ)を使用し、必要に応じて後でプロファイルグループを変更することも可能です。

プロファイルグループを作成するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「プロファイル」をクリックします。
2. プロファイルグループ一覧が表示されます。



Ungrouped は、システムデフォルトグループです。

3. プロファイルグループ一覧の上にある「グループの追加」をクリックします。
4. プロファイルグループ名を求める「プロファイルグループを追加」ウィンドウが表示されます。
5. プロファイルグループにつける名前を入力し、「OK」をクリックして確定します。



6. 新しく作成したプロファイルグループがプロファイルグループ一覧に表示されます。

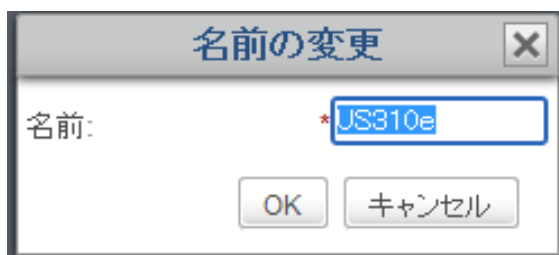


### 3.4.10. プロファイルグループの管理

#### プロファイルグループ名の変更

プロファイルグループ名を変更するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブで「プロファイル」をクリックします。
2. プロファイルグループ一覧で名前を変更するプロファイルグループを選択し、一覧の上にある「名前の変更」をクリックします。
3. 新しい名前を求める「名前の変更」ウィンドウが表示されます。

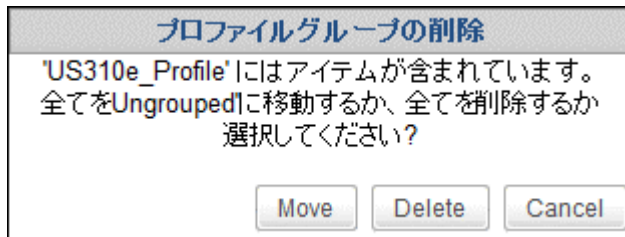


4. プロファイルグループの新しい名前を入力し、「OK」をクリックして確定します。

### プロファイルグループの削除

プロファイルグループを削除するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「プロファイル」をクリックします。
2. プロファイルグループ一覧で削除するプロファイルグループを選択し、一覧の上にある「削除」をクリックします。
3. 確認の「削除」ウィンドウが表示されます。



- プロファイルグループ内に登録されているプロファイル設定を“Ungrouped”に移動させる場合は、[Move]ボタンをクリックします。
- プロファイルグループ内に登録されているプロファイル設定も含めて削除する場合は、[Delete]ボタンをクリックします。
- プロファイル設定を削除すると、プロファイルグループ内に登録していたクライアントのクライアント設定が変更されます。

### 3.4.11. プロファイル設定の作成

プロファイル設定は、プロファイルグループ内に登録したシンクライアントに共有されるクライアント設定です。プロファイル設定により、クライアント設定をリモートからまとめて指定できます。



クライアント設定の基本を理解するには、本書の「第 3 章 3.4.8 クライアント設定」を参照してください。

プロファイル設定の作成手順は、以下の 2 つの手順で簡単に示すことができます。

**手順 1:**プロファイル設定の作成

**手順 2** プロファイル設定を適用するクライアントの指定

#### 手順 1:プロファイル設定の作成

プロファイル設定を作成するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「プロファイル」をクリックして「プロファイルグループ」ツリーを展開し、プロファイルグループを選択します。



プロファイル設定を登録するプロファイルグループを選択する必要があります。Ungrouped(システムデフォルトグループ)を使用し、必要に応じて後でプロファイルグループを変更することも可能です。プロファイルグループを作成する詳細な手順については、本書の「第 3 章 3.4.9 プロファイルグループの作成」を参照してください。

2. プロファイル一覧の上にある「追加」をクリックします。

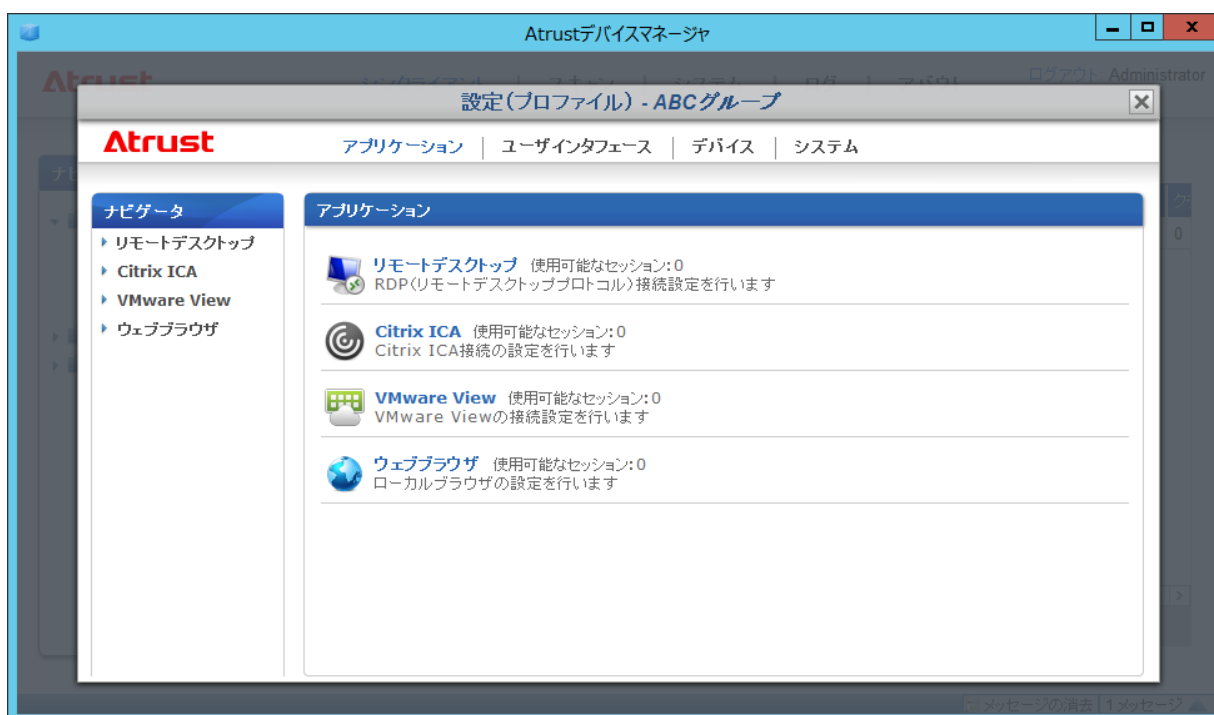
<span>+ 追加</span> <span>- 削除</span> <span>✎ 編集</span> <span>⚙ 設定の編集</span> <span>⇄ 移動</span> <span>📋 コピー</span>				
名前	プラットフォーム	モデル	説明	クライアントの?

3. 名前、説明、プラットフォーム、モデルを求める「追加」ウィンドウが表示されます。



アスタリスクの付いたフィールドは、必須フィールドです。

4. 名前、説明を入力して、プラットフォーム、モデルを選択し、「保存」をクリックして確定します。
5. プロファイル設定用の「設定(プロファイル)」ウィンドウが表示されます。



選択したプラットフォーム、モデルによっては「設定(プロファイル)」ウィンドウに表示される内容が上記の画像と異なる場合があります。本書では例としてモデルに US310e を選択しています。

- 「設定(プロファイル)」ウィンドウを使用して、プロファイルのクライアント設定を編集します。



プロファイル設定用の「設定(プロファイル)」ウィンドウは、クライアント上の ACS と同じです。このウィンドウを使用すると、プロファイルグループに登録したクライアントのクライアント設定を簡単に指定できます。クライアント設定を指定する詳細な手順については、本書の「第 4 章 クライアント設定の指定」を参照してください。

- 設定完了後、ウィンドウを閉じます。
- 新しく作成された設定プロファイルがプロファイル一覧に追加されます。

<span>+</span> 追加 <span>-</span> 削除 <span>✎</span> 編集 <span>⚙️</span> 設定の編集 <span>↔️</span> 移動 <span>📋</span> コピー				
名前	プラットフォーム	モデル	説明	クライアントの数
ABCグループ	Windows Embedded 8 Standard	US310e	ABC	0

## 手順 2: プロファイル設定を適用するクライアントの指定

プロファイル設定を適用するクライアントを指定するには、以下の手順を実行してください。

- 新しく作成したプロファイルをクリックして選択し、プロファイル一覧の上にある「編集」をクリックします。
- 管理エリアに「使用可能なクライアント」、「プロファイル情報」ペインの両方が表示されます。

使用可能なクライアント (0)
 ⊕ ⊖ ⊕ ⊖

プロファイル情報

名前:

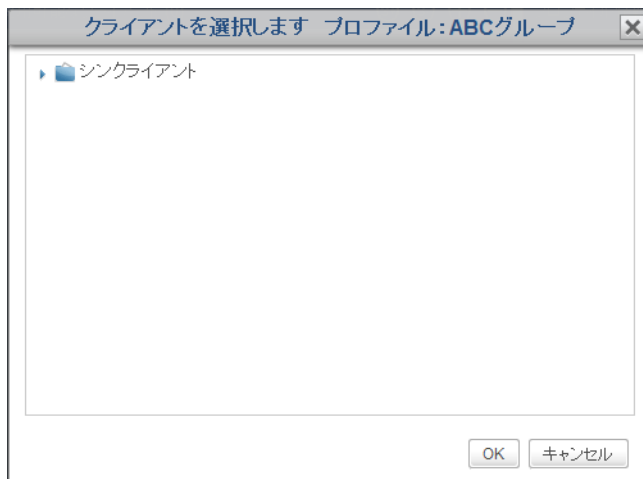
説明:

プラットフォーム:

モデル:

- 「使用可能なクライアント」ペインの右上にある「クライアントの追加」( ⊕ )をクリックします。

4. 「クライアントを選択します」ウィンドウが表示されます。



5. 矢印をクリックしてツリーを展開し、プロファイル設定を適用するクライアントを選択します。



- クライアントグループ内のすべてのクライアントを選択するには、クライアントグループを選択します。
- クライアントグループ内の複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。
- ツリービューは、「シンククライアント」タブで設定したクライアントグループと個々のクライアントが表示されます。クライアントグループの作成およびクライアントグループへのクライアントの追加手順について詳しくは、本書の「第3章 3.4.3 クライアントグループの作成」と「第3章 3.3.3 クライアントの検出と管理」を参照してください。
- 1つのクライアントは、1つのプロファイル設定だけを紐づけることができます。新しいプロファイル設定にクライアントを紐づけると、元のプロファイル設定からは自動的に削除されます。



- クライアントをプロファイル設定に紐づけても、クライアント設定が実際に変更されるわけではありません。変更を反映させるには、クライアントに設定を配信適用する必要があります。設定によっては適用後にクライアントを再起動する必要がある場合があります。プロファイル設定をクライアントに配信適用する手順について詳しくは、本書の「第 4 章 4.3 グループ設定の編集」を参照してください。

6. 完了後、「OK」をクリックして適用可能クライアントの選択を確定します。

7. 「プロファイル情報」ペインで「保存」をクリックします。

The screenshot shows two side-by-side panels. The left panel, titled '使用可能なクライアント (1)', contains a list with one item: 'atrust-013DC3'. The right panel, titled 'プロファイル情報', contains several fields: '名前:' with the value 'ABCグループ', '説明:' with the value 'ABC', 'プラットフォーム:' with the value 'Windows Embedded 8 Standard', and 'モデル:' with the value 'US310e'. At the bottom of the right panel are three buttons: '保存' (Save), 'キャンセル' (Cancel), and '戻る' (Back).

### 3.4.12. プロファイル設定の管理

#### プロファイル設定の編集

プロファイル設定を編集するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「プロファイル」をクリックして「プロファイルグループ」ツリーを展開し、編集するプロファイル設定が登録されているプロファイルグループをクリックします。







2. 管理エリアにプロファイル一覧が表示されます。





 追加
  削除
  編集
  設定の編集
  移動
  コピー

名前	プラットフォーム	モデル	説明	クライアントの数
ABCグループ	Windows Embedded 8 Standard	US310e	ABC	0

3. 編集するプロファイル設定を選択します。
4. 「設定の編集」をクリックしてプロファイルのクライアント設定を編集、または「編集」をクリックしてプロファイル設定のプロファイル情報/プロファイル設定を適用するクライアント、または両方を編集します。



- クライアント設定を編集するには、「設定(プロファイル)」ウィンドウで設定を直接変更します。
- プロファイル情報を編集するには、「プロファイル情報」ペインで編集後に、「保存」をクリックして適用します。
- クライアント設定またはプロファイル情報を編集する詳細な手順については、本書の「第3章 3.4.11 プロファイル設定の作成」および「第4章 4.3 グループの編集」を参照してください。
- プロファイル設定を適用するクライアントを編集するには各ボタンアイコン (  )、(  )、(  )、(  )を使用して変更後に「保存」をクリックして適用します。

ボタン	説明
	クライアント一覧のすべてのクライアントを選択する場合にクリックします。
	クライアント一覧のすべてのクライアントの選択を解除する場合にクリックします。
	新しいクライアントを追加する場合にクリックします。
	選択したクライアントを削除する場合にクリックします。

### プロファイル設定のコピー

プロファイル設定をコピーするには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「プロファイル」をクリックして「プロファイルグループ」ツリーを展開し、コピー元プロファイル設定が登録されているプロファイルグループをクリックします。

2. 管理エリアにプロファイル一覧が表示されます。

<a href="#">+ 追加</a> <a href="#">- 削除</a> <a href="#">✎ 編集</a> <a href="#">⚙ 設定の編集</a> <a href="#">⇄ 移動</a> <a href="#">📄 コピー</a>				
名前	プラットフォーム	モデル	説明	クライアントの数
ABCグループ	Windows Embedded 8 Standard	US310e	ABC	0

3. コピーするプロファイル設定を選択し、「コピー」をクリックします。
4. 名前、説明、プロファイルグループを求める「コピー」ウィンドウが表示されます。



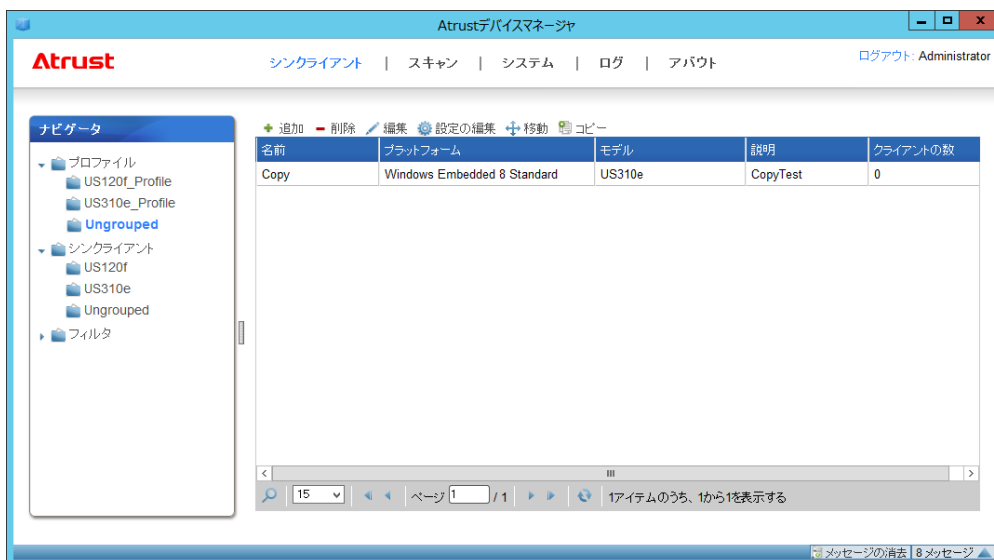
アスタリスクの付いたフィールドは、必須フィールドです。

5. 名前、説明を入力し、コピー先のプロファイルグループを選択して「保存」をクリックして確定します。本書ではコピー先のプロファイルグループとして Ungrouped を選択しています。

6. コピー先のプロファイル設定のクライアント設定用の「設定(プロファイル)」ウィンドウが表示されます。



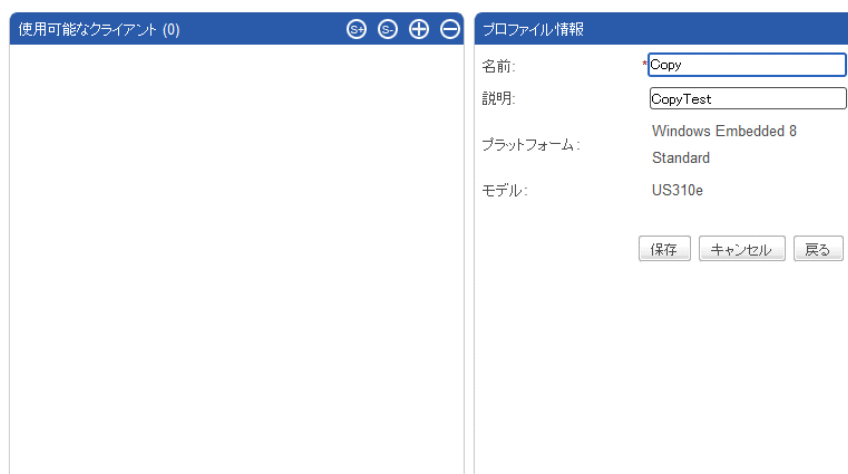
7. このウィンドウを使用して、コピー先のプロファイル設定のクライアント設定を編集します。
8. 完了後、ウィンドウを閉じます。
9. コピー先のプロファイルグループのプロファイル一覧にプロファイル設定が追加されます。




プロファイル設定をコピーして新しいプロファイルを作成する場合、コピー元のクライアント設定だけがコピーされます。コピー元のプロファイル設定を適用するクライアントの設定はコピーされません。

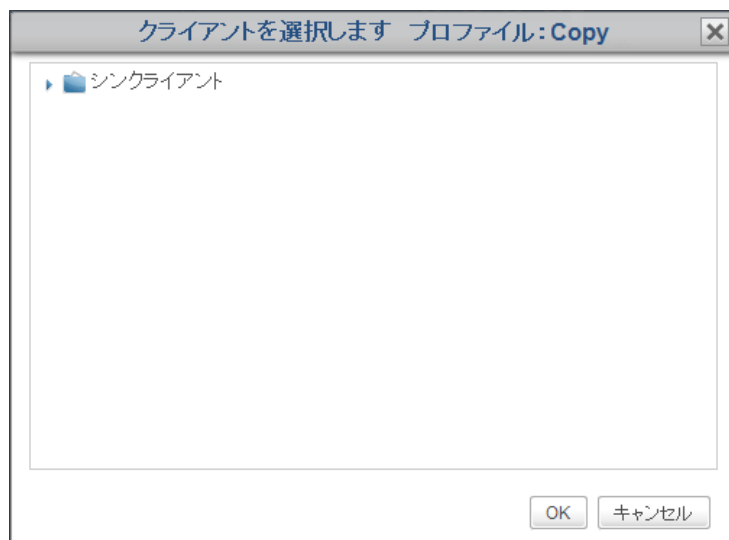
10. 新しく作成したプロファイルを選択し、プロファイル一覧の上にある「編集」をクリックします。

11. 管理エリアに「プロフィール情報」および「使用可能なクライアント」ペインの両方が表示されます。



12. 「使用可能なクライアント」ペインの右上にある「クライアントの追加」(  )をクリックします。

13. 「クライアントを選択します」ウィンドウが表示されます。



14. 矢印をクリックしてツリーを展開し、プロファイル設定を適用するクライアントを選択します。



- クライアントグループ内のすべてのクライアントを選択するには、クライアントグループを選択します。
- クライアントグループ内の複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。

15. 完了後、「OK」をクリックして確定します。

16. 「プロファイル情報」ペインで「保存」をクリックし、適用可能範囲の指定を完了します。



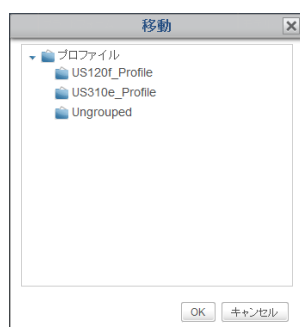
### プロファイル設定の移動

別のプロファイルグループにプロファイル設定を移動するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「プロファイル」をクリックして「プロファイルグループ」ツリーを展開し、移動するプロファイル設定が登録されているプロファイルグループをクリックします。
2. 管理エリアにプロファイル一覧が表示されます。

<span>+</span> 追加 <span>-</span> 削除 <span>✎</span> 編集 <span>⚙️</span> 設定の編集 <span>⇄</span> 移動 <span>📋</span> コピー				
名前	プラットフォーム	モデル	説明	クライアントの数
ABCグループ	Windows Embedded 8 Standard	US310e	ABC	0

3. 移動するプロファイルを選択し、「移動」をクリックします。
4. 「移動」ウィンドウが表示されます。



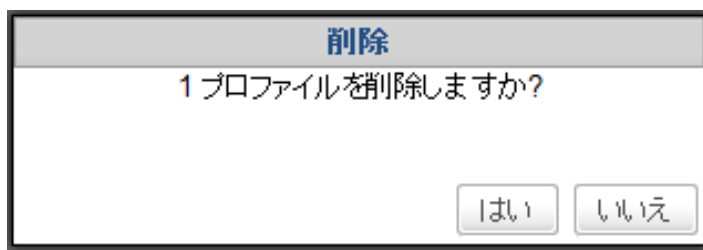
5. 移動先のプロファイルグループを選択し、「OK」をクリックして確定します。
6. プロファイル設定が、移動先のプロファイルグループに移動されます。

### プロファイル設定の削除

プロファイルグループからプロファイル設定を削除するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「プロファイル」をクリックして「プロファイルグループ」ツリーを展開し、削除するプロファイル設定が登録されているプロファイルグループをクリックします。
2. 管理エリアにプロファイル一覧が表示されます。
3. 適切な設定プロファイルをクリックして選択し、「削除」をクリックします。

4. 確認のための「削除」ウィンドウが表示されます。



5. 「はい」をクリックして確定します。



プロファイル設定を削除すると、プロファイルグループ内に登録していたクライアントのクライアント設定が変更されます。

### 3.4.13. 個別クライアント設定の使用

個別設定は、1 台のクライアントにだけ適用されるクライアント設定です。



- クライアント設定の基本を理解するには、本書の「第3章 3.4.8 クライアント設定」を参照してください。
- ADM が管理対象クライアント上の設定値と確実に同期するように、個別クライアント設定を編集する前に ADM のすべての管理対象クライアントからクライアント設定を取得することをお勧めします。管理対象のクライアントからクライアント設定を取得する詳細な手順については、本書の「3.4.16 ローカルネットワークを介してクライアントから設定を取得する」を参照してください。

クライアントに個別設定を適用するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、クライアント設定を行うクライアントが登録されているクライアントグループを選択します。
2. 管理エリアにクライアント一覧が表示されます。
3. クライアント設定を行うクライアントをクリックして選択し、「設定の編集」をクリックします。
4. クライアント用の「設定(シンクライアント)」ウィンドウが表示されます。





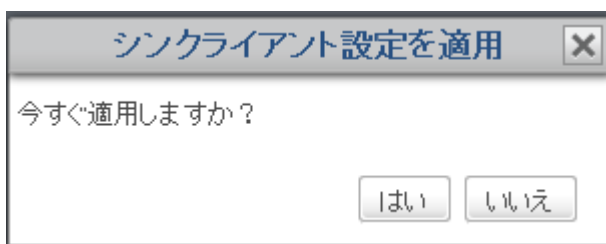
5. このウィンドウを使用して個別設定のクライアント設定を編集します。



- 「設定(シンクライアント)」ウィンドウは、クライアント上の ACS と同じです。このウィンドウを使用すると、このクライアントのクライアント設定を簡単に編集できます。
- 設定値の鍵アイコンが青色となっている値はプロファイル設定で設定されているため「設定(シンクライアント)」では設定を編集することはできません。この値を編集したい場合は、プロファイル設定を変更または削除するか、新しいプロファイル設定を適用することによってしか編集できません。
- プロファイル設定と個別設定を両方使用するクライアント設定を、ハイブリッド設定と呼びます。詳しくは、本書の「第3章 3.4.14 ハイブリッドクライアント設定の使用」を参照してください。
- クライアント設定を指定する詳細な手順については、本書の「第4章 クライアント設定の指定」を参照してください。

6. 完了後、ウィンドウを閉じます。

7. クライアント設定を適用するタイミング確認のための「シンクライアント設定を適用」ウィンドウが表示されます。



8. 「はい」をクリックして今すぐ適用するか、「いいえ」をクリックして後で適用します。



- 後で適用することを選択した場合は、[設定の反映]機能を使用してこの個別設定のクライアント設定をクライアントに適用できます。

### 3.4.14. ハイブリッドクライアント設定の使用

ハイブリッド設定は、プロファイル設定と個別設定の組み合わせです。



クライアント設定の基本を理解するには、本書の「第3章 3.4.8 クライアント設定」を参照してください。

ハイブリッド設定の使用手順は、以下の2つの手順で簡単に示すことができます。

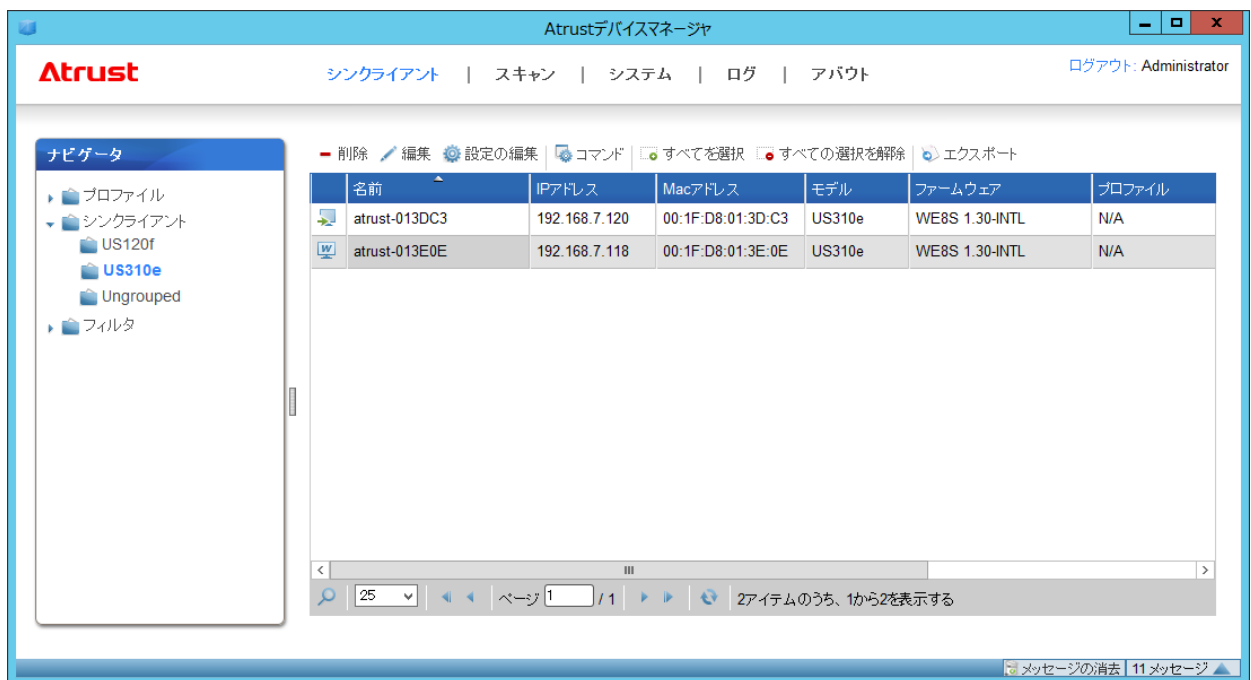
**手順 1:** 選択したクライアントへのプロファイル設定の適用

**手順 2:** クライアントへの個別設定の適用

#### 手順 1: 選択したクライアントへのグループ設定の適用

クライアントにプロファイル設定を適用するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアント」ツリーを展開し、設定対象のクライアントが登録されているクライアントグループをクリックします。
2. クライアント一覧が表示されます。



3. 設定対象のクライアントを選択し、「編集」をクリックします。

4. 管理エリアに「シンククライアント情報」ペインが表示されます。

Atrustデバイスマネージャ

シンククライアント | スキャン | システム | ログ | アバウト

ログアウト: Administrator

**ナビゲータ**

- プロフィール
- シンククライアント
  - US120f
  - US310e
  - Ungrouped
- フィルタ

**シンククライアント情報 - (atrust-013E0E)**

名前: atrust-013E0E

説明:

プロファイル: プロファイルはありません

資産 ID:

保存 キャンセル 戻る

IPアドレス: 192.168.7.118

MACアドレス: 00:1F:D8:01:3E:0E

シリアル番号: NA

モデル名: US310e

前回の起動時間: 2017-03-02 17:00:33

ファームウェア: WE8S 1.30-INTL

名前	バージョン	インストールした日時
Japanese Language Package	1.4	2017-03-02 06:56:55(UTC+09:00)

メッセージの消去 | 12 メッセージ

5. 「プロファイル」ドロップダウンメニューをクリックして適用するプロファイル設定を選択し、「保存」をクリックして適用します。

**シンククライアント情報 - (atrust-013E0E)**

名前: atrust-013E0E

説明:

プロファイル: プロファイルはありません

資産 ID:

保存 キャンセル 戻る

IPアドレス: 192.168.7.118

MACアドレス: 00:1F:D8:01:3E:0E

シリアル番号: NA

モデル名: US310e

前回の起動時間: 2017-03-02 17:00:33

ファームウェア: WE8S 1.30-INTL

パッケージ:

名前	バージョン	インストールした日時
Japanese Language Package	1.4	2017-03-02 06:56:55(UTC+09:00)



[シンククライアント] - [プロファイル] からプロファイル設定を適用するクライアントとして追加することで紐づけることもできます。詳しくは、本書の「第3章 3.4.11 プロファイル設定の作成」を参照してください。

### 手順 2:クライアントへの個別設定の適用

次にクライアントに個別設定を適用するには、以下の手順を実行してください。



ADM が管理対象クライアント上の設定値と確実に同期するように、個別クライアント設定を編集する前に ADM のすべての管理対象クライアントからクライアント設定を取得することをお勧めします。管理対象のクライアントからクライアント設定を取得する詳細な手順については、本書の「3.4.16 ローカルネットワークを介してクライアントから設定を取得する」を参照してください。

1. 設定対象のクライアントを再度選択し、「設定の編集」をクリックします。
2. 選択したクライアントの個別設定を編集します。



個別設定の編集について詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.13 個別クライアント設定の使用」を参照してください。

### 3.4.15. ローカルネットワークを介してクライアントに設定を配信適用する

設定の反映機能を使用すると、クライアント上のクライアント設定をリモートの ADM で設定した設定と同期できます。同期後は、ローカルネットワークを介してリモートからクライアント設定を指定できます。

#### クライアントへの設定の反映

クライアントに設定を反映するには、以下の手順を実行してください。



ADM が管理対象クライアント上の設定値と確実に同期するように、個別クライアント設定を編集する前に ADM のすべての管理対象クライアントからクライアント設定を取得することをお勧めします。管理対象のクライアントからクライアント設定を取得する詳細な手順については、本書の「3.4.16 ローカルネットワークを介してクライアントから設定を取得する」を参照してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアント」ツリーを展開し、設定を反映させるクライアントが登録されているクライアントグループをクリックします。

2. クライアント一覧が表示されます。

削除 編集 設定の編集 コマンド すべてを選択 すべての選択を解除 エクスポート

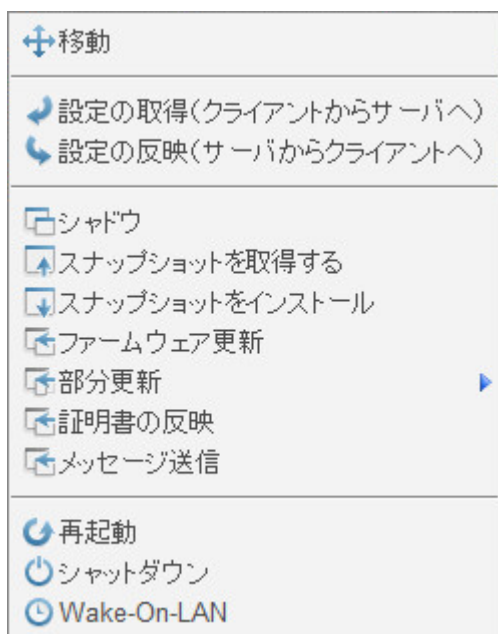
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

3. 設定を反映させるクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



- 複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。
- 選択したクライアントの電源が入っていることを確認します。電源が入っていないクライアントがある場合、一部のクライアントに設定を反映できない可能性があります。クライアントの現在のステータスは、クライアントの前に表示されているステータスアイコンでリモートから把握できます。ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

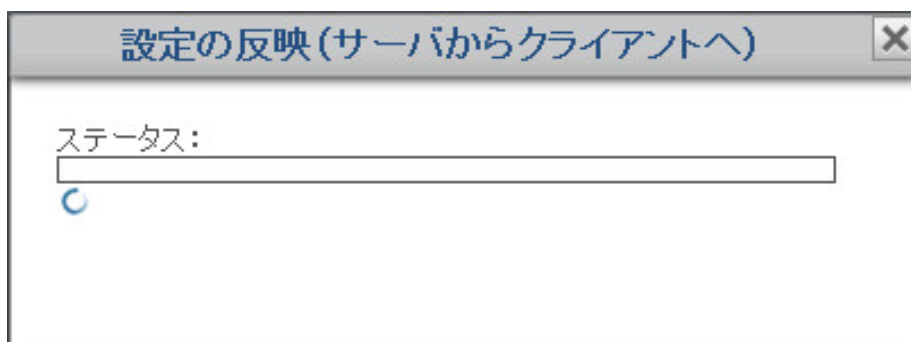
4. 「コマンド」メニューが表示されます。



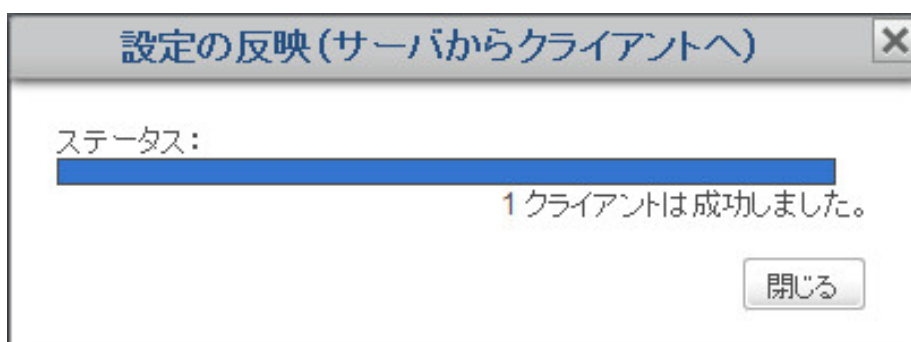
5. 「設定の反映(サーバーからクライアントへ)」を選択します。

6. 確認のためのウィンドウが表示されます。

7. 「OK」をクリックして確定します。
8. [設定の反映]の進捗と結果を示す「設定の反映(サーバーからクライアントへ)」ウィンドウが表示されます。



9. 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



10. クライアントの前に表示されているステータスアイコンで、クライアントのステータスを確認します。必要に応じてクライアントを再起動し、クライアント上で設定の変更を完了します。

#### クライアントグループへの設定の反映

クライアントグループに設定を反映するには、以下の手順を実行してください。



ADM が管理対象クライアント上の設定値と確実に同期するように、個別クライアント設定を編集する前に ADM のすべての管理対象クライアントからクライアント設定を取得することをお勧めします。管理対象のクライアントからクライアント設定を取得する詳細な手順については、本書の「3.4.16 ローカルネットワークを介してクライアントから設定を取得する」を参照してください。

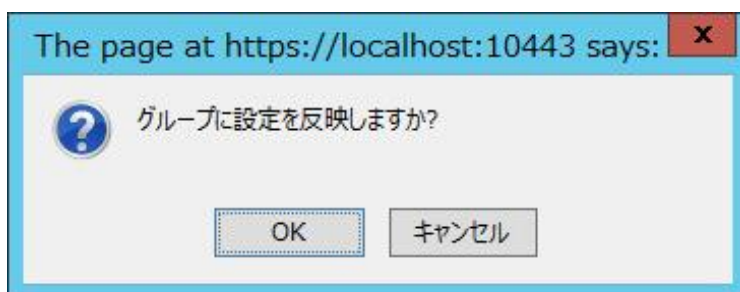
1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックし、「クライアントグループ」ツリーを展開します。

2. 設定を反映するクライアントグループを右クリックしてポップアップメニューを開き、「設定の反映(サーバーからクライアントへ)」を選択します。



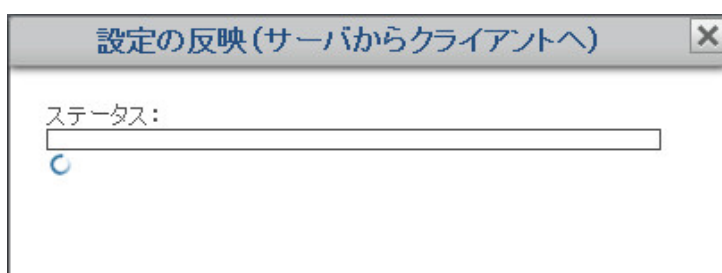
グループ内のすべてのクライアントの電源が入っていることを確認します。電源が入っていないクライアントがある場合、一部のクライアントに設定を反映できない可能性があります。クライアントの現在のステータスは、クライアントの前に表示されているステータスアイコンでリモートから把握できます。ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

3. 確認のためのウィンドウが表示されます。

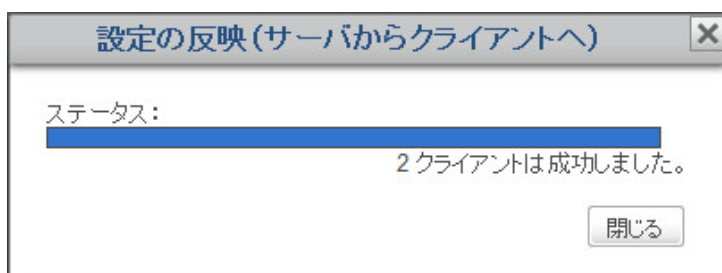


4. 「OK」をクリックして確定します。

5. [設定の反映]の進捗と結果を示す「設定の反映(サーバからクライアントへ)」ウィンドウが表示されます。



6. 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



7. クライアントの前に表示されているステータスアイコンで、グループ内のクライアントのステータスを確認します。  
必要に応じてクライアントを再起動し、クライアント上で設定の変更を完了します。

#### すべてのクライアントグループへの設定の反映

すべてのクライアントグループに設定を反映するには、以下の手順を実行してください。



ADM が管理対象クライアント上の設定値と確実に同期するように、個別クライアント設定を編集する前に ADM のすべての管理対象クライアントからクライアント設定を取得することをお勧めします。管理対象のクライアントからクライアント設定を取得する詳細な手順については、本書の「3.4.16 ローカルネットワークを介してクライアントから設定を取得する」を参照してください。



1. 「シンクライアント」タブでナビゲーションエリアの「シンクライアント」を右クリックし、ポップアップメニューを開きます。

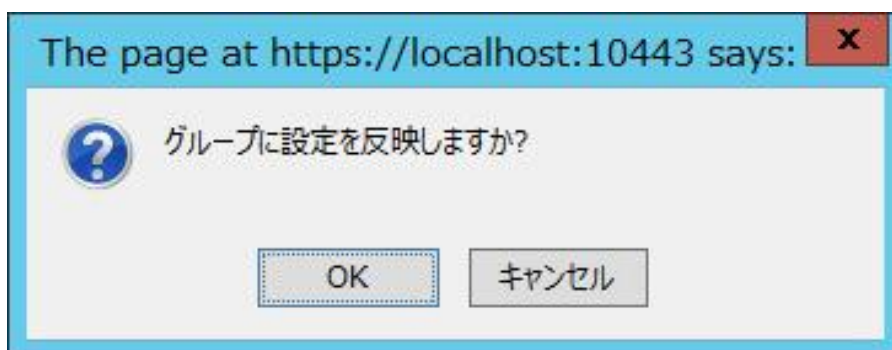


2. 「設定の反映(サーバーからクライアントへ)」を選択します。

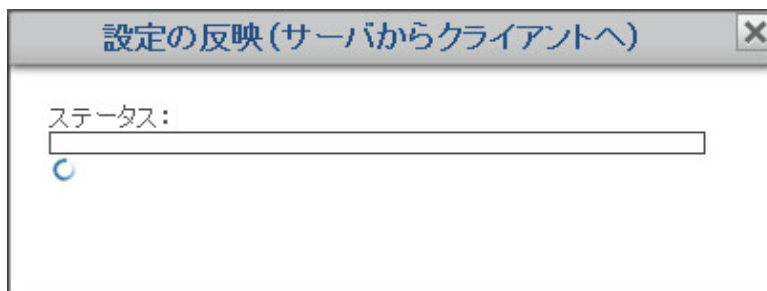


すべてのクライアントの電源が入っていることを確認します。電源が入っていないクライアントがある場合、一部のクライアントに設定を反映できない可能性があります。クライアントの現在のステータスは、クライアントの前に表示されているステータスアイコンでリモートから把握できます。ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

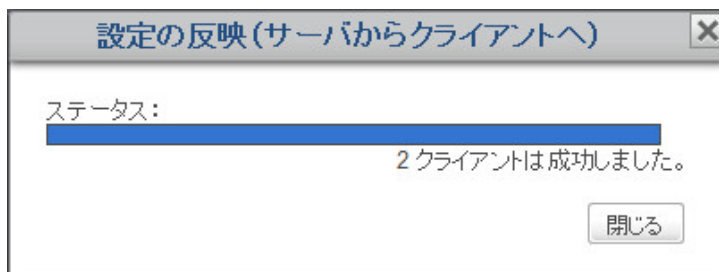
3. 確認のためのウィンドウが表示されます。



4. 「OK」をクリックして確定します。
5. [設定の反映]の進捗と結果を示す「設定の反映(サーバーからクライアントへ)」ウィンドウが表示されます。



6. 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



7. クライアントの前に表示されているステータスアイコンで、クライアントのステータスを確認します。必要に応じてクライアントを再起動し、クライアント上で設定の変更を完了します。

### 3.4.16. ローカルネットワークを介してクライアントから設定を取得する

クライアントからクライアント設定を取得して ADM に格納できるため、設定の取得機能は、ADM 内のクライアント設定をクライアントでローカルに行った設定と同期するために役立ちます。

#### クライアントの設定を取得する

クライアントから設定を取得するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、設定を取得するクライアントが登録されているクライアントグループを選択します。
2. クライアント一覧が表示されます。

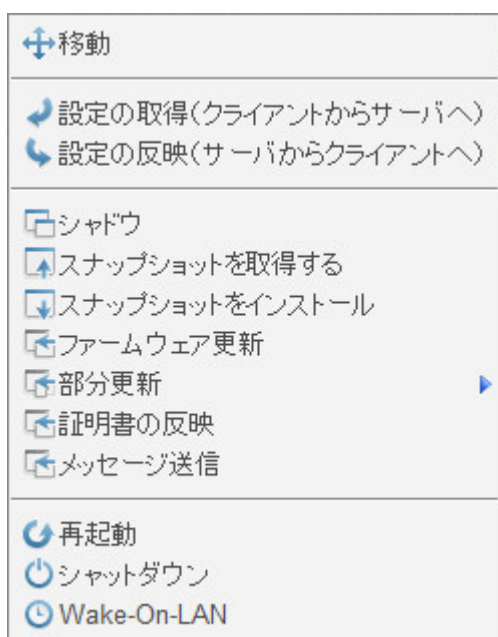
<div> <div>削除</div> <div>編集</div> <div>設定の編集</div> <div>コマンド</div> <div>すべてを選択</div> <div>すべての選択を解除</div> <div>エクスポート</div> </div>						
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

3. 設定を取得するクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



- 複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。
- 選択したクライアントの電源が入っていることを確認します。電源が入っていないクライアントがある場合、一部のクライアントから設定を取得できない可能性があります。クライアントの現在のステータスは、クライアントの前に表示されているステータスアイコンでリモートから把握できます。ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

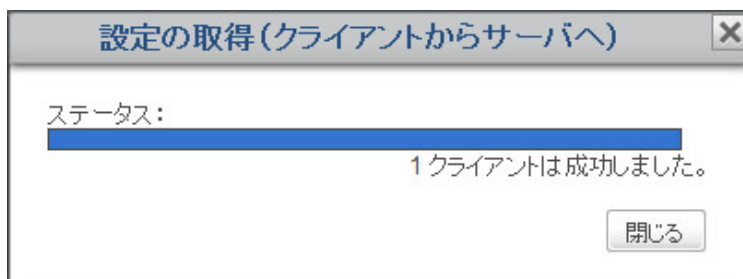
4. 「コマンド」メニューが表示されます。



5. 「設定の取得(クライアントからサーバ)」を選択します。
6. 確認のためのウィンドウが表示されます。
7. 「OK」をクリックして確定します。
8. [設定の取得]の進捗と結果を示す「設定の取得(クライアントからサーバ)」ウィンドウが表示されます。



9. 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



### クライアントグループの設定を取得する

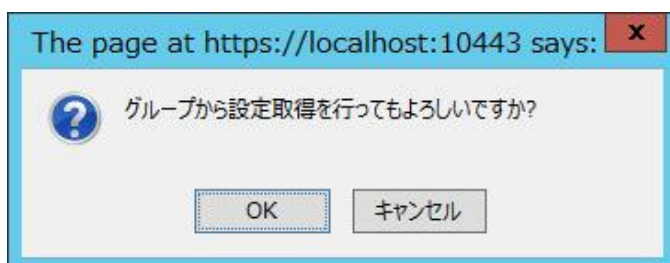
クライアントグループの設定を取得するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックし、クライアントグループ一覧を展開します。
2. 設定を取得するクライアントグループを右クリックしてポップアップメニューを開き、「設定の取得(クライアントからサーバーへ)」を選択します。



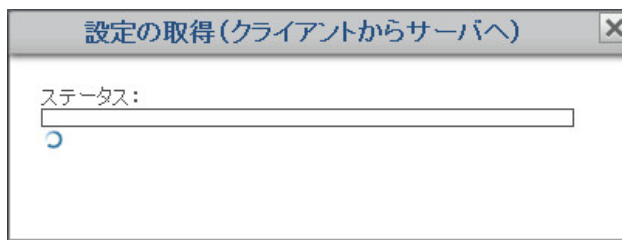
クライアントグループ内のクライアントの電源が入っていることを確認します。電源が入っていないクライアントがある場合、一部のクライアントから設定を取得できない可能性があります。クライアントの現在のステータスは、クライアントの前に表示されているステータスアイコンでリモートから把握できます。ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

3. 確認のためのウィンドウが表示されます。

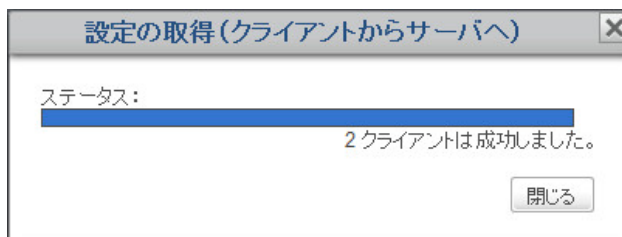


4. 「OK」をクリックして確定します。

5. [設定の取得]の進捗と結果を示す「設定の取得(クライアントからサーバへ)」ウィンドウが表示されます。



6. 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



### すべてのクライアントグループの設定を取得する

すべてのクライアントグループの設定を取得するには、以下の手順を実行してください。

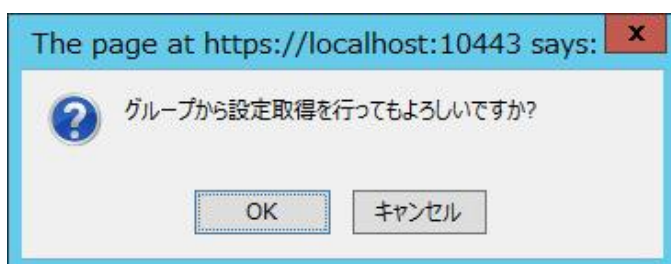
1. 「シンククライアント」タブでナビゲーションエリアの「シンククライアント」を右クリックし、ポップアップメニューを開きます。





すべてのクライアントの電源が入っていることを確認します。電源が入っていないクライアントがある場合、一部のクライアントから設定を取得できない可能性があります。クライアントの現在のステータスは、クライアントの前に表示されているステータスアイコンでリモートから把握できます。ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

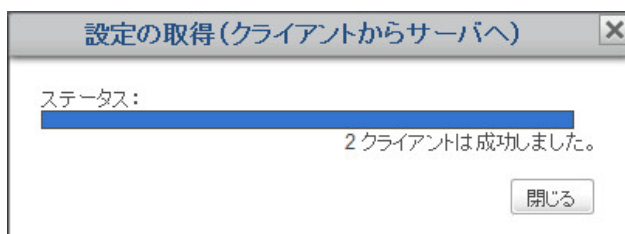
2. 「設定の取得(クライアントからサーバーへ)」を選択します。
3. 確認のためのウィンドウが表示されます。



4. 「OK」をクリックして確定します。
5. [設定の取得]の進捗と結果を示す「設定の取得(クライアントからサーバーへ)」ウィンドウが表示されます。



6. 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



### 3.4.17. 証明書の反映

ADM にインポートされている証明書をクライアントに反映することができます。

本機能を利用する前に ADM に証明書がインポートされている必要があります。証明書のインポートについては、本書の「第3章 3.2.7 証明書の管理」を参照してください。



証明書の反映は US120f のみでサポートされる機能です。US310e ではサポートされません。

証明書をクライアントに反映するには、以下の手順を実行してください。



ADM にインポートされている証明書のすべてがクライアントに反映されます。反映させる証明書を選択することはできません。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、証明書を反映するクライアントが登録されているクライアントグループを選択します。
2. クライアント一覧が表示されます。

<div> <div>削除</div> <div>編集</div> <div>設定の編集</div> <div>コマンド</div> <div>すべてを選択</div> <div>すべての選択を解除</div> <div>エクスポート</div> </div>							
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル	
	Atrust-033EB2	192.168.7.117	00:1F:D8:03:3E:B2	US120f	ARM Linux 8.43-FAKC	N/A	
	Atrust-033ED2	192.168.7.111	00:1F:D8:03:3E:D2	US120f	ARM Linux 8.43-IAKC	N/A	

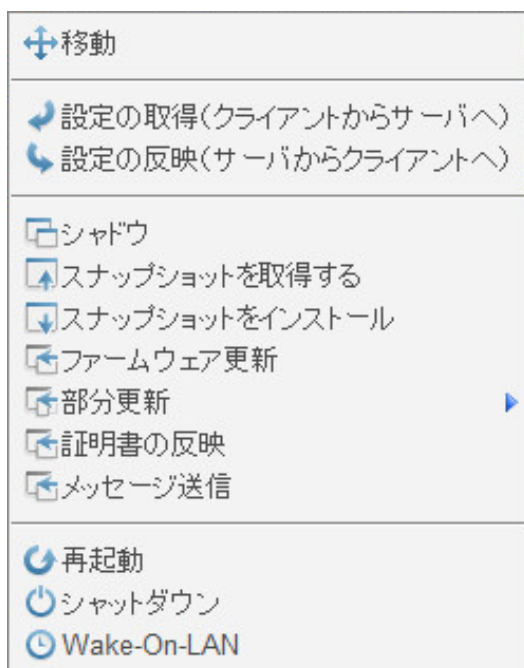
3. 証明書を反映するクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



- 複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。
- 選択したクライアントの電源が入っていることを確認します。電源が入っていないクライアントがある場合、証明書の反映が行えない可能性があります。クライアントの現在のステータスは、クライアントの前に表示されているステータスアイコンでリモートから把握できます。ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。



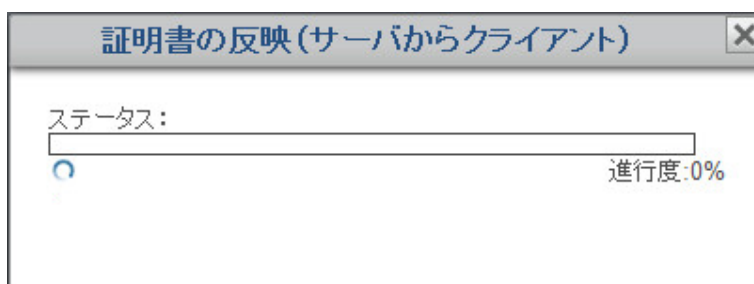
4. 「コマンド」メニューが表示されます。



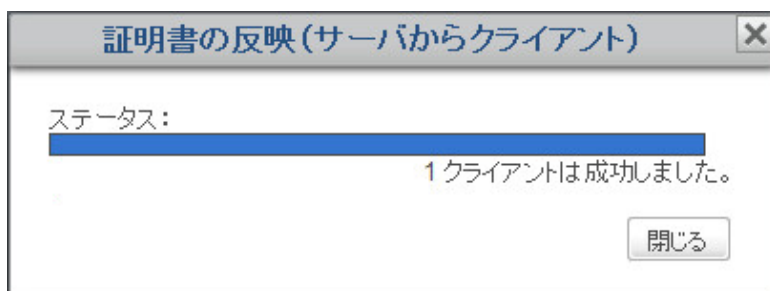
5. 「証明書の反映」を選択します。
6. 確認のためのウィンドウが表示されます。



7. 「OK」をクリックして確定します。
8. [証明書の反映]の進捗と結果を示す「証明書の反映(サーバからクライアント)」ウィンドウが表示されます。



- 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



### 3.4.18. クライアントへのメッセージの送信

管理対象のクライアントにメッセージを送信するには、以下の手順を実行してください。

- 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、メッセージを送信するクライアントが登録されているクライアントグループをクリックします。
- クライアント一覧が表示されます。

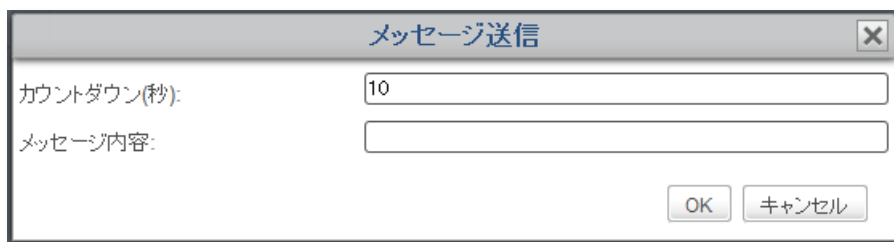
削除 編集 設定の編集 コマンド すべてを選択 すべての選択を解除 エクスポート

	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

- メッセージを送信するクライアントをクリックして選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。
- 「コマンド」メニューが表示されます。



5. 「メッセージ送信」を選択します。
6. カウントダウンとメッセージ内容を入力するウィンドウが表示されます。



メッセージ送信

カウントダウン(秒): 10

メッセージ内容:

OK キャンセル

7. データを入力し、「OK」をクリックして確定します。



メッセージ送信

カウントダウン(秒): 25

メッセージ内容: Test Message

OK キャンセル

8. クライアントにメッセージが送信されます。

### 3.4.19. クライアントの基本情報の編集または表示

クライアントの基本情報を編集または表示するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、対象のクライアントが登録されているクライアントグループをクリックします。
2. クライアント一覧が表示されます。

削除 編集 設定の編集 コマンド すべてを選択 すべての選択を解除 エクスポート

	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

3. 対象のクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「編集」をクリックします。
4. 「シンクライアント情報」ペインが表示されます。

シンクライアント情報 - (atrust-013E0E)

名前:

説明:

プロファイル:

資産 ID:

保存 キャンセル 戻る

---

IPアドレス:

MACアドレス:

シリアル番号:

モデル名:

前回の起動時間:

ファームウェア:

パッケージ:

名前	バージョン	インストールした日時
Japanese Language Package	1.4	2017-03-02 06:56:55(UTC+09:00)

5. クライアントのデータを編集するか、クライアントの基本情報を確認します。



- [名前]、[説明]、[プロファイル]、[資産 ID]を変更することができます。変更後は、「保存」をクリックして変更内容を反映します。
- [プロファイル]を設定すると、選択したプロファイルのプロファイル設定を適用するクライアントとして追加されます。
- クライアントの基本情報を確認するだけの場合は、確認後に「戻る」をクリックしてクライアント一覧に戻ります。

### 3.4.20. ローカルネットワークを介してクライアントを再起動する

ローカルネットワークを介してクライアントを再起動することができます。

クライアント設定の反映、およびクライアントファームウェアの更新時には、これらの変更を有効にするためにクライアントの再起動が必要な場合があります。

#### ローカルネットワークを介してクライアントを再起動する

ローカルネットワークを介してクライアントを再起動するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、再起動するクライアントが登録されているクライアントグループを選択します。
2. クライアント一覧が表示されます。

削除 編集 設定の編集 コマンド すべてを選択 すべての選択を解除 エクスポート

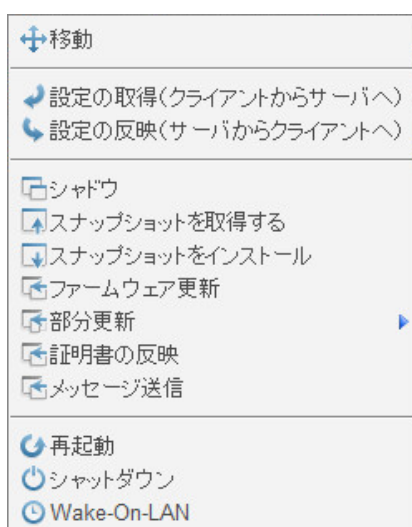
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

3. 再起動するクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



- 複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。
- 選択したクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。

4. 「コマンド」メニューが表示されます。



5. 「再起動」をクリックします。
6. 選択したクライアントで、再起動が行われることをユーザーに知らせ、必要に応じて再起動処理をキャンセルできる警告メッセージが表示されます。
7. 再起動後、ステータスアイコンによりクライアントが再度オンラインになったことを確認します。

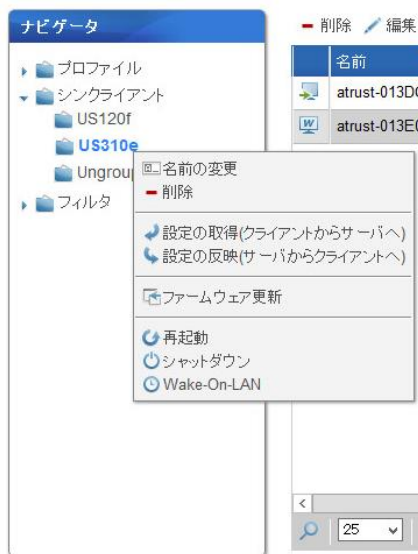


ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

### ローカルネットワークを介してクライアントグループを再起動する

ローカルネットワークを介してクライアントグループを再起動するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックし、「クライアントグループ」ツリーを展開します。
2. 再起動するクライアントグループを右クリックしてポップアップメニューを開きます。



3. 「再起動」を選択します。



選択したクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。

4. クライアントグループの各クライアントで、再起動が行われることをユーザーに知らせ、必要に応じて再起動処理をキャンセルできる警告メッセージが表示されます。

- 再起動後、ステータスアイコンによりクライアントが再度オンラインになったことを確認します。



ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

### ローカルネットワークを介してすべてのクライアントグループを再起動する

ローカルネットワークを介してすべてのクライアントグループを再起動するには、以下の手順を実行してください。

- 「シンクライアント」タブで右クリックし、ポップアップメニューを開きます。



- 「再起動」を選択します。



選択したクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。

- 管理対象のすべてのクライアントで、再起動が行われることをユーザーに知らせ、必要に応じて再起動処理をキャンセルできる警告メッセージが表示されます。
- 再起動後、ステータスアイコンによりクライアントが再度オンラインになったことを確認します。



ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

### 3.4.21. ローカルネットワークを介してクライアントをシャットダウンする

#### ローカルネットワークを介してクライアントをシャットダウンする

ローカルネットワークを介してクライアントをシャットダウンするには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、シャットダウンするクライアントが登録されているクライアントグループを選択します。
2. クライアント一覧が表示されます。

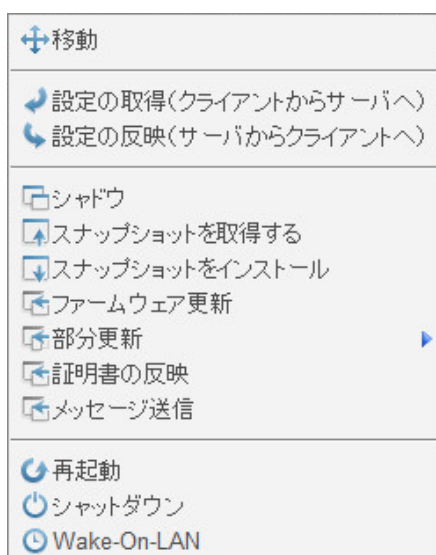
<div> <span>削除</span> <span>編集</span> <span>設定の編集</span> <span>コマンド</span> <span>すべてを選択</span> <span>すべての選択を解除</span> <span>エクスポート</span> </div>						
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロフィール
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

3. シャットダウンするクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



- 複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。
- 選択したクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。

4. 「コマンド」メニューが表示されます。



5. 「シャットダウン」をクリックします。



6. 選択したクライアントで、シャットダウンが行われることをユーザーに知らせ、必要に応じてシャットダウン処理をキャンセルできる警告メッセージが表示されます。
7. シャットダウン後、ステータスアイコンによりクライアントがオフラインになったことを確認します。

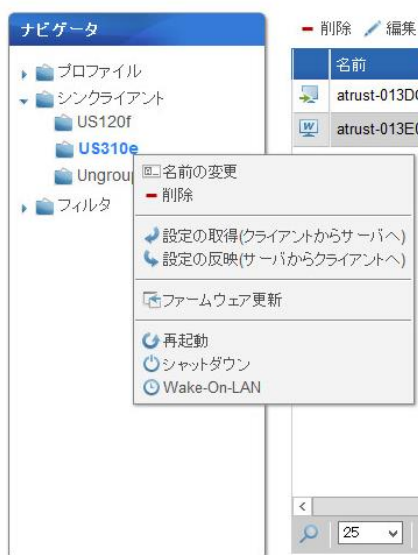


ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

### ローカルネットワークを介してクライアントグループをシャットダウンする

ローカルネットワークを介してクライアントグループをシャットダウンするには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックし、「クライアントグループ」ツリーを展開します。
2. シャットダウンするクライアントグループを右クリックしてポップアップメニューを開きます。

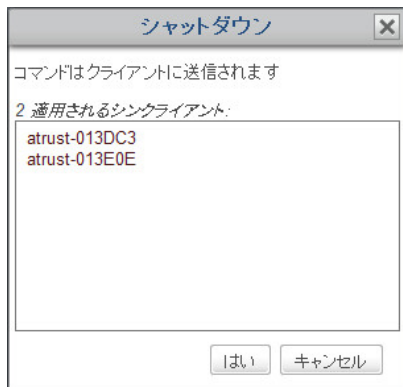


3. 「シャットダウン」を選択します。



選択したクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。

4. 確認のための「シャットダウン」ウィンドウが表示されます。



5. 「はい」をクリックして確定します。
6. クライアントグループ内の各クライアントで、シャットダウンが行われることをユーザーに知らせ、必要に応じてシャットダウン処理をキャンセルできる警告メッセージが表示されます。
7. シャットダウン後、ステータスアイコンによりクライアントグループ内の各クライアントがオフラインになったことを確認します。

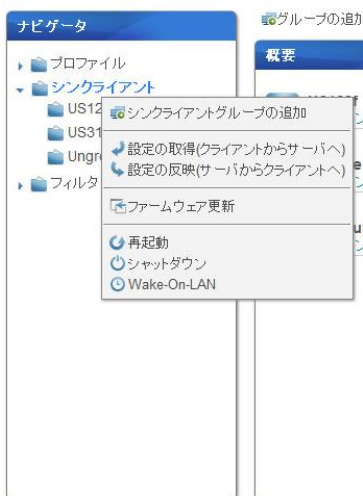


ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

### ローカルネットワークを介してすべてのクライアントグループをシャットダウンする

ローカルネットワークを介してすべてのクライアントグループをシャットダウンするには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブで右クリックし、ポップアップメニューを開きます。



2. 「シャットダウン」を選択します。



選択したクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。

3. 確認のための「シャットダウン」ウィンドウが表示されます。



4. 管理対象のすべてのクライアントで、シャットダウンが行われることをユーザーに知らせ、必要に応じてシャットダウン処理をキャンセルできる警告メッセージが表示されます。
5. シャットダウン後、ステータスアイコンによりクライアントがオフラインになったことを確認します。



ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

### 3.4.22. ローカルネットワークを介してクライアントを起動する

クライアントが電源コンセントとローカルネットワークに接続されている場合、Wake on LAN 機能はローカルネットワークを通して複数のクライアントを起動することを可能にします。



- 無線 LAN 環境では Wake on LAN 機能は使えません。
- US120f では、Wake on LAN によるサスペンドからの復帰はサポートされません。

### ローカルネットワークを介してクライアントを起動する

ローカルネットワークを介してクライアントを起動するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、スリブモードを解除するクライアントが登録されているクライアントグループをクリックして選択します。
2. クライアント一覧が表示されます。

<div> <span>削除</span> <span>編集</span> <span>設定の編集</span> <span>コマンド</span> <span>すべてを選択</span> <span>すべての選択を解除</span> <span>エクスポート</span> </div>						
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

3. 起動するクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。

4. 「コマンド」メニューが表示されます。



5. 「Wake On LAN」を選択します。
6. 選択したクライアントが起動します。

7. クライアントの起動後、ステータスアイコンによりクライアントがオンラインになったことを確認します。

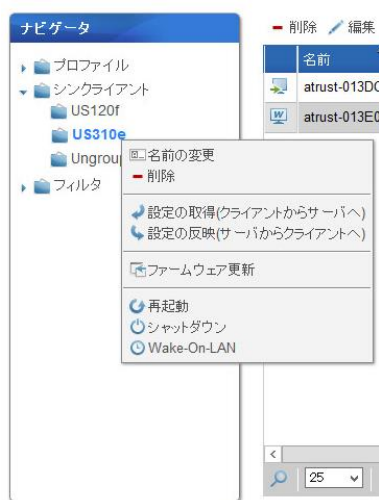


ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

### ローカルネットワークを介してクライアントグループを起動する

ローカルネットワークを介してクライアントグループを起動するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブで「シンククライアント」をクリックし、「クライアントグループ」ツリーを展開します。
2. 起動するクライアントグループを右クリックしてポップアップメニューを開きます。



3. 「Wake On LAN」を選択します。
4. 確認のための「Wake On LAN」ウィンドウが表示されます。



5. 「はい」をクリックして確定します。
6. クライアントグループ内の各クライアントが起動します。

7. クライアントグループの起動後、ステータスアイコンによりクライアントがオンラインになったことを確認します。



ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

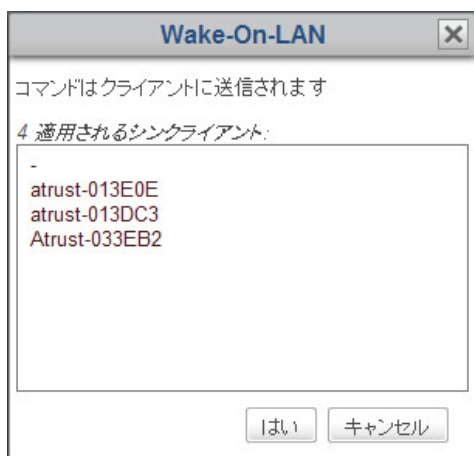
### ローカルネットワークを介してすべてのクライアントグループを起動する

ローカルネットワークを介してすべてのクライアントグループを起動するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブで右クリックし、ポップアップメニューを開きます。



2. 「Wake On LAN」を選択します。
3. 確認のための「Wake On LAN」ウィンドウが表示されます。



4. すべてのクライアントグループ起動後、ステータスアイコンによりクライアントがオンラインになったことを確認します。



ステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

### 3.4.23. クライアントファームウェアの更新

ローカルネットワークを介してクライアントのファームウェアを更新するには、以下の手順を実行してください。



無線 LAN 環境ではファームウェアの更新はできません。



- ADM にファームウェアファイルがインポートされている必要があります。ファームウェアファイルのインポートについては、本書の「第 3 章 3.2.4 シンクライアントのファームウェアファイルの管理」を参照してください。
- クライアントファームウェアを更新しても、クライアント設定は消去されません。

#### ローカルネットワークを介してクライアントのファームウェアを更新する

ローカルネットワークを介してクライアントのファームウェアを更新するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、ファームウェアを更新するクライアントが登録されているクライアントグループをクリックします。
2. クライアント一覧が表示されます。

<div> <div>削除</div> <div>編集</div> <div>設定の編集</div> <div>コマンド</div> <div>すべてを選択</div> <div>すべての選択を解除</div> <div>エクスポート</div> </div>						
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

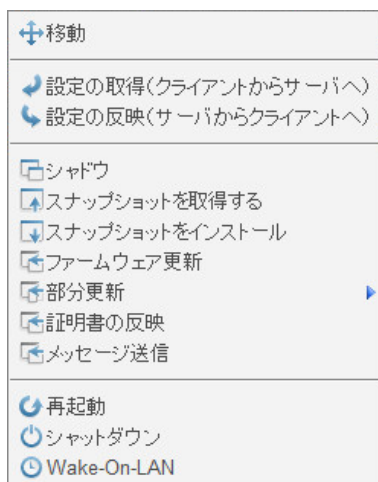
3. ファームウェアを更新するクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



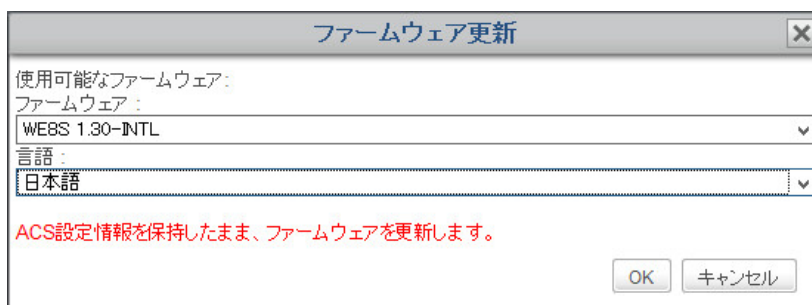
- 複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。
- 選択したクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。



4. 「コマンド」メニューが表示されます。

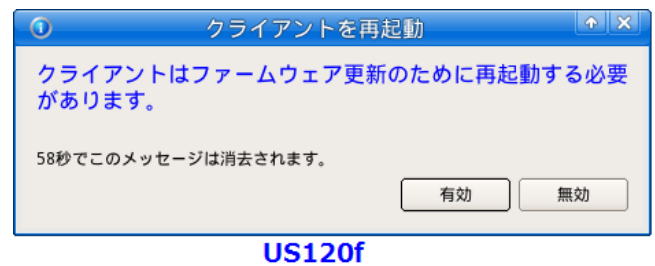
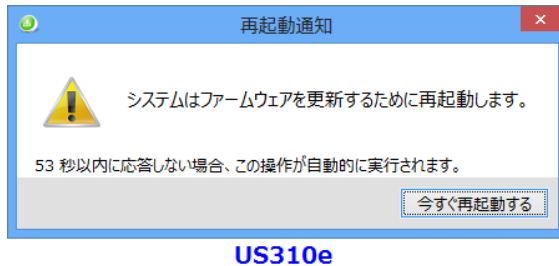


5. 「ファームウェア更新」を選択します。
6. ファームウェアと言語を選択する「ファームウェア更新」ウィンドウが表示されます。



7. ドロップダウンメニューから、適用するファームウェアと言語を選択し、「OK」をクリックします。

8. 選択したクライアントで、ファームウェアの更新が行われることをユーザーに知らせる警告メッセージが表示されます。



9. 再起動後、クライアントファームウェアが更新されます。

### ローカルネットワークを介してクライアントグループのファームウェアを更新する

ローカルネットワークを介してクライアントグループのファームウェアを更新するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブで「シンククライアント」をクリックし、「クライアントグループ」ツリーを展開します。
2. ファームウェアを更新するクライアントグループを右クリックしてポップアップメニューを開きます。

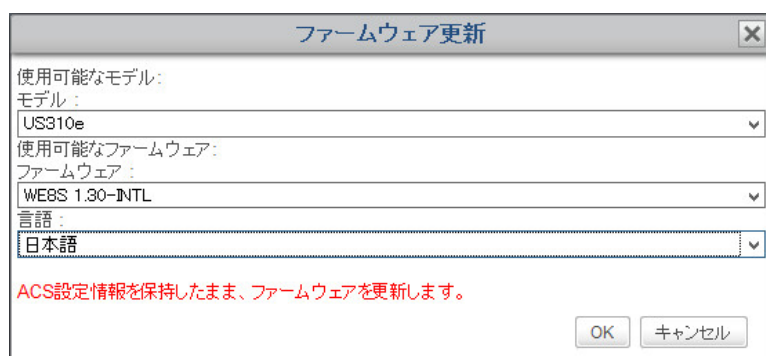


3. 「ファームウェア更新」を選択します。



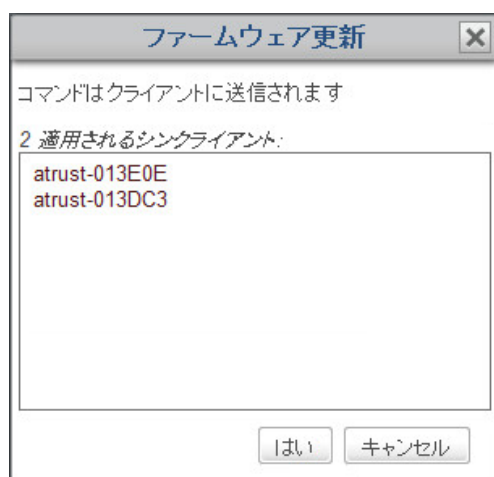
選択したクライアントグループに登録しているクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。

4. モデルとファームウェアと言語を選択する「ファームウェア更新」ウィンドウが表示されます。



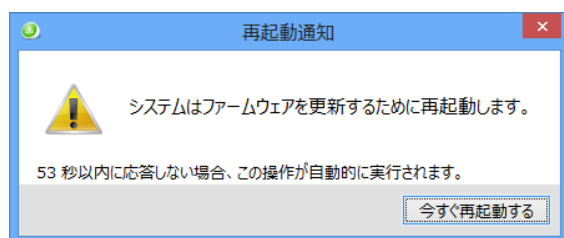
5. ドロップダウンメニューから、モデル、適用するファームウェア、言語を選択し、「OK」をクリックします。

6. 確認のための「ファームウェア更新」ウィンドウが表示されます。

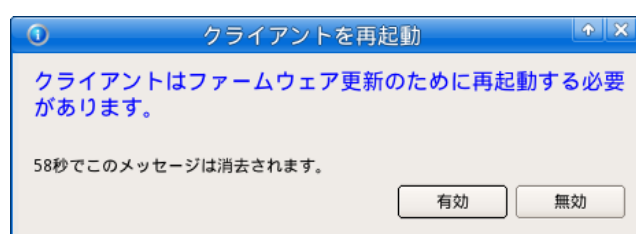


7. 「はい」をクリックします。

8. 選択したクライアントで、ファームウェアの更新が行われることをユーザーに知らせる警告メッセージが表示されます。



US310e



US120f

9. 再起動後、クライアントファームウェアが更新されます。

### 3.4.24. ソフトウェアパッケージのインストールとアンインストール

クライアントにソフトウェアパッケージをインストール/アンインストールするには、以下の手順を実行してください。



WES パッケージの配信は、US120f ではサポートされません。



ADM に WES パッケージがインポートされている必要があります。WES パッケージのインポートについては、本書の「第3章 3.2.5 WES パッケージファイルの管理」を参照してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、WES パッケージを配信するクライアントが登録されているクライアントグループをクリックします。
2. クライアント一覧が表示されます。

<div> <span>削除</span> <span>編集</span> <span>設定の編集</span> <span>コマンド</span> <span>すべてを選択</span> <span>すべての選択を解除</span> <span>エクスポート</span> </div>						
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

3. WES パッケージを配信するクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。

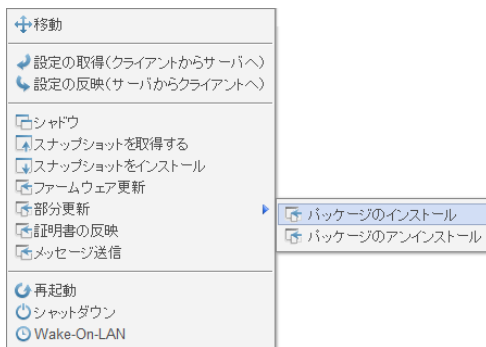


- 複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。
- 選択したクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。

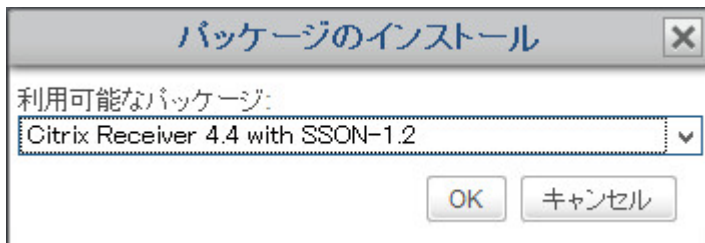
4. 「コマンド」メニューが表示されます。

移動
設定の取得(クライアントからサーバへ)
設定の反映(サーバからクライアントへ)
シャドウ
スナップショットを取得する
スナップショットをインストール
ファームウェア更新
部分更新
証明書の反映
メッセージ送信
再起動
シャットダウン
Wake-On-LAN

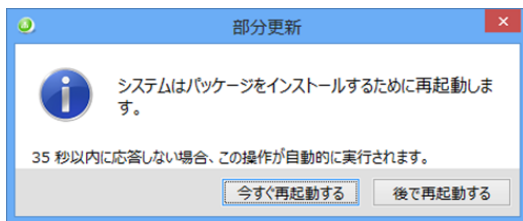
5. 「部分更新」 - 「パッケージのインストール」または「アンインストール」をクリックします。



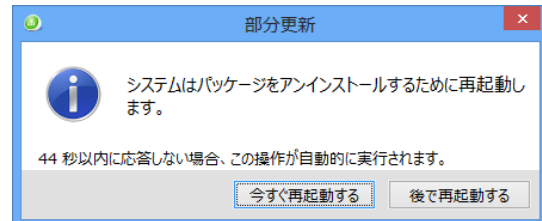
6. 開かれたウィンドウで適切なソフトウェアパッケージをインストールまたはアンインストールするために選択し、「OK」をクリックします。



7. 選択したクライアントで重要メッセージが表示され、計画された再起動のユーザーに通知し、ユーザーは必要に応じてその処理をキャンセルすることができます。このタスクを完了するには、複数回の再起動が必要です。



パッケージのインストール時



パッケージのアンインストール時

8. 再起動後、WES パッケージが選択したクライアントにインストールされます。



パッケージの配信が完了したかどうかをリモートから確認するには、クライアントを選択して「編集」をクリックし、クライアントの基本情報を表示します。詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.19 クライアントの基本情報の編集または表示」を参照してください。

### 3.4.25. クライアントスナップショットの取得

スナップショットは特定の時点におけるクライアントのシステムコピーで、一括展開用に使用できます。



- 無線 LAN 環境ではスナップショットの取得はできません。
- スナップショットの取得は、US120f ではサポートされません。

クライアントスナップショットを取得するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、スナップショットを取得するクライアントが登録されているクライアントグループをクリックして選択します。
2. クライアント一覧が表示されます。

<div> <div>削除</div> <div>編集</div> <div>設定の編集</div> <div>コマンド</div> <div>すべてを選択</div> <div>すべての選択を解除</div> <div>エクスポート</div> </div>						
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

3. スナップショットを取得するクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



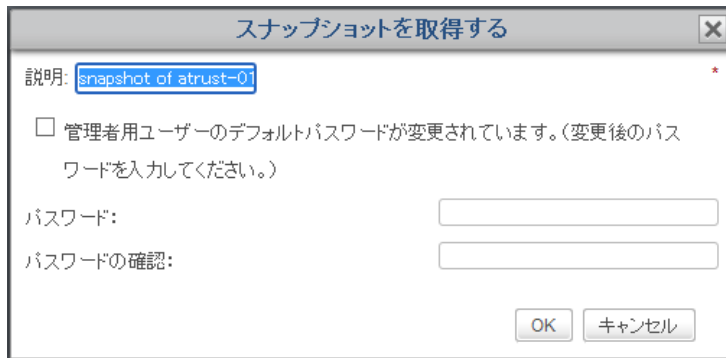
スナップショットの取得は 1 台ずつのみ取得できます。同時に複数のクライアントからスナップショットを取得することはできません。

4. 「コマンド」メニューが表示されます。

<div> <div>移動</div> <div>設定の取得(クライアントからサーバへ)</div> <div>設定の反映(サーバからクライアントへ)</div> <div>シャドウ</div> <div>スナップショットを取得する</div> <div>スナップショットをインストール</div> <div>ファームウェア更新</div> <div>部分更新</div> <div>証明書の反映</div> <div>メッセージ送信</div> <div>再起動</div> <div>シャットダウン</div> <div>Wake-On-LAN</div> </div>
---

5. 「スナップショットを取得する」を選択します。

6. 「スナップショットを取得する」ウィンドウが表示されます。

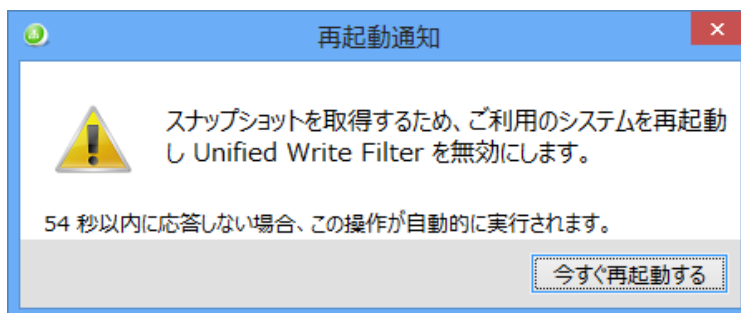


7. スナップショットの説明を入力し、「OK」をクリックします。



クライアントのビルトイン Administrator のパスワードをデフォルトパスワードから変更している場合は、「管理者用ユーザーのデフォルトパスワードが変更されています。(変更後のパスワードを入力してください。)」のチェックを有効にし、変更後のパスワードを入力します。

8. 選択したクライアントで、スナップショットの取得が行われることをユーザーに知らせる警告メッセージが表示されます。



9. 再起動後、スナップショットの取得が開始されます。取得が完了するまでしばらくお待ちください。

10. スナップショットの取得完了後、スナップショット一覧に取得したスナップショットが追加されます。



- スナップショット一覧にアクセスするには、「システム」 - 「配置」 - 「スナップショット」を選択します。
- スナップショットの管理手順について詳しくは、本書の「第3章 3.2.6 クラウドクライアントスナップショットの管理」を参照してください。

### 3.4.26. クライアントスナップショットのインストール

クライアントスナップショットをインストールするには、以下の手順を実行してください。



- 無線 LAN 環境ではスナップショットのインストールはできません。
- スナップショットのインストールは、US120f ではサポートされません。



クライアントスナップショットのインストールを行うには、ADM にクライアントスナップショットがインポートされている、またはクライアントスナップショットの取得を行う必要があります。スナップショットのインポートについては、本書の「第 3 章 3.2.6 クライアントスナップショットの管理」を参照してください。クライアントスナップショットの取得については、本書の「第 3 章 3.4.25 クライアントスナップショットの取得」を参照してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、スナップショットをインストールするクライアントが登録されているクライアントグループをクリックして選択します。
2. クライアント一覧が表示されます。

<div> <div>削除</div> <div>編集</div> <div>設定の編集</div> <div>コマンド</div> <div>すべてを選択</div> <div>すべての選択を解除</div> <div>エクスポート</div> </div>						
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

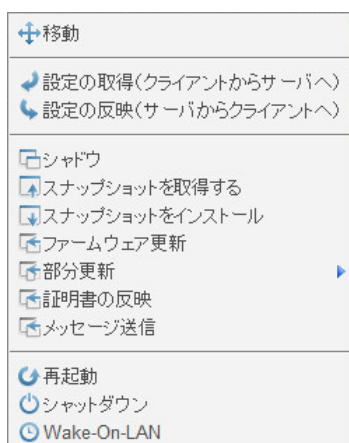
3. スナップショットをインストールするクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



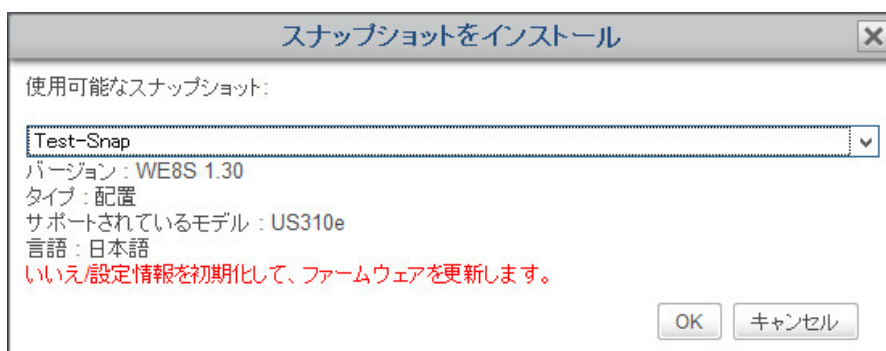
- 複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。
- 選択したクライアントで重要なタスクを実行していないことを確認します。



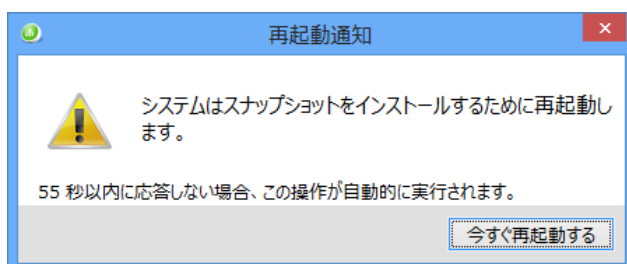
4. 「コマンド」メニューが表示されます。



5. 「スナップショットをインストール」を選択します。
6. 「スナップショットをインストール」ウィンドウが表示されます。



7. ドロップダウンメニューから、適用するスナップショットを選択し、「OK」をクリックします。
8. 選択したクライアントで、スナップショットのインストールが行われることをユーザーに知らせる警告メッセージが表示されます。



9. 再起動後、スナップショットのインストールが開始されます。インストールが完了するまでしばらくお待ちください。

### 3.4.27. シャドウ機能を使用する

シャドウ機能を使用してクライアントに接続することで、クライアントのデスクトップまたはセッションを直接表示したり操作したりできます。シャドウ機能を使用するとクライアントで発生した問題の解決やローカル設定の指定などを支援することができます。



シャドウ機能を使用するには、クライアントの ACS でシャドウ機能が有効に設定されている必要があります。

シャドウ機能を使用してクライアントに接続するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、シャドウ機能で接続するクライアントが登録されているクライアントグループをクリックして選択します。
2. クライアント一覧が表示されます。

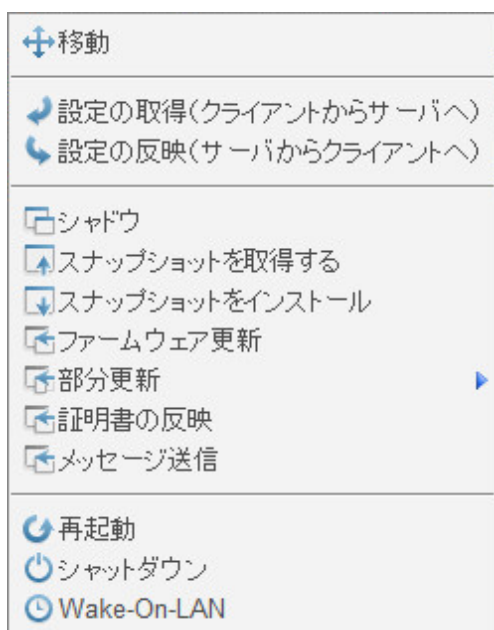
<div> <span>削除</span> <span>編集</span> <span>設定の編集</span> <span>コマンド</span> <span>すべてを選択</span> <span>すべての選択を解除</span> <span>エクスポート</span> </div>						
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	atrust-013DC3	192.168.7.120	00:1F:D8:01:3D:C3	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A
	atrust-013E0E	192.168.7.118	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL	N/A

3. シャドウ機能で接続するクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「コマンド」をクリックします。



- 複数のクライアントを指定してシャドウ機能を使用することはできません。
- シャドウ機能を使用して接続中に、別のクライアントを指定して接続することは可能です。

4. 「コマンド」メニューが表示されます。



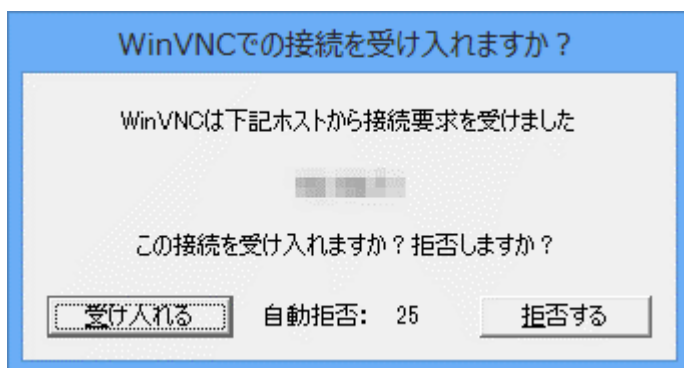
5. 「シャドウ」を選択します。

6. 「認証」ウィンドウが表示されます。

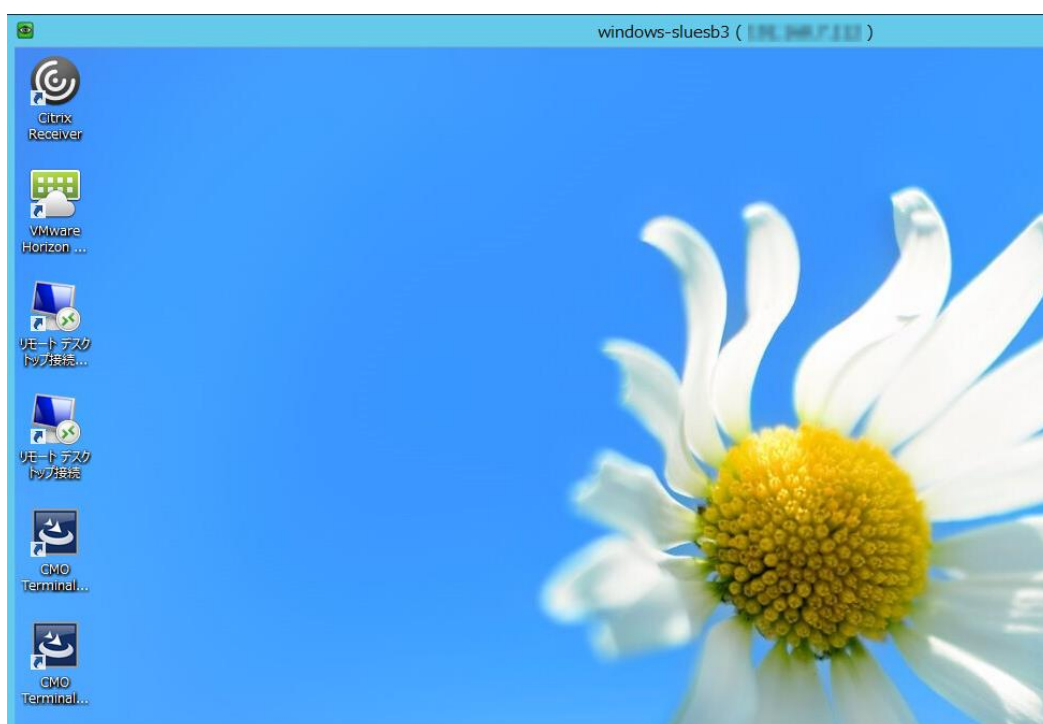


7. シャドウのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

8. 選択したクライアントでシャドウ接続を受け入れるかどうかを選択するウィンドウが表示されるので、接続を受け入れて問題ない場合は「受け入れる」をクリックします。本書では接続を受け入れています。



9. 選択したクライアントのデスクトップ画面が表示されます。



### 3.4.28. クライアントデータのエクスポート

クライアントグループ一覧またはクライアント一覧で利用できるエクスポート機能を使用すると、管理対象のクライアントのインベントリをエクスポートすることができます。

管理対象のクライアントのインベントリをエクスポートするには、以下の手順を実行してください。

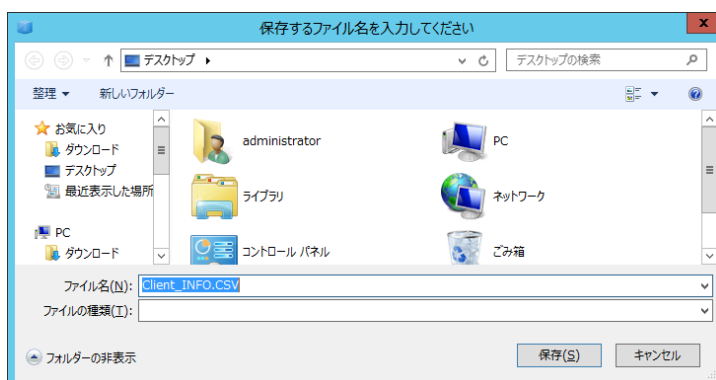
1. 「シンククライアント」タブのナビゲーションエリアでエクスポートするグループを選択します。
2. クライアントグループ一覧またはクライアント一覧の上にある「エクスポート」をクリックします。



3. エクスポート形式(CSV または XML)の選択を求めるウィンドウが表示されます。



4. ドロップダウンメニューから、エクスポートする形式を選択し、「エクスポート」をクリックします。
5. エクスポートされたファイルの保存先を選択するウィンドウが表示されるので、任意の場所にエクスポートされたファイルを保存します。



### 3.4.29. クイックサーチを使用したプロフィール、シンククライアント、ログの検出

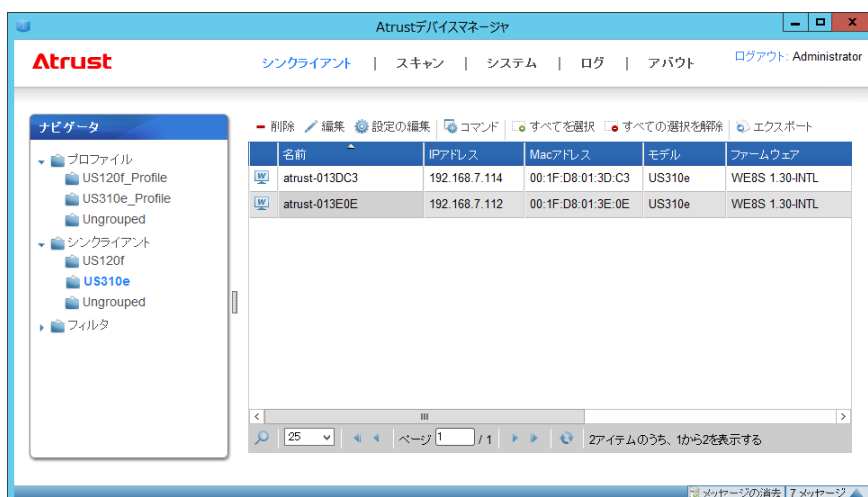
プロフィール、シンククライアント、ログの検出にクイックサーチを使用することができます。



フィルターを使用し、管理対象のクライアント内で適切なクライアントを特定することもできます。詳しくは、本書の「第3章 3.4.30 フィルターを使用したクライアントの検出」を参照してください。

プロフィール、シンククライアント、ログの一覧でクイックサーチを使用するには、以下の手順を実行してください。

1. プロファイル、シンククライアント、ログ、の中でクイックサーチを行いたいものを選択します。
2. 管理エリアにプロフィール、シンククライアント、ログ一覧が表示されます。本書では例としてシンククライアントを選択します。



3. クライアント一覧の下に表示されている、「クイックサーチ」ボタン(  ) をクリックします。



4. 「クイックサーチ」バーが表示されます。



5. ドロップダウンメニューから適切な検索タイプを選択し、適切な検索キーワードを入力します。
6. 「検索」をクリックし、クライアントの検索を開始します。
7. 検索完了後、「クイックサーチ」バーの上に結果一覧が表示されます。

削除 編集 設定の編集 コマンド すべてを選択 すべての選択を解除 エクスポート

	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア
	atrust-013E0E	192.168.7.112	00:1F:D8:01:3E:0E	US310e	WE8S 1.30-INTL

クイックサーチ

IPアドレス

112

検索

クリア

25

ページ 1 / 1

1アイテムのうち、1から1を表示する

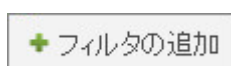
### 3.4.30. フィルターを使用したクライアントの検出

ADM を使用すると、すべての管理対象クライアントからクライアントを検出するためのフィルターを作成できます。フィルターを使用すると、特定のクライアントセットにすばやくアクセスして管理することができます。

#### フィルターの追加

フィルターを追加するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブのナビゲーションエリアで「フィルタ」を右クリックします。
2. ポップアップメニューが表示されます。
3. 「フィルタの追加」を選択します。



4. 管理エリアに「新しいフィルタを追加」および「フィルタプレビュー」ペインが表示されます。

新しいフィルタを追加

名前:

フィールド名	オペレータ	値	アクション
名前	等しい	<input type="text"/>	追加

使用可能なフィルタ条件

プレビュー 保存 キャンセル

フィルタプレビュー

名前	グループ
フィルタプレビュー	

5. フィルターに任意の名前を入力します。
6. 適切な[フィールド名]、[オペレータ]を選択し、フィルター条件の値を入力します。



フィルター条件として使用できるクライアントに関する大部分の情報は、「シンクライアント情報」ペインで入手できます。「シンクライアント情報」ペインにアクセスするには、本書の「第 3 章 3.4.19 クライアントの基本情報の編集または表示」を参照してください。



7. 「追加」をクリックして、フィルターに条件を追加します。
8. 手順 6.~7.を繰り返し、新しい条件を追加します。
9. 「プレビュー」をクリックし、フィルターの結果を表示します。「フィルタプレビュー」ペインに結果が表示されます。

### フィルタの編集

名前:

フィールド名	オペレータ	値	アクション
名前 ▼	等しい ▼	<input style="width: 50px;" type="text"/>	追加

使用可能なフィルタ条件

ファームウェア ▼	パターン一致 ▼	WEBS	削除
-----------	----------	------	----

### フィルタプレビュー

名前	グループ
atrust-013E0E	US310e
atrust-013DC3	US310e

10. 「保存」をクリックして、フィルターを作成します。

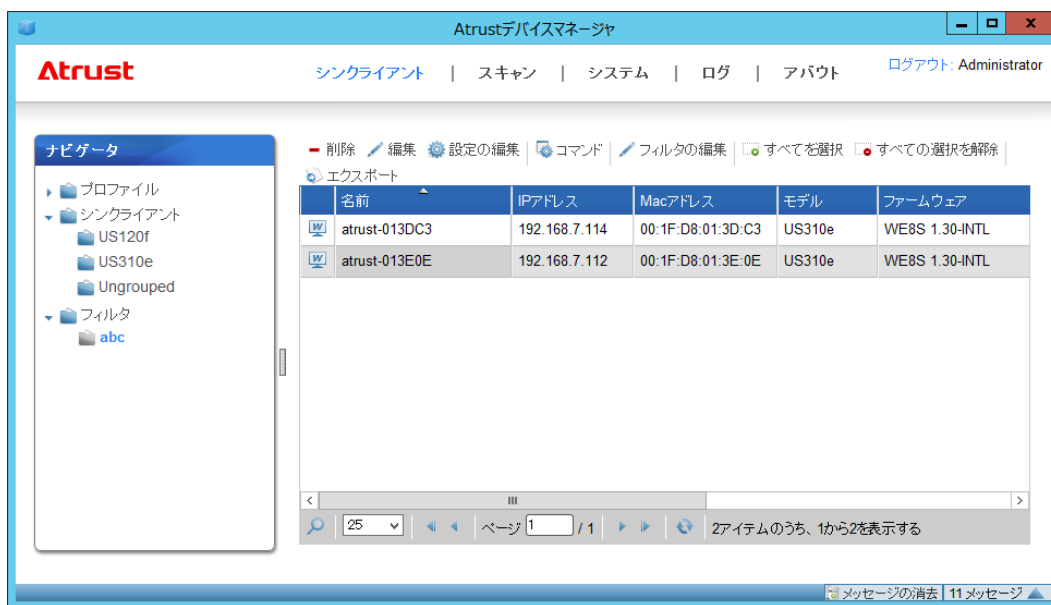
#### クライアントフィルターの使用

クライアントフィルターを作成した後は、対応するフィルターをクリックするだけで適切なクライアント一覧にアクセスできます。定義した条件を満たすすべてのクライアントが、クライアント一覧で指定されます。

クライアントフィルターを使用するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「フィルタ」をクリックし、「フィルタ」ツリーを展開します。
2. 使用するクライアントフィルターを選択します。

3. 適切なクライアント一覧が表示されます。



### 3.4.31. フィルターの管理

#### フィルターの削除

フィルターを削除するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブのナビゲーションエリアで「フィルタ」をクリックします。
2. 管理エリアにフィルター一覧が表示されます。

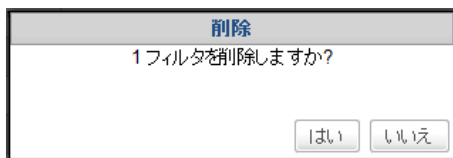


3. 削除するフィルターを選択し、フィルター一覧の上にある「削除」をクリックします。



複数のフィルターを選択するには、「Ctrl」を押しながらフィルターを選択します。

4. 確認のための「削除」ウィンドウが表示されます。



5. 「はい」をクリックして確定します。

#### フィルターの編集

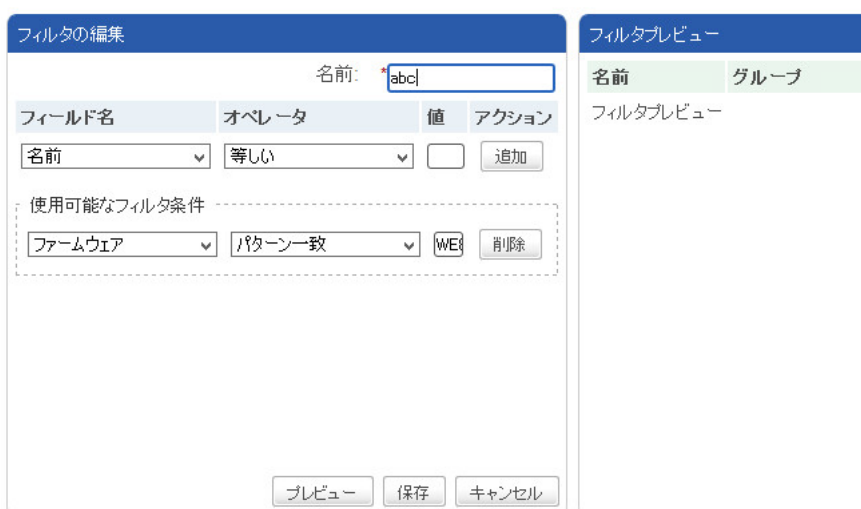
フィルターを編集するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンククライアント」タブのナビゲーションエリアで「フィルタ」をクリックします。

2. 管理エリアにフィルター一覧が表示されます。



3. 編集するフィルターを選択し、フィルター一覧の上にある「編集」をクリックします。
4. 管理エリアに「フィルタの編集」および「フィルタプレビュー」ペインが表示されます。



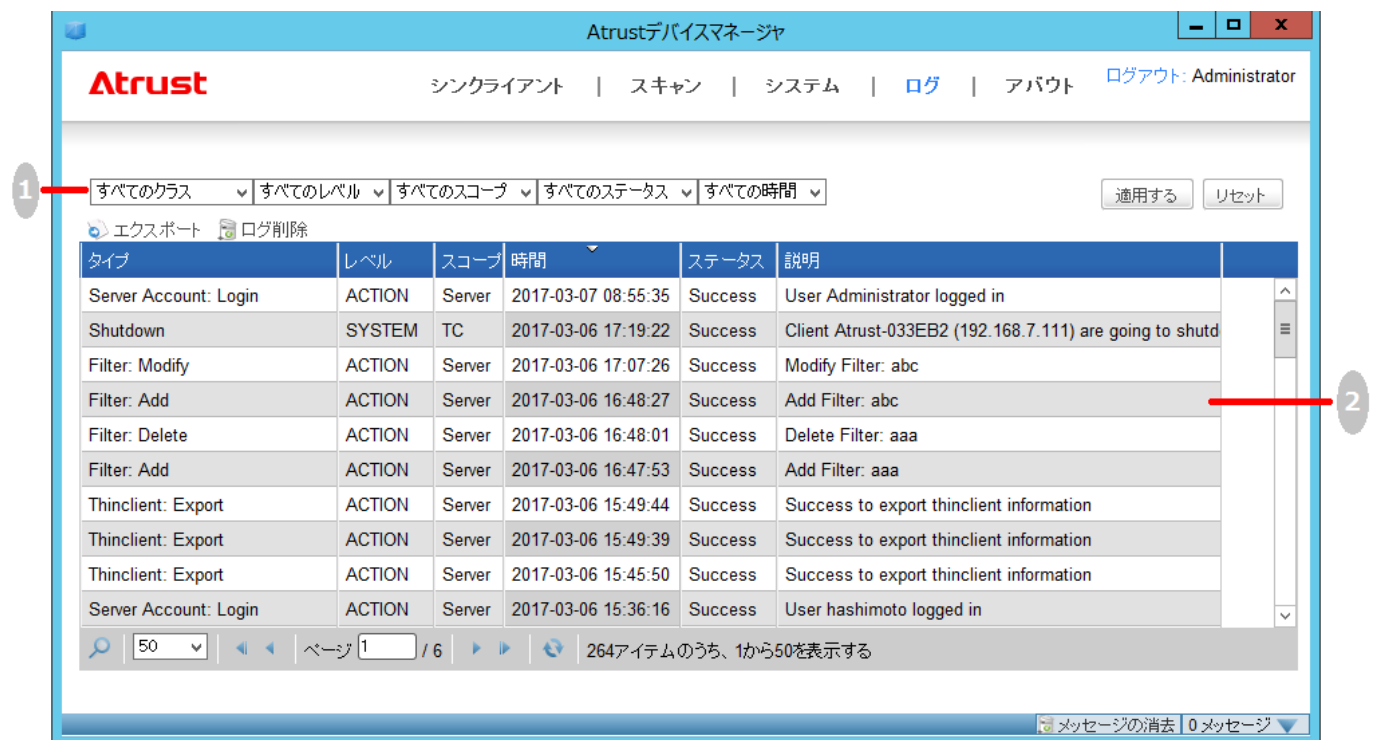
5. フィルターの条件を編集し、「保存」をクリックして適用します。

## 3.5. イベントログの表示と管理

### 3.5.1. 「ログ」タブの概要

「ログ」タブでは、クライアント管理についてのイベントログを表示できます。「ログ」タブの機能にアクセスするには、ADMでこのタブをクリックします。

図5 「ログ」タブの概要



#### インターフェース要素

番号	名称	説明
1	ナビゲーションバー	イベントログの適切なタイプと範囲を選択する場合にクリックします。
2	管理エリア	イベントログを管理します。

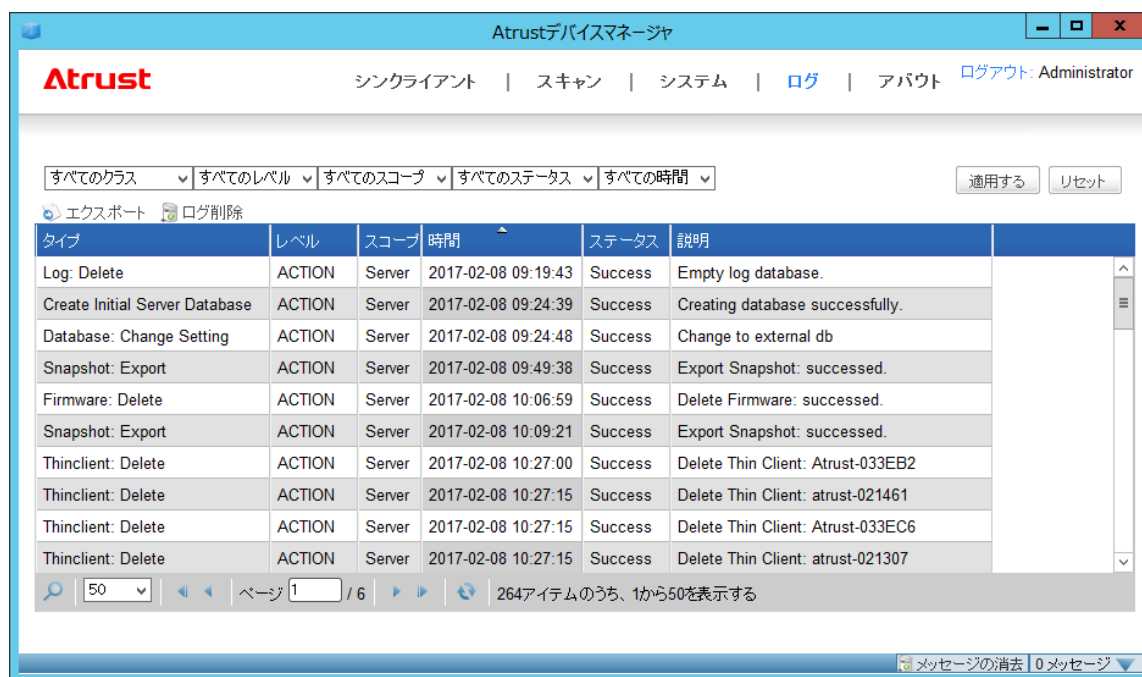
### 3.5.2. 使用可能なタスク一覧

番号	使用可能なタスク	参照先
1	イベントログの表示	第3章 3.5.3 イベントログの表示
2	イベントログのエクスポート	第3章 3.5.4 イベントログのエクスポート
3	イベントログの消去	第3章 3.5.5 イベントログの消去

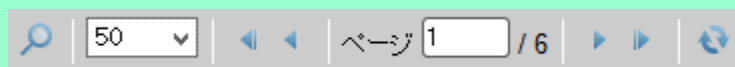
### 3.5.3. イベントログの表示

ADM のイベントログを表示するには、以下の手順を実行してください。

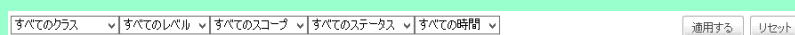
1. ADM で「ログ」タブをクリックします。
2. ログ一覧が表示されます。



- ログが複数ページある場合は、( ◀ ) ( ◀ ) ( ▶ ) ( ▶ ) をクリックして最初のページ、前のページ、次のページ、最後のページに移動することができます。



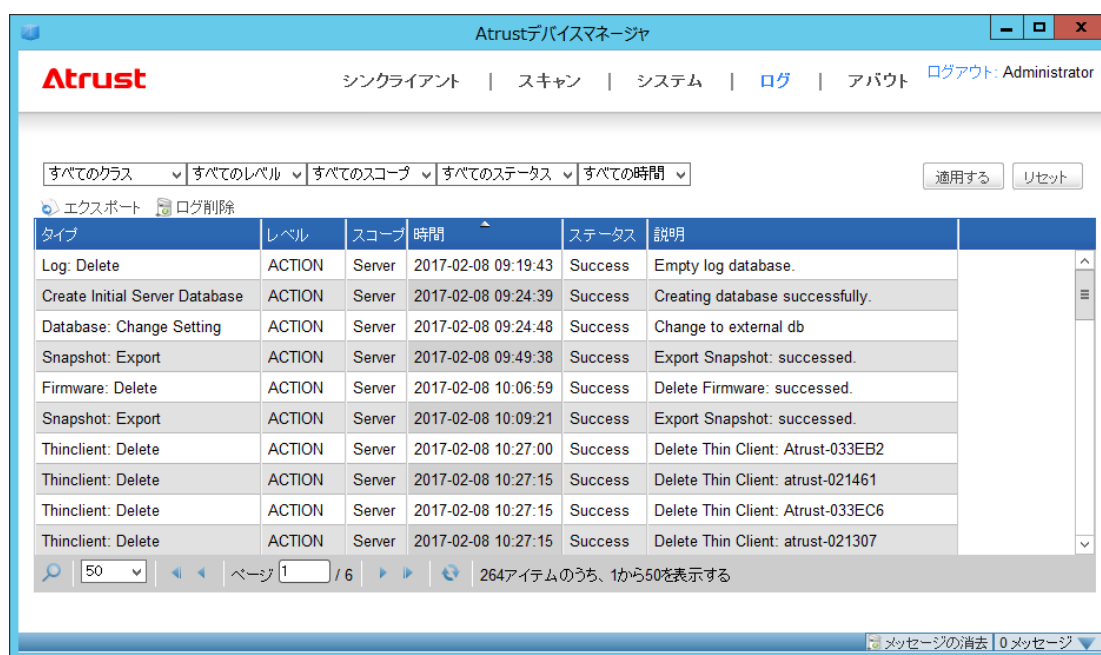
- 特定の範囲内のログエントリを表示するには、ドロップダウンメニューから表示させる範囲を選択し、「適用する」をクリックします。



### 3.5.4. イベントログのエクスポート

イベントログをエクスポートするには、以下の手順を実行してください。

1. ADMで「ログ」タブをクリックします。
2. ログ一覧が表示されます。



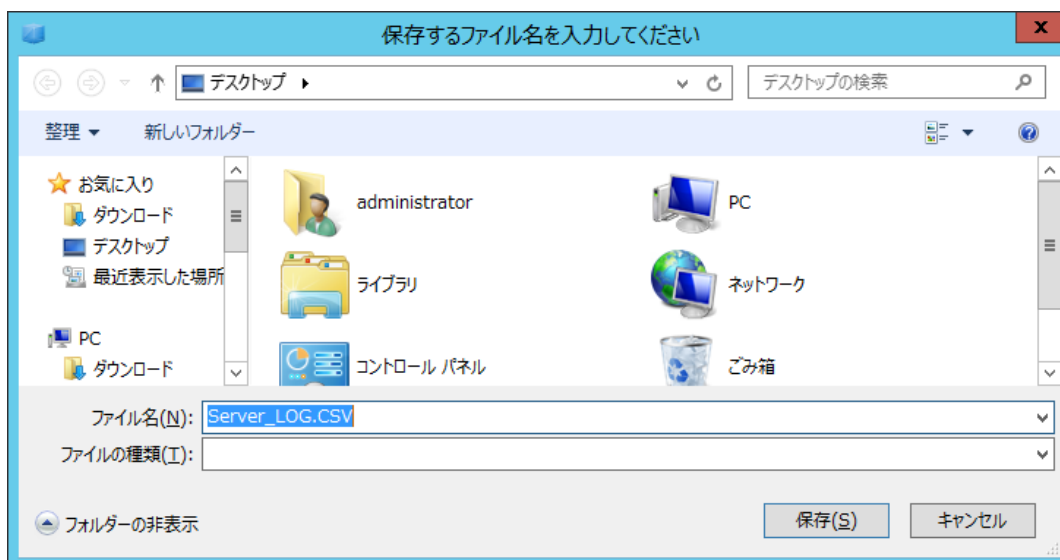
- 特定の範囲内のログエントリをエクスポートするには、ドロップダウンメニューからエクスポートさせる範囲を選択し、「適用する」をクリックします。
- すべてのログエントリをエクスポートするには、「リセット」をクリックした後に「適用する」をクリックします。

3. 「エクスポート」をクリックします。
4. エクスポート形式を選択する「エクスポート」ウィンドウが表示されます。



5. ドロップダウンメニューから出力する形式(.CSVまたは.XML)を選択し、「エクスポート」をクリックします。

6. エクスポートされたファイルの保存先を選択するウィンドウが表示されるので、任意の場所にエクスポートされたファイルを保存します。





### 3.5.5. イベントログの消去

システムのイベントログを消去するには、以下の手順を実行してください。

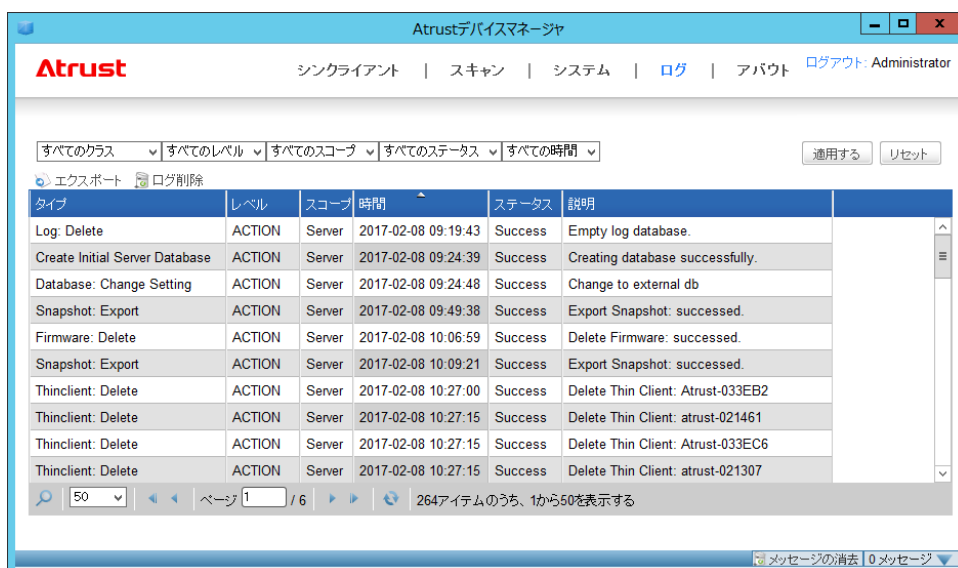


ログを消去すると、すべてのログエントリが削除されます。ログを削除しても問題がないことをご確認ください。

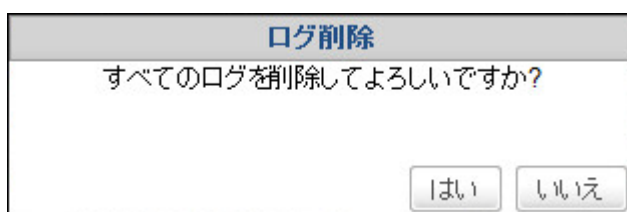


ログエントリを部分的に削除することはできません。

1. ADMで「ログ」タブをクリックします。
2. ログ一覧が表示されます。

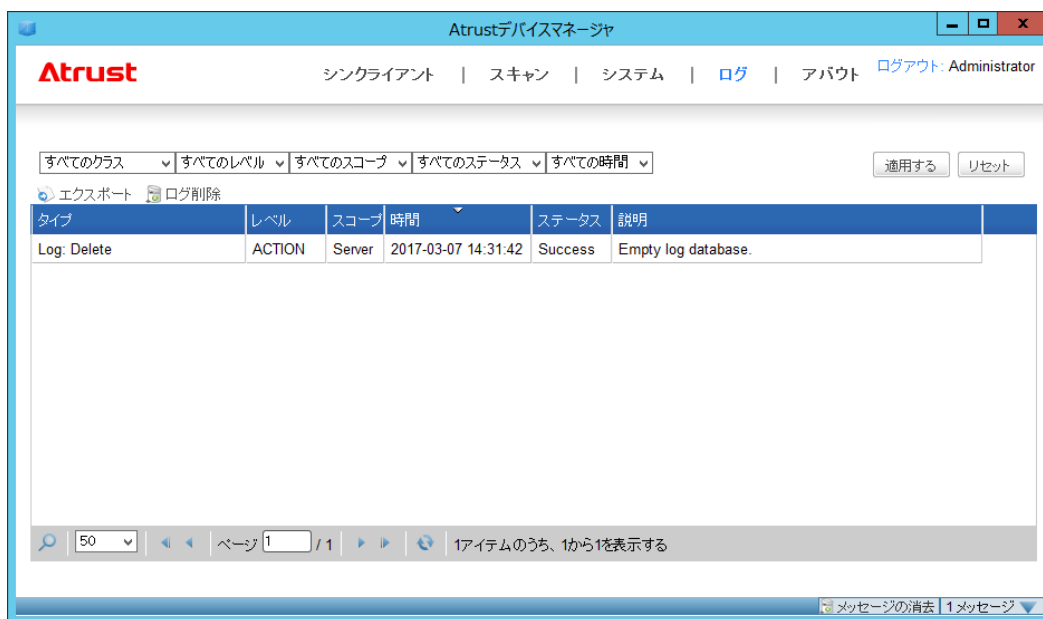


3. ログ一覧の上にある「ログ削除」をクリックします。
4. 確認のための「ログ削除」ウィンドウが表示されます。



5. 「はい」をクリックします。

6. ADM からすべてのログエントリーが削除されます。



ログを削除後、ログの削除についてのログエントリーがログ一覧に表示されます。

3.6. ソフトウェア情報の表示

3.6.1. 「アバウト」タブの概要

「アバウト」タブは、ADM と Atrust Computer Corporation に関する情報を示します。「アバウト」タブの情報にアクセスするには、ADM でこのタブをクリックします。

図 6 「アバウト」タブの概要



インターフェース要素		
番号	名称	説明
1	ナビゲーションエリア	適切な情報にアクセスする場合にクリックします。
2	情報エリア	選択した項目を表示します。

3.6.2. 使用可能なタスク一覧

番号	使用可能なタスク	参照先
1	ADM に関する情報の表示	第 3 章 3.6.3 ADM に関する情報の表示
2	Atrust への問い合わせに関する情報の表示	第 3 章 3.6.4 Atrust への問い合わせに関する情報の表示
3	Atrust ソフトウェアライセンス契約の表示	第 3 章 3.6.5 Atrust ソフトウェアライセンス契約の表示

### 3.6.3. ADM に関する情報の表示

ADM に関する情報を表示するには、以下の手順を実行してください。

1. 「アバウト」タブのナビゲーションエリアで「製品」をクリックします。
2. 情報エリアに、ADM のバージョン、サポートされているクライアントモデル、およびインポートしたファームウェアのバージョンが表示されます。

### 3.6.4. Atrust への問い合わせに関する情報の表示

Atrust への問い合わせに関する情報を表示するには、以下の手順を実行してください。

1. 「アバウト」タブのナビゲーションエリアで「連絡」をクリックします。
2. 情報エリアに、Web サイトアドレスと問い合わせ情報が表示されます。

### 3.6.5. Atrust ソフトウェアライセンス契約の表示

Atrust ソフトウェアライセンス契約を表示するには、以下の手順を実行してください。

1. 「アバウト」タブのナビゲーションエリアで「ライセンス」をクリックします。
2. 情報エリアに、Atrust ソフトウェアライセンス契約が表示されます。

## 第4章 クライアント設定の指定

この章は、クライアント設定に関する基本的な手順を示します。

### 4.1 デスクトップ仮想化とクライアント設定

デスクトップ仮想化インフラストラクチャーのエンドポイント設定

### 4.2 クライアント設定一覧

ADM で使用できるクライアント設定項目

### 4.3 グループ設定の編集

クライアントのグループが共有するプロファイル設定を編集する方法

### 4.4 個別設定の編集

1 台のクライアントにだけ適用される個別設定を編集する方法

### 4.5 ADM を使用したクライアントへのカスタム壁紙の使用方法

ADM を使用したクライアントへのカスタム壁紙を使用する方法

### 4.6 ACS を使用したクライアント設定の指定

ACS を使用したクライアント設定を指定する方法

## 4.1. デスクトップ仮想化とクライアント設定

デスクトップ仮想化は、ユーザー状態の仮想化、アプリケーションの仮想化、セッションベースの仮想化、仮想マシンベースの仮想化、さらにはハイブリッドアプローチとさまざまな形で提供されています。

NEC のシンクライアントは、さまざまなデスクトップ仮想化形式とニーズに対応しています。IT インフラストラクチャでクライアントデバイスを使用する準備を行うには、クライアント設定をカスタマイズして、デスクトップ仮想化プランの固有のニーズを満たす必要がある場合もあります。

## 4.2. クライアント設定一覧

ADM から設定可能なクライアント設定項目を以下の表に簡潔な説明として記載しています。

US310e、US120f、それぞれで設定可能な設定は一部異なります。



使用可能なタブと設定項目は、クライアントモデル、ファームウェアバージョン、オペレーティングシステムによって異なる場合があります。

### 4.2.1. US310e


ADM から US310e に対して設定可能な項目は以下の通りです。

タブ	設定	アイコン	説明
アプリケーション	リモートデスクトップ		リモートデスクトップ接続設定を指定し、リモートデスクトップの接続エントリーをローカルデスクトップに作成できます。
	Citrix ICA		Citrix ICA の接続設定を指定し、Citrix ICA 接続エントリーをローカルデスクトップに作成できます。
	VMware View		VMware View 接続設定を指定し、VMware View 接続エントリーをローカルデスクトップに作成できます。
	ウェブブラウザ		ブラウザー接続セッションをローカルデスクトップに作成できます。また、ブラウザーのグローバル設定を指定できます。
ユーザーインターフェース	デスクトップ		ローカルデスクトップに表示するアイコンを指定できます。
デバイス	USB ストレージ		USB ストレージデバイスの設定を指定できます。
	オーディオ		オーディオデバイスの設定を指定できます。
システム	パスワード		ACS へのアクセス時にパスワードを必要とする設定やシャドウの設定を指定できます。
	アプライアンスモード		アプライアンスモードの設定を指定できます。アプライアンスモードを有効にすると、クライアントは起動時に設定されたセッションに自動接続し、セッションがログオフされるとクライアントは自動でシャットダウンされます。













タブ	設定	アイコン	説明
システム	UWF		Unified Write Filter(以降 UWF と表記)設定を指定することができます。

### 4.2.2. US120f

ADM から US120f に対して設定可能な項目は以下の通りです。

タブ	設定	アイコン	説明
アプリケーション	リモートデスクトップ		リモートデスクトップ接続設定を指定し、リモートデスクトップの接続エントリーをローカルデスクトップと「スタートメニュー」に作成できます。
	Citrix ICA		Citrix ICA の接続設定を指定し、Citrix ICA 接続エントリーをローカルデスクトップと「スタートメニュー」に作成できます。
	VMware View		VMware View 接続設定を指定し、VMware View 接続エントリーをローカルデスクトップと「スタートメニュー」に作成できます。
	SSH		SSH 接続設定指定し、SSH 接続エントリーをローカルデスクトップと「スタートメニュー」に作成できます。
ユーザーインターフェース	表示		ディスプレイの設定を指定できます。
	デスクトップ		ディスプレイとシステム言語の設定を指定できます。
	キーボード		キーボードのレイアウト、キーボードの設定を指定できます。
	マウス		マウスの設定を指定できます。



タブ	設定	アイコン	説明
ユーザーインターフェース	スクリーンセーバ		スクリーンセーバーの設定を指定できます。
デバイス	USB ストレージ		USB ストレージデバイスの設定を指定できます。
	オーディオ		オーディオデバイスの設定を指定できます。
ネットワーク	Hosts		ホストサーバー名への IP アドレスのマッピングを作成し、フェイルオーバークラスター一覧を作成できます。
	ワイヤレス		ワイヤレスネットワーク設定を指定できます。
	プロキシ		プロキシ設定を指定できます。
システム	時間帯		タイムゾーンやタイムサーバーの設定を指定できます。
	パスワード		ACS へのアクセス時にパスワードを必要とする設定やシャドウの設定を指定できます。
	アプライアンスモード		アプライアンスモードの設定を指定できます。アプライアンスモードを有効にすると、クライアントは起動時に設定されたセッションに自動接続し、セッションがログオフされるとクライアントは自動でシャットダウンされます。
	オートセットアップ		オートセットアップを有効化すると、クライアントが起動時にプリセット設定を取得し、適切なユーザー環境に自動的に入ることができます。
	クイック接続		クイック接続モードの設定を指定できます。
	ターミナル		ターミナル機能の設定を指定できます。

タブ	設定	アイコン	説明
システム	詳細		自動登録の設定などの詳細設定を指定できます。

### 4.3. グループ設定の編集

ADM では、プロファイル設定用の「設定(プロファイル)」ウィンドウで、プロファイルグループのクライアント設定を編集できます。編集後はプロファイル設定で定義したクライアントのターゲットグループに「プロファイルの設定を適用」を実行することで設定を反映させることができます。



- プロファイルグループの作成について詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.9 プロファイルグループの作成」を参照してください。
- プロファイル設定用の「設定(プロファイル)」ウィンドウは、個別設定用の「設定(シンクライアント)」ウィンドウとほとんど同じ見た目となりますが、機能は異なるため注意してください。プロファイル設定用の「設定(プロファイル)」ウィンドウはプロファイル設定で定義しているクライアントすべてに設定が反映されます。それに対して個別設定用の「設定(シンクライアント)」ウィンドウは、設定を適用時、選択したクライアント 1 台にだけ設定が反映されます。

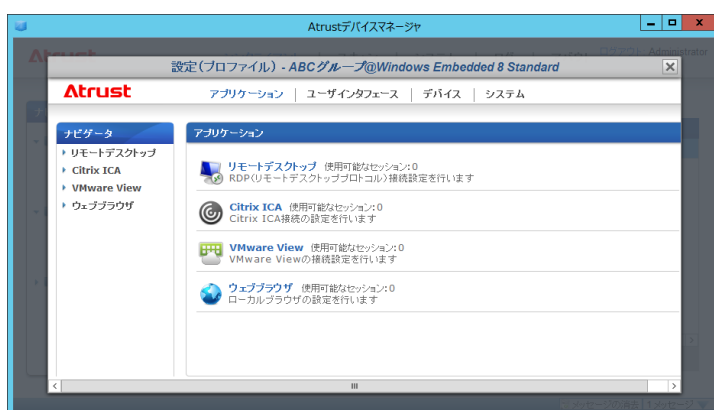
「設定(プロファイル)」ウィンドウ(グループ設定)で設定を指定するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「プロファイル」をクリックして「プロファイルグループ」ツリーを展開し、編集するプロファイル設定が登録されているプロファイルグループをクリックします。
2. 管理エリアにプロファイル一覧が表示されます。


 追加  削除  編集  設定の編集  移動  コピー				
名前	プラットフォーム	モデル	説明	クライアントの数
ABCグループ	Windows Embedded 8 Standard	US310e	ABC	0

3. 編集するプロファイル設定を選択します。
4. 「設定の編集」をクリックし、「設定(プロファイル)」ウィンドウを表示します。


5. 「設定(プロファイル)」ウィンドウで設定を編集します。



本書では例として US310e に対する「設定(プロファイル)」ウィンドウの画面を張り付けています。「設定(プロファイル)」ウィンドウに表示される設定可能な項目は US310e / US120f で一部異なります。

6. 設定を編集するには、各設定項目近くにあるグレーのアイコン(  )をクリックし、その項目を有効化します。



- 項目を有効化すると、アイコンが青色に(  )なります。
- プロファイル設定をクライアントに反映させると、アイコンが青色になっている設定については、クライアントの ACS 上で対応する設定値はロックされ、ACS で設定変更することはできなくなります。

7. 設定の編集後、設定ページの下にある「保存」をクリックし、変更した内容を保存します。

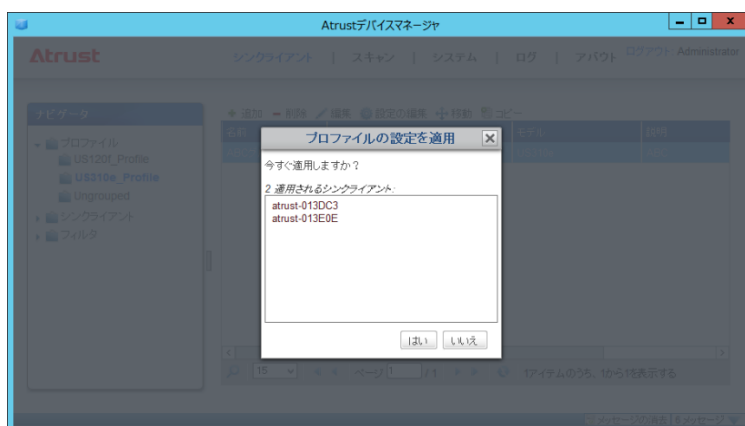
8. 手順 6.~7.を繰り返し、編集したい設定をすべて編集します。



変更した内容をクライアントに反映させるには、プロファイル設定で定義したクライアントのターゲットグループに「プロファイルの設定を適用」を実行し、設定した内容を反映する必要があります。

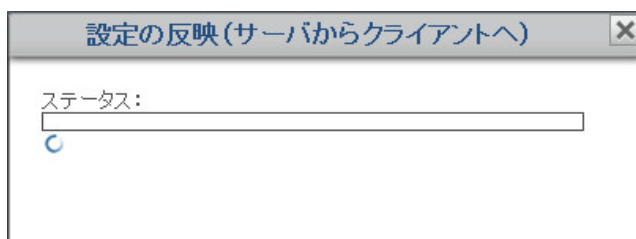
9. 編集がすべて完了したら、「設定(プロファイル)」ウィンドウを終了します。

10. 「設定(プロファイル)」ウィンドウを終了すると、「プロファイルの設定を適用」ウィンドウが表示されます。

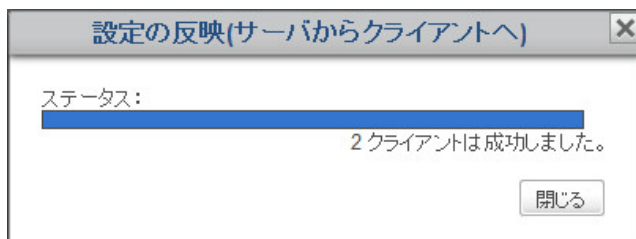


プロファイル設定を適用するクライアントとして指定されたクライアントが表示されます。プロファイル設定を適用するクライアントを指定する方法などについては、本書の「第3章 プロファイル設定の作成」を参照してください。

11. 「はい」をクリックします。
12. プロファイル設定の[設定の反映]の進捗と結果を示す「設定の反映(サーバーからクライアントへ)」ウィンドウが表示されます。



13. 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



14. プロファイル設定を反映させたクライアントの前に表示されているステータスアイコンで、クライアントのステータスを確認します。必要に応じてクライアントを再起動し、プロファイル設定の反映を完了します。



- クライアントのステータスは、ADM の「シンクライアント」タブ - 「シンクライアント」-「<対象クライアントが登録されているクライアントグループ>」で確認することができます
- クライアントのステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第 3 章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

## 4.4. 個別設定の編集

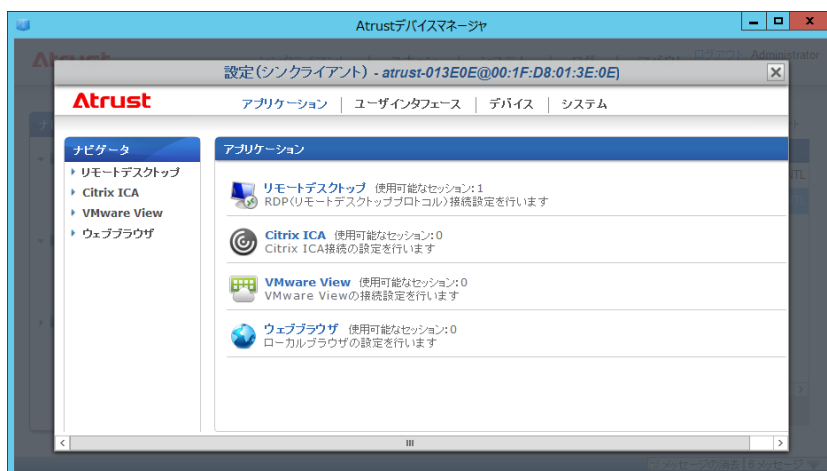
ADM では、クライアント用の「設定(シンクライアント)」ウィンドウにより、クライアントに個別設定を適用できます。編集後は、「設定の反映(サーバからクライアントへ)」機能を実行することで設定を反映させることができます。






- 個別設定の作成について詳しくは、本書の「第3章 3.4.13 個別クライアント設定の使用」を参照してください。
- 個別設定用の「設定(シンクライアント)」ウィンドウは、プロファイル設定用の「設定(プロファイル)」ウィンドウとほとんど同じ見た目となりますが、機能は異なるため注意してください。個別設定用の「設定(シンクライアント)」ウィンドウは、設定を適用時、選択したクライアント 1 台にだけ設定が反映されます。それに対してプロファイル設定用の「設定(プロファイル)」ウィンドウはプロファイル設定で定義しているクライアントすべてに設定が反映されます。

「設定(シンクライアント)」ウィンドウで設定を指定するには、以下の手順を実行してください。

1. 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアントグループ」ツリーを展開し、クライアント設定を編集するクライアントが登録されているクライアントグループを選択します。
2. 管理エリアにクライアント一覧が表示されます。
3. クライアント設定を編集するクライアントを選択します。「設定の編集」をクリックします。
4. 「設定の編集」をクリックし、「設定(シンクライアント)」ウィンドウを表示します。
5. 「設定(シンクライアント)」ウィンドウで設定を編集します。





- 各設定項目近くにある鍵アイコンが青色(  )になっている項目は「プロファイル設定」で設定されている項目となるため、「設定(シンククライアント)」ウィンドウで編集することはできません。
- 各設定項目近くにあるグレーの鍵アイコン(  )をクリックすると、その項目をロックすることができます。項目をロックすると鍵アイコンがオレンジ色(  )になります。
- クライアント設定をクライアントに反映させると、アイコンがオレンジ色になっている設定については、クライアントの ACS 上で対応する設定値はロックされ、ACS で設定変更することはできなくなります。
- 本書では例として US310e に対する「設定(プロファイル)」ウィンドウの画面を張り付けています。「設定(プロファイル)」ウィンドウに表示される設定可能な項目は US310e / US120f で一部異なります。

6. 設定の編集後、設定ページの下にある「保存」をクリックし、変更した内容を保存します。

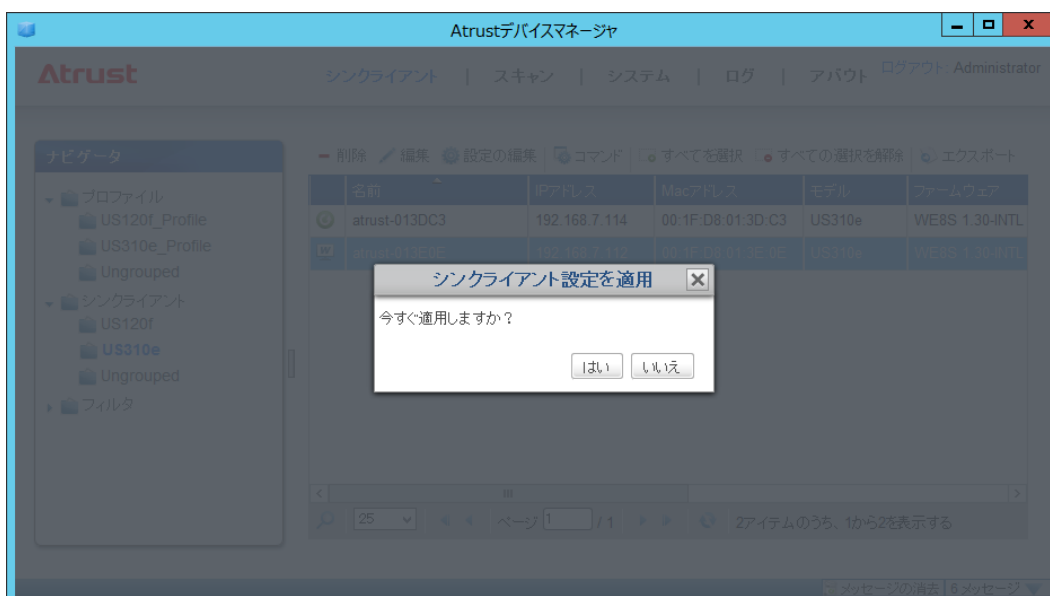
7. 手順 6.を繰り返し、編集したい設定をすべて編集します。



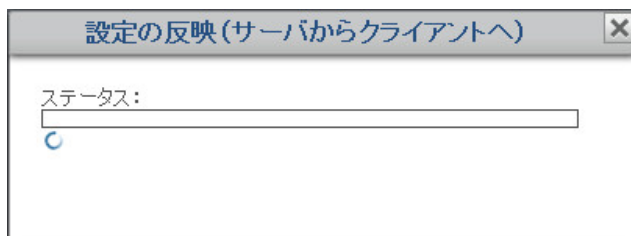
変更した内容をクライアントに反映させるには、クライアントに「シンククライアント設定を適用」を実行し、設定した内容を反映する必要があります。

8. 編集がすべて完了したら、「設定(シンククライアント)」ウィンドウを終了します。

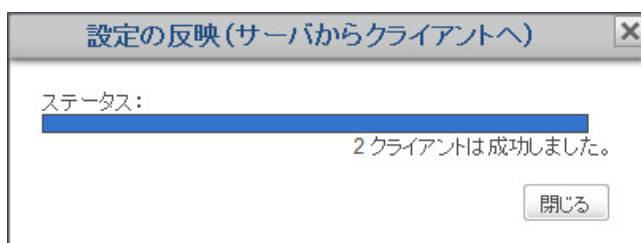
9. 「設定(シンククライアント)」ウィンドウを終了すると、「シンククライアント設定を適用」ウィンドウが表示されます。



10. 「はい」をクリックします。
11. クライアント設定の[設定の反映]の進捗と結果を示す「設定の反映(サーバーからクライアントへ)」ウィンドウが表示されます。



12. 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



13. クライアントの前に表示されているステータスアイコンで、クライアントのステータスを確認します。必要に応じてクライアントを再起動し、クライアント設定の反映を完了します。



クライアントのステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

## 4.5. ADM を使用したクライアントへのカスタム壁紙の使用方法

ADM からクライアントにカスタム壁紙を設定することができます。



US310e は、ADM からのクライアントカスタム壁紙の設定に対応していません。

ADM からクライアントにカスタム壁紙を設定するには、以下の手順を実施します。

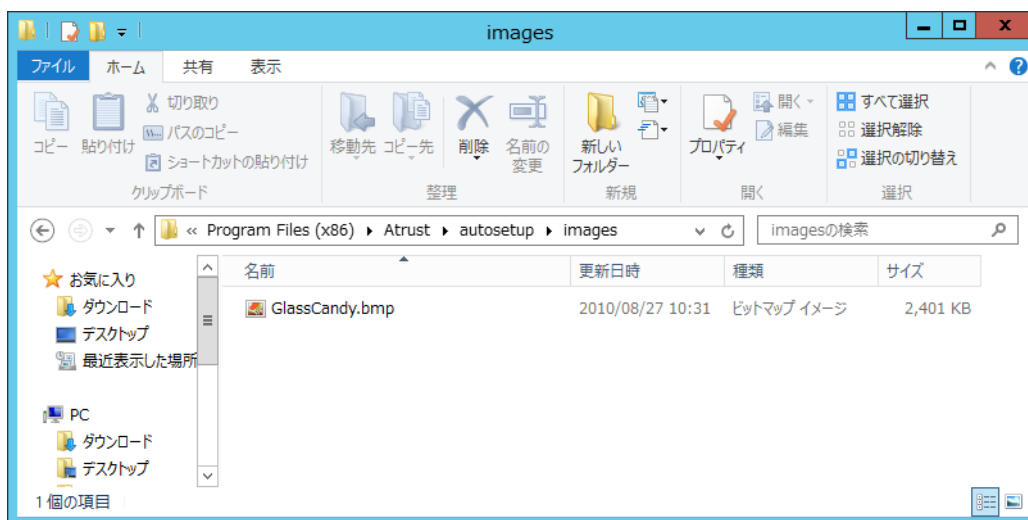
1. ADM がインストールされたコンピュータで次のパスを検索します。  
“C:¥Program Files (x86)¥Atrust¥autosetup¥images”





上記のパスは ADM をデフォルトインストールした場合のパスです。インストール時にパスを変更した場合は、適時読み替えてください。

- 壁紙として使用する画像ファイルを手順 1.のフォルダ内に格納します。



画像ファイルとしてサポートされているフォーマットは JPG、JPEG、BMP、PNG で、ファイルサイズは 5MB 以下です。

- 「シンクライアント」タブで「シンクライアント」をクリックして「クライアント」ツリーを展開し、カスタム壁紙を設定するクライアントが登録されているクライアントグループをクリックします。
- クライアント一覧が表示されます。

<div> <span>削除</span> <span>編集</span> <span>設定の編集</span> <span>コマンド</span> <span>すべてを選択</span> <span>すべての選択を解除</span> <span>エクスポート</span> </div>						
	名前	IPアドレス	Macアドレス	モデル	ファームウェア	プロファイル
	Atrust-033EB2	192.168.7.111	00:1F:D8:03:3E:B2	US120f	ARM Linux 8.43-FAKC	N/A

- カスタム設定を設定するクライアントを選択し、クライアント一覧の上にある「設定の編集」をクリックします。



複数のクライアントを選択するには、「Ctrl」を押しながらクライアントを選択します。

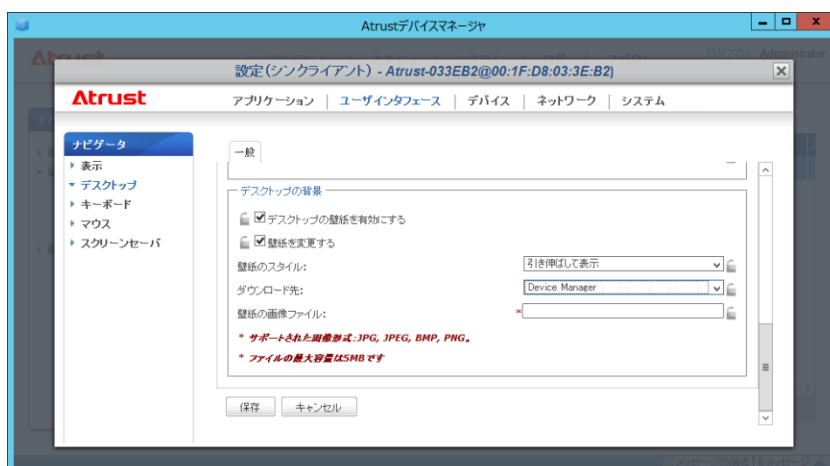
6. 「設定 (シンクライアント)」ウィンドウが表示されます。



7. 「ユーザインターフェース」-「デスクトップ」を選択し、画面をスクロールして「デスクトップの背景」セクションを表示します。



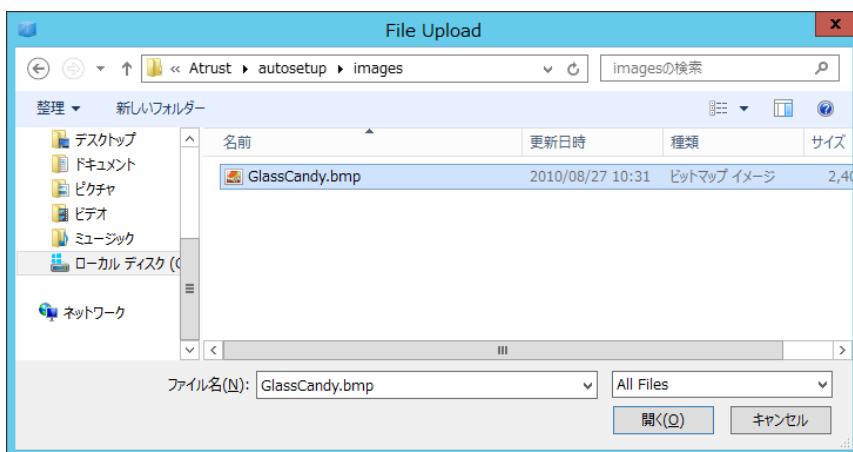
8. 「壁紙を変更する」にチェックを入れ、「ダウンロード先」に “Device Manager” を選択します。



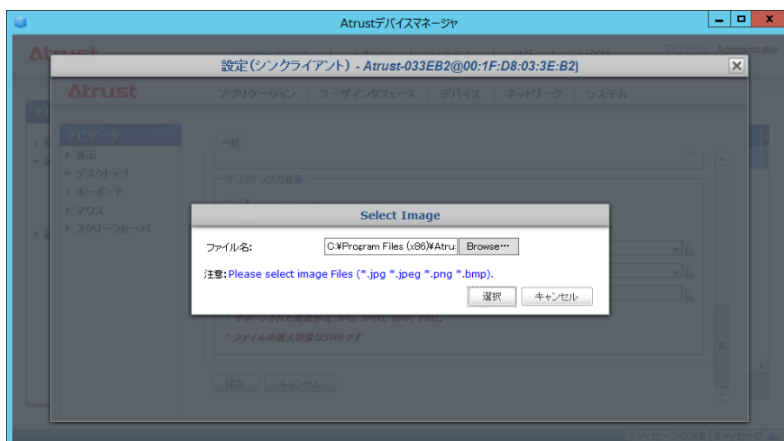
9. 「壁紙の画像ファイル」フィールドをクリックし、「Select Image」ウィンドウを表示します。



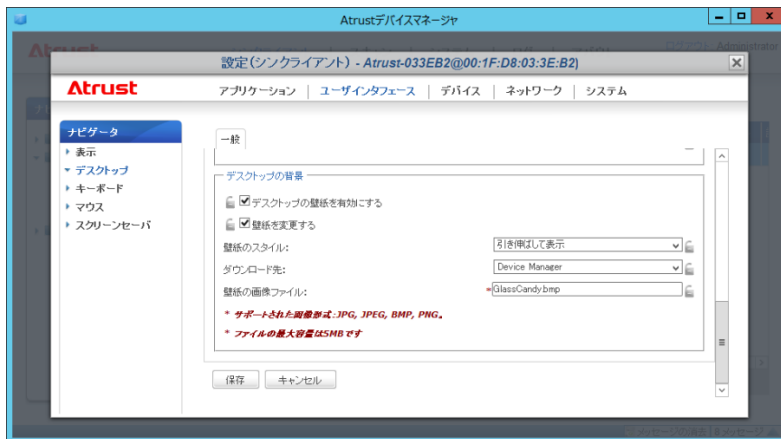
10. 「Browse…」をクリックし、手順 2.で準備した画像ファイルを選択して「開く」をクリックします。



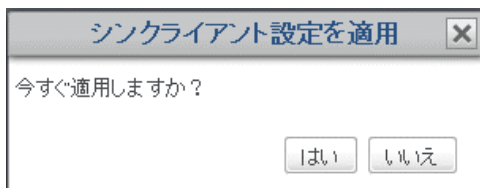
11. 「選択」をクリックします。



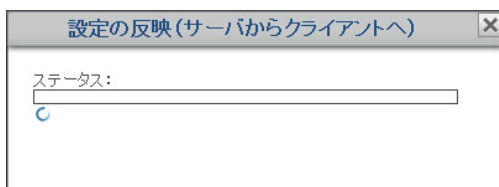
12. 選択した画像ファイルのファイル名がフィールドに反映されることを確認します。



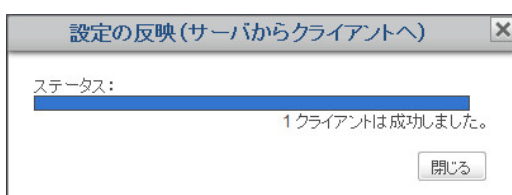
13. 「保存」をクリックします。
14. 「設定(シンククライアント)」ウィンドウを終了します。
15. 「設定(シンククライアント)」ウィンドウを終了すると、「シンククライアント設定を適用」ウィンドウが表示されます。



16. 「はい」をクリックします。
17. クライアント設定の[設定の反映]の進捗と結果を示す「設定の反映(サーバーからクライアントへ)」ウィンドウが表示されます。



18. 完了後、「閉じる」をクリックして終了します。



19. クライアントの前に表示されているステータスアイコンで、クライアントのステータスを確認します。必要に応じてクライアントを再起動し、クライアント設定の反映を完了します。



クライアントのステータスアイコンについて詳しくは、本書の「第3章 3.4.7 クライアントステータスアイコン」を参照してください。

20. クライアントに壁紙が反映されていることを確認します。



## 4.6. ACS を使用したクライアント設定の指定

ACS を使用すると、ローカルクライアント上でクライアント設定を指定できます。一部の設定は、ローカルクライアント上の ACS でだけ設定できます。

ACS を使用してローカルクライアント上でクライアント設定を指定する方法について詳しくは、使用しているシンクライアントのユーザーズガイドを参照してください。

## 第5章 ADM の応用的な使い方

この章は、ADM の応用的な使い方を示します。

### 5.1 オートセットアップのファイルサーバーとして利用する

オートセットアップのファイルサーバーとして利用する

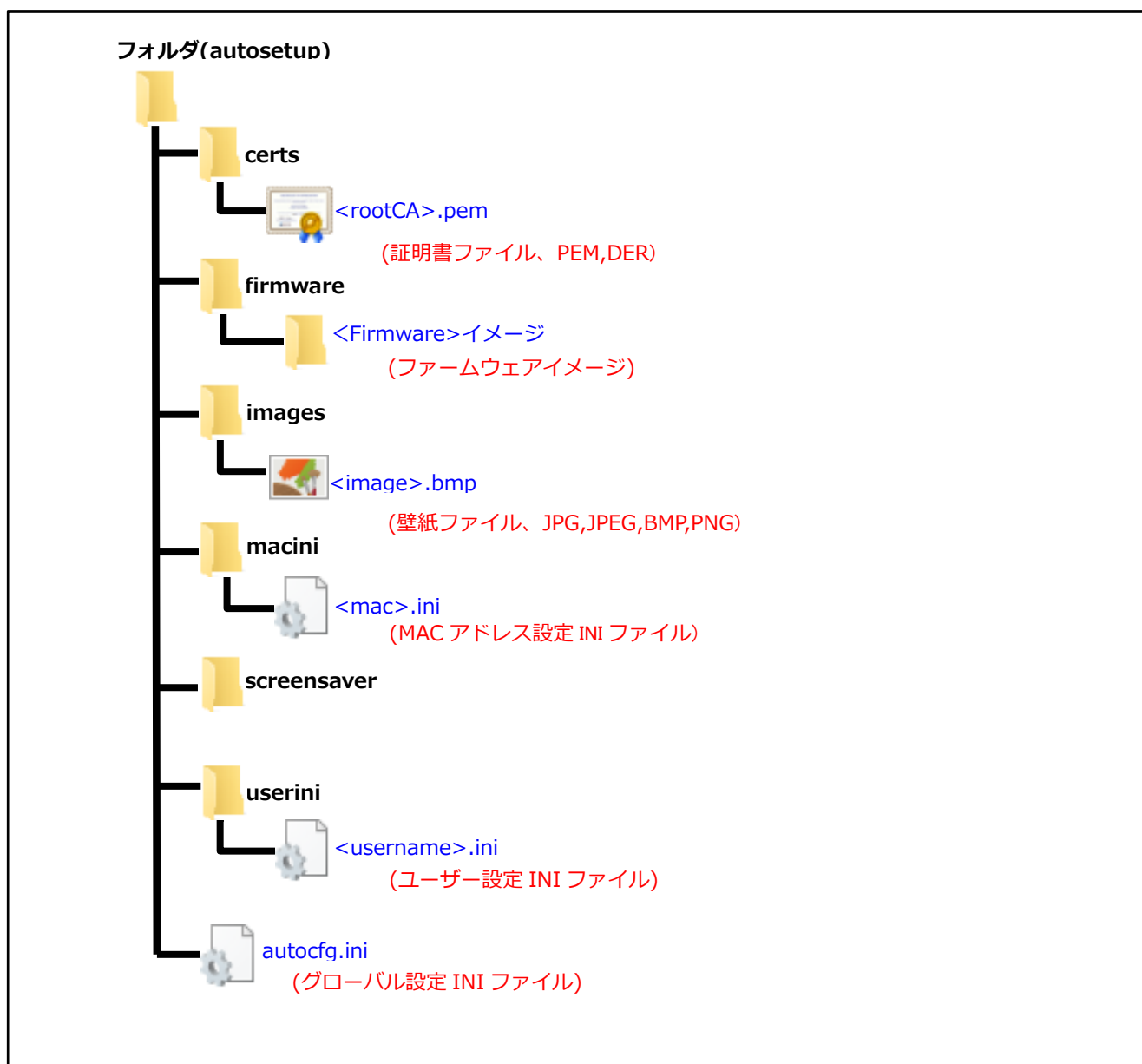
## 5.1. オートセットアップのファイルサーバーとして利用する

ADM をオートセットアップのファイルサーバーとして利用することができます。



オートセットアップは US120f でサポートされます。US310e では使用することはできません。オートセットアップについての詳細は、US120f ユーザーズガイドの「第 3 章 2.オートセットアップ」を参照してください。

ADM をオートセットアップのファイルサーバーとして利用するには、「autosetup」フォルダ配下に設定 INI ファイルなどを事前に格納しておく必要があります。以下は「autosetup」フォルダ配下の構成例です。





「autosetup」フォルダと配下のフォルダは ADM インストール時に自動で作成されます。デフォルトではフォルダの場所は "C:¥Program Files (x86)¥Atrust¥autosetup¥" です。ADM インストール時にパスを変更している場合は、適時読み替えてください。



オートセットアップを利用する場合、autocfg.ini(グローバル設定 INI ファイル)は必須です。

ADM をオートセットアップのファイルサーバーとして利用するには、以下の手順を実施します。



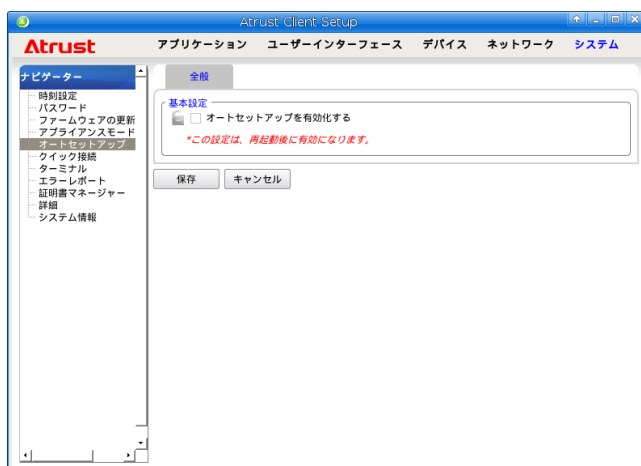
オートセットアップと ADM からクライアント設定の反映を同時に使用しないでください。オートセットアップを利用中の US120f に対して ADM からクライアント設定の適用を行っても、オートセットアップの設定が優先されます。

1. ADM サーバーに管理者アカウントでサインインします。
2. 「autosetup」フォルダ配下に、オートセットアップに必要なファイルを格納します。
3. 手順 2.で必要なファイルを格納後、US120 f の ACS を起動します。



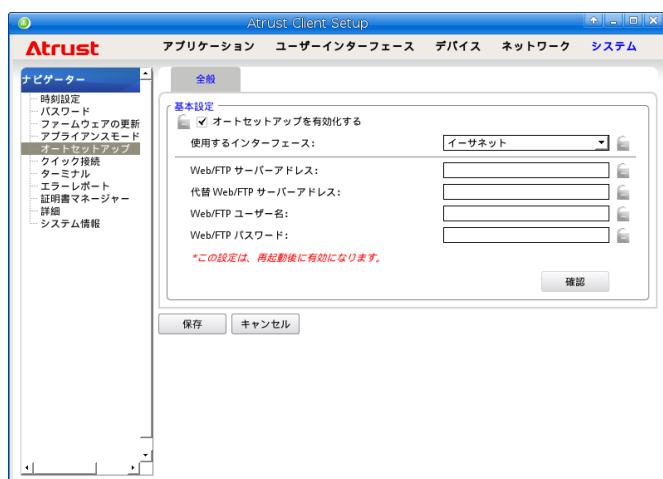
手順 3.~9.の設定は ADM のグループ設定、個別設定を編集してクライアントに設定を反映することでも設定することができます。グループ設定の編集については、本書の「第 4 章 4.3 グループ設定の編集」を参照してください。個別設定の編集については、本書の「第 4 章 4.4 個別設定の編集」を参照してください。

4. 「システム」-「オートセットアップ」を選択します。

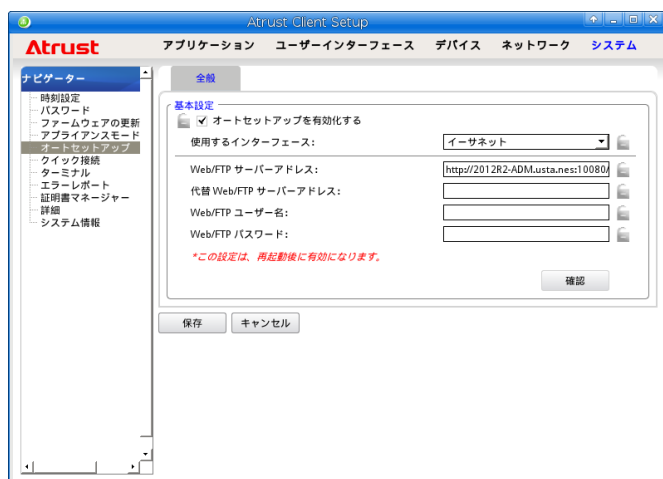




5. 「オートセットアップを有効化する」にチェックを入れます。

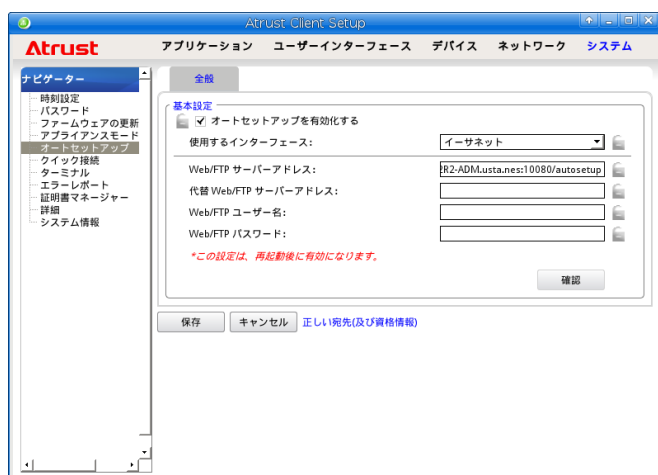


6. 「使用するインターフェース」を選択し、「Web/FTP サーバアドレス」に ADM のサーバアドレスを入力します。

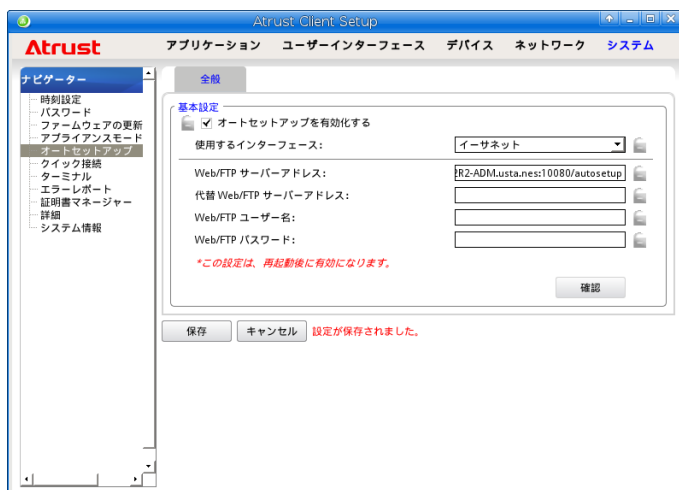


- ADM のサーバアドレスを入力する時のフォーマットは("http://<Server FQDN>:10080/autosetup">)です。
- ADM をファイルサーバーとして利用する場合は「Web/FTP ユーザー名」、「Web/FTP パスワード」に何も入力しないでください。

7. 「確認」をクリックし、入力した値に問題がないことを確認します。



8. 「保存」をクリックします。



9. ACS を終了し、US120f を再起動します。
10. 再起動後、US120f はオートセットアップのファイルサーバーとして ADM を参照するようになります。

## 第6章 注意・制限事項

この章は、ADM の注意・制限事項を示します。

### 6.1 ADM と ACS 設定の同期

ADM と ACS 間の設定の同期に関する注意事項

### 6.2 管理登録とその解除

ACS の管理状態の登録と解除方法に関する注意事項

### 6.3 スナップショット取得およびインストールの注意事項

スナップショットの取得およびインストールに関する注意事項

### 6.4 ファームウェアアップデート/スナップショットインストールの注意事項

ファームウェアアップデートとスナップショットインストールの注意事項

### 6.5 ADM 管理コンソールへのアクセスの注意事項

Web ベースの ADM 管理コンソールへのアクセスの注意事項

### 6.6 VNC(リモートシャドウ)の注意事項

VNC(リモートシャドウ)の使用に関する注意事項

### 6.7 ADM サーバーのバックアップと復元に関する注意事項

ADM サーバーのバックアップと復元に関する注意事項

### 6.8 制限事項

ADM 使用時の制限事項、既知問題

## 6.1. ADM と ACS 設定の同期

管理者が ADM からのリモート操作ではなく、シンクライアント上で ACS 設定を変更した場合、ADM と ACS 間で設定内容が不一致になります。ADM は ACS と通信時に自動的に設定を更新しません。管理者は ACS 設定を変更したシンクライアントに対して ADM 管理コンソールから「設定の取得(クライアントからサーバー)」を実行し、設定を同期する必要があります。

## 6.2. 管理登録とその解除

ACS がインストールされたシンクライアントは、ADM サーバーに管理登録されると管理ステータスが有効になり他の ADM サーバーから検出できない状態になります。これは悪意あるサーバーからアクセスできないようにするためのセキュリティ上の仕様です。シンクライアントが ADM サーバーの管理対象として登録されていない場合、意図しない悪意あるサーバーから検出され、設定を変更される可能性があります。そのため、本番環境のシンクライアントは必ず ADM サーバーの管理対象として登録された状態(ADM サーバーから検出された状態)にしてください。

管理登録を解除するには、管理登録済みの ADM サーバーからシンクライアントを「削除」するか、シンクライアント上で「Reset Mode」を実行します。「Reset Mode」については各シンクライアントのユーザーズガイドを参照してください。また US120f では、「Disconnect from ADM」を実行することで、ACS の設定を初期化することなく ADM の管理登録のみを解除することができます。「Disconnect from ADM」については US120f のユーザーズガイドを参照してください。



- キット環境などの閉じられた環境で ADM サーバー(キット環境用)を使用し、クライアント設定(ACS)を完了させてから本番環境の ADM(本番用)へ移行する場合には注意が必要です。この場合、必ずキット環境用 ADM サーバーからクライアントの登録を削除し、管理登録を解除してから本番用 ADM サーバーのネットワークに接続してください。管理登録を解除しない場合は、本番用 ADM サーバーにシンクライアントを登録できません。また「Reset Mode」を使用すると管理ステータスだけでなく ACS 設定がすべて初期化されることに注意が必要です。

本番用 ADM サーバーではクライアントを登録してから、「設定の取得(クライアントからサーバーへ)」を実行します。これにより、シンクライアントの ACS 設定が ADM サーバーに同期されます。「設定の反映(サーバーからクライアントへ)」を実行すると、シンクライアントの ACS 設定が ADM サーバー側の設定に上書きされることに注意してください。

- US120f を使用されている場合は、「パスワード保護されたデバイスを含むスキャン」の方法で、キット環境で ADM サーバーからクライアント登録を削除することなく、本番用 ADM サーバーに US120f を登録することができます。



- クライアントがオフラインの状態、ADM 上からクライアントを「削除」しても ACS の管理登録は解除されません。その場合は、クライアント上で「Reset Mode」を実行する必要があります。US120f では、「Disconnect from ADM」を実行することで、ACS の設定を初期化することなく ADM の管理登録のみを解除することができます。「Disconnect from ADM」については US120f のユーザーズガイドを参照してください。

- クライアント上で「Reset Mode」を実行しても、ADM 側の登録情報は更新されません。管理者は ADM 側で登録解除したシンクライアントを「削除」する必要があります。

## 6.3. スナップショット取得およびインストールの注意事項

スナップショットを使用すると、組織内で再使用できるカスタマイズされた OS イメージを取得/インストールすることができます。ここではスナップショットの取得およびインストールする際の注意事項を示します。



- 無線 LAN 環境ではスナップショットの取得およびインストールはできません。
- US120f はスナップショットの取得およびインストールを使用できません。

### 6.3.1. スナップショットの種類

スナップショットインストール時にシステム準備ツール(sysprep)が実行されます。システム準備ツールが実行されると、SID などの端末固有の情報は初期化され、マスターイメージとして複数の端末にインストールできます。



ADM2.08.045 以降ではスナップショットの種類から「バックアップ」が削除されました。

### 6.3.2. スナップショットインストール時のデフォルトユーザーアカウント別動作

スナップショットインストール時には、管理者ユーザーである Administrator アカウントは再作成されるため、プロファイル(ファイル、ショートカット、フォルダーなどのデスクトップのアイテム、マイドキュメント、お気に入り等)は全て初期化されます。そのため、スナップショット取得前に変更した Administrator アカウントのプロファイルはスナップショットインストール後に反映されません。

User アカウントに関しては、スナップショット取得前に変更したプロファイルを保持しますが一部例外があります。入力言語、表示言語、形式、場所、ユーザーロケール、システムロケールなどの地域と言語設定、およびタイムゾーンの変更は保持されずに初期化されます。これらの設定をスナップショットインストール後も保持したい場合は Windows セットアップ応答ファイル(C:\\$Windows\$Panther\$unattend.xml)を使用する必要があります。unattend.xml は Windows セットアップ用の応答ファイルです。この応答ファイルを使用すると、Windows の既定の設定を構成できます。

以下は unattend.xml を編集し、スナップショットインストール後も地域と言語およびタイムゾーンの変更を保持するための手順です。

1. 管理者(Administrator)アカウントでサインインし、UWF を無効にします。
2. 標準ユーザー(User)アカウントでサインインします。
3. 入力言語、表示言語、形式、場所、ユーザーロケール、システムロケールなどの地域と言語設定、およびタイムゾーンをシンクライアントに設定します。表示言語の設定が必要な場合は、言語パックをインストールしてください(インターネット環境が必要)。設定によってはサインアウト、再起動が必要になります。設定完了後にすべての設定が正常に反映されていることを確認してください。

4. 管理者(Administrator)アカウントでサインインします。
5. 応答ファイル(C:\¥Windows¥Panther¥unattend.xml)をメモ帳で開き、下記要素の値を編集します。下記の値は日本語 OS の既定値です。使用したいタイムゾーン(例えば、Eastern Standard Time、Romance Standard Time)と言語コードを指定します。言語は ISO-639 言語コードであり、使用される地域は(例えば、en-US、fr-FR、または es-ES) ISO 3166-1 国または地域識別子です。

```
<TimeZone>Tokyo Standard Time</TimeZone>
```

```
<InputLocale>ja-jp</InputLocale>
```

```
<SystemLocale>ja-jp</SystemLocale>
```

```
<UILanguage>ja-jp</UILanguage>
```

```
<UILanguageFallback>ja-jp</UILanguageFallback>
```

```
<UserLocale>ja-jp</UserLocale>
```

6. UWF を有効にし、スナップショットを取得します。

### 6.3.3. ドメイン参加について

ドメインに参加しているクライアントは、スナップショットを取得できません。スナップショットはインストール時にシステム準備(Sysprep)ツールを実行します。Sysprep を使用すると、インストール済みの Windows イメージから、コンピューターのセキュリティ識別子(SID)などのシステム固有の情報をすべて削除します。Sysprep ツールが実行されるのは、コンピューターがドメインのメンバーではなく、ワークグループのメンバーである場合だけです。クライアントがドメインに参加している場合は、ドメインから削除した後でスナップショットを取得してください。



US120f をドメイン環境に参加させることはできません。



## 6.4. ファームウェアアップデート/スナップショットインストールの注意事項

ファームウェアアップデート/スナップショットのインストールの注意事項を示します。

### 6.4.1. ACS 設定の保持

ファームウェアアップデートとスナップショットのインストールには ACS 設定の保持に以下の違いがあることに注意してください。

#### ファームウェアアップデート後の ACS 設定

ファームウェア配信先のシンクライアントの ACS 設定を引き継ぎます。

#### スナップショットインストール後の ACS 設定 (US310e のみ)

スナップショットを取得したシンクライアントの ACS 設定を引き継ぎます。

### 6.4.2. アクティベーション(ライセンス認証)の解除 (US310e のみ)

工場出荷時のクライアントはアクティベート済みの状態ですが、クライアントを ADM もしくは Atrust Device USB Disk Creator を使用してファームウェアイメージをアップグレードまたはスナップショットをインストールした場合は、アクティベーション(ライセンス認証)が必要になることに注意が必要です。アクティベーションの方法についてはクライアントのユーザーズガイドを参照してください。



US120f は、アクティベーションを行う必要はありません。

## 6.5. ADM 管理コンソールへのアクセスの注意事項

ADM は Apache HTTP Server 上で動作する Web ベースのアプリケーションです。そのサイトへは prism を使用してアクセスします。prism は Web アプリケーションをローカルアプリケーションのように使用でき、さらにブラウザのクラッシュや再起動から隔離してくれます。デスクトップ上に作成される prism ショートカット(ADM ショートカット)から ADM 管理コンソールを簡単に起動できます。

ADM サイトは HTTPS で構成されており、そのサイトへ Web ブラウザからアクセスした場合、トップページ(ログイン画面)へはアクセスできますが、アクセス制限されているため ADM 管理コンソールにログインすることはできません。Web ブラウザからの管理コンソールへのアクセスはサポートされないことに注意してください。

## 6.6. VNC(リモートシャドウ)の注意事項

VNC(リモートシャドウ)は便利である反面、セキュリティへの配慮が必要です。リモートシャドウを有効にすると、パスワードさえ知っていれば、ADM からの接続だけでなく、他の VNC クライアントソフトウェアから接続が可能です。そのため、ファイアーウォールの内側だけで使用する、また必要ない時は VNC を無効化するなどのセキュリティ対策が必要です。



ADM からリモートシャドウする場合、セッション上でキーボードの漢字キーを使用して日本語入力モードに切り替えることはできません。日本語入力モードに切り替えるには、タスクトレイの IME メニューをマウスクリックする等で、入力モードを切り替えてください。

## 6.7. ADM サーバーのバックアップと復元に関する注意事項

ADM サーバーのバックアップと復元に関する注意事項を示します。

### 6.7.1. データベースバックアップとファームウェアイメージおよびパッケージのバックアップ

ADM サーバーが何らかのトラブルにより故障し、新しく ADM サーバーを設置しなければならない場合、ADM サーバーを復元するには下記のバックアップファイルが必要です。

- データベースバックアップアーカイブファイル
- ファームウェアファイル
- スナップショットファイル
- パッケージファイル

ファームウェアファイルおよびパッケージファイルは、ADM サーバーにインポートする前に、ファイルを別のコンピューターに保存するなどの方法で保管してください。データベースバックアップアーカイブファイルについては定期的に、スナップショットについては取得したタイミングなど適切なポイントで各ファイルを ADM サーバーからエクスポートし、ファームウェアファイルおよびパッケージファイルと同様に別のコンピューターに保管してください。

エクスポートの方法については本書の下記項を参照してください。

- 「第 3 章 3.2.6 クライアントスナップショットの管理」
- 「第 3 章 3.2.15 管理データベースのバックアップ」
- 「第 3 章 3.2.16 データベースアーカイブファイルの管理」

### 6.7.2. ADM サーバーの復元

新しい ADM サーバーに本書の「第 5 章 5.7.1 データベースバックアップとファームウェアイメージおよびパッケージのバックアップ」で退避したファイルをインポートして復元します。新しい ADM サーバーのコンピューター名、IP アドレスは旧 ADM サーバーと同一である必要はありません。

各ファイルの復元(インポート)方法については本書の下記項を参照してください。

- 「第 3 章 3.2.4 シンククライアントのファームウェアファイルの管理」
- 「第 3 章 3.2.5 WES パッケージファイルの管理」
- 「第 3 章 3.2.6 クライアントスナップショットの管理」
- 「第 3 章 3.2.17 データベースアーカイブファイルの復元」

## 6.8. 制限事項

各種制限事項を以下に示します。

### 6.8.1. ADM の制限事項

1. ADM のデータベースソース設定で外部管理データベースを指定する場合、既存 ADM サーバーのデータベースを指定することはできません。複数の ADM サーバーが 1 つのデータベースを参照する運用はできません。
2. ADM の[配置サーバー]に[外部サーバーを使用]を指定する場合、URL に https(SSL)を指定することはできません。
3. ネットワーク上の共有フォルダーへのファームウェアおよびパッケージの登録はできません。
4. US310e のスナップショットをエクスポートする場合には、ディスクサイズの空き容量を 20GB 以上確保してください。スナップショットイメージファイルの圧縮およびファイルコピーと、システムを安定稼働させるには十分なディスクサイズの空き容量が必要になります。
5. ADM を VMware ESXi の仮想マシン上に構築して ADM から US310e にファームウェアのアップデートまたはスナップショットのインストールを行うと、ネットワークの遅延が発生してイメージファイルのダウンロードに失敗する場合があります。この場合、VMware ESXi の仮想 NIC のフロー制御を無効に設定にすることで改善する可能性があります。

VMware ESXi の仮想 NIC のフロー制御を無効に設定にする方法については、以下のナレッジを参照してください。

VMware ESXi および VMware ESX 上のフロー制御を構成する

<http://kb.vmware.com/kb/2079125>

6. ADM のデータベースをアーカイブして、別の ADM で復元すると「設定の取得(クライアントからサーバへ)」、「設定の反映(サーバからクライアントへ)」機能が正常に動作しません。
7. 配置サーバーの設定で「ファームウェア」を「外部サーバーを使用」に設定した状態でファームウェアのインポートを行うと、インポートに成功したという旨のメッセージは表示されますが、実際には一部のファイルのインポートに失敗しています。
8. クライアントグループの削除で、グループ内にクライアントが 1 件も登録されていない状態でも以下のメッセージが表示されます。

【メッセージ内容】

'<クライアントグループ名>'にはアイテムが含まれています。

全てを Ungrouped'に移動するか、全てを削除するか選択してください？

9. プロファイルグループの削除で、グループ内にクライアントが 1 件も登録されていない状態でも以下のメッセージが表示されます。  
【メッセージ内容】  
'<プロファイルグループ名>'にはアイテムが含まれています。  
全てを Ungrouped'に移動するか、全てを削除するか選択してください？
10. 再起動が必要な設定が含まれているプロファイル設定をクライアントに反映し、クライアントの再起動を行った後もクライアントステータスのアイコンに要再起動(🔄)が表示されたままとなる場合があります。クライアントステータスのアイコンが更新されるまでにしばらく時間が掛かります。

### 6.8.2. US310e の制限事項

1. ADM からファームウェアアップグレードまたはスナップショットインストール中に、電源断、ネットワーク切断などの理由でイメージ配信が中断してしまった場合は、OS が起動できなくなります。そのため ADM からリモート操作によりイメージを再配信することはできません。その場合は、クライアント起動時に「Esc」キーを押し、「NEC Thin Client Menu」を起動し、メニュー内の「Firmware Update」を選択してクライアントから ADM サーバーの IP アドレスを指定することでファームウェアを復元することができます。ADM サーバーアドレスには DNS 名は使用できません。また、Atrust Recovery USB Disk Creator を使用してデバイスイメージを復元することも可能です。詳細については US310e のユーザーズガイドを参照してください。



ADM 既定のサーバーパスには ADM サーバーの IP アドレスを指定します。

2. ADM/ACS で Citrix ICA 接続ショートカットを作成時に、「接続の設定」-「ネットワークプロトコル」を SSL/TLS+HTTPS server location を設定するとセッションの接続に失敗します。
3. XenDesktop 7 以降に接続する Citrix ICA セッションでは、XenDesktop の仕様により、“RC5 128 ビット（ログインのみ）”、“RC5 40 bit”、“RC5 56bit”の暗号化は使用できません。ADM/ACS では、Citrix ICA セッション追加／編集時のオプションの設定で、暗号化に“RC5 128 ビット（ログインのみ）”、“RC5 40 bit”、“RC5 56bit”、“RC5 128bit”が使用可能ですが、XenDesktop 7 以降に暗号化を設定して接続する場合、“RC5 128bit”を使用し“RC5 128 ビット（ログインのみ）”、“RC5 40 bit”、“RC556bit”は使用しないでください。
4. ADM および ACS の Citrix ICA セッション追加／編集時のオプション設定で、「Window サイズ」に[デフォルト]以外を設定した場合、Citrix ICA セッションに DesktopViewer ツールバー が表示されません。DesktopViewer ツールバーを表示するには、「Window サイズ」に[デフォルト]を設定するか、Citrix Receiver を使用して Citrix ICA セッションへ接続してください。

### 6.8.3. US120f の制限事項

ADM からファームウェアアップグレード中に、電源断、ネットワーク切断などの理由でイメージ配信が中断してしまった場合は、OS が起動できなくなります。そのため ADM からリモート操作によりイメージを再配信することはできません。その場合は、クライアント起動時に「Esc」キーを押し、「NEC Thin Client Menu」を起動し、メニュー内の「Firmware Update」を選択してクライアントから ADM サーバーの IP アドレスを指定することでファームウェアを復元することができます。ADM サーバーアドレスには DNS 名は使用できません。また、USB メモリを使用してデバイスイメージを復元することも可能です。詳細については US120f のユーザーズガイドを参照してください。

[× 毛]



Atrust Device Manager 2.08.049 ユーザーズガイド

2017 年 3 月 初版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号

TEL (03) 3454-1111 (大代表)

© NEC Corporation 2017

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。